

令和 8 年 度

三重県立高等学校入学者選抜実施要項

三重県立特別支援学校入学者募集要項

三 重 県 教 育 委 員 会

令和 8 年度 三重県立高等学校 入学者選抜実施日程

※ Web出願システムによる入学願書等の入力期間等は、巻末の「実施日程（詳細）」に示す。

○ 全日制課程及び定時制課程

月日（曜日）	全 日 制 課 程	定 時 制 課 程
1月23日（金）	前期選抜・連携型中高一貫教育に係る選抜・特別選抜・スポーツ特別枠選抜出願書類受付開始	
1月27日（火）	前期選抜・連携型中高一貫教育に係る選抜・特別選抜・スポーツ特別枠選抜出願書類受付締切	
2月 3日（火） 4日（水）	前期選抜・連携型中高一貫教育に係る選抜・特別選抜・スポーツ特別枠選抜の検査 ※ 日程等の詳細は各高等学校が指定する。	
2月10日（火）	前期選抜・連携型中高一貫教育に係る選抜・特別選抜・スポーツ特別枠選抜の追検査	
2月13日（金）	前期選抜・連携型中高一貫教育に係る選抜・特別選抜・スポーツ特別枠選抜合格内定通知 後期選抜募集人数発表	
2月24日（火）	後期選抜出願書類受付開始	
2月25日（水）		後期選抜出願書類受付締切
2月26日（木）	後期選抜出願書類受付締切	
3月 3日（火）	志願変更書類受付開始	
3月 4日（水）		志願変更書類受付締切
3月 5日（木）	志願変更書類受付締切	
3月10日（火）	後期選抜の検査	
3月17日（火）	合格者発表（前期選抜・連携型中高一貫教育に係る選抜・特別選抜・スポーツ特別枠選抜を含む。） 再募集公告	
3月18日（水）	追検査・再募集出願書類受付開始	
3月19日（木）	追検査・再募集出願書類受付締切	
3月23日（月）	追検査・再募集の検査	
3月25日（水）	追検査・再募集合格者発表	
		追加募集公告 追加募集出願書類受付開始
3月26日（木）		追加募集出願書類受付締切
3月27日（金）		追加募集の検査
3月31日（火）		追加募集合格者発表

注1 表中の「連携型中高一貫教育に係る選抜」は、飯南高等学校で実施する選抜を示す。

2 表中の「特別選抜」は、あけぼの学園高等学校、四日市工業高等学校（定時制課程）、北星高等学校、飯野高等学校（定時制課程）、みえ夢学園高等学校、伊勢まなび高等学校で実施する選抜を示す。

○ 通信制課程

月日（曜日）	前期選抜	月日（曜日）	後期選抜	月日（曜日）	再募集
1月23日（金）	出願書類受付開始	2月24日（火）	出願書類受付開始	3月25日（水）	出願書類受付開始
1月27日（火）	出願書類受付締切	2月25日（水）	出願書類受付締切	3月26日（木）	出願書類受付締切
2月 3日（火） 4日（水）	検査※日程等の詳細は高等学校が指定する。	3月 3日（火）	志願変更書類受付開始	3月27日（金）	検査
2月10日（火）	追検査	3月 4日（水）	志願変更書類受付締切	3月31日（火）	合格者発表
2月13日（金）	合格内定通知	3月10日（火）	検査		
		3月17日（火）	合格者発表		
		3月23日（月）	追検査		
		3月25日（水）	追検査の合格者発表		

令和 8 年度 三重県立特別支援学校 入学者選考実施日程

月日（曜日）	選 考	月日（曜日）	再 募 集
1月23日（金）	願書等受付開始	2月24日（火）	願書等受付開始
1月27日（火）	願書等受付締切	2月26日（木）	願書等受付締切
2月 4日（水）	選考	3月18日（水）	選考
2月10日（火）	追選考	3月19日（木）	合格者発表
2月13日（金）	合格者発表		

※ 出願にあたっては、令和8年1月22日（木）までに、出願を希望する学校において教育相談を必ず受けること。

目 次

令和8年度三重県立高等学校入学者選抜実施要項

I 全日制・定時制課程入学者選抜実施要項

第1 共通

1	募集	1
2	調査書等の作成	4
3	選抜	5
4	その他	6

第2 前期選抜

1	募集	7
2	検査	8
3	追検査	8
4	選抜方法	9
5	合格内定者の決定	9
6	合格内定の通知	9
7	合格者の発表	9
8	合格内定とならなかった者の後期選抜への応募	10
9	その他	10

第3 後期選抜

1	募集	11
2	検査	13
3	選抜方法	14
4	合格者の決定	15
5	合格者の発表	15
6	入学辞退	15
7	追検査	15
8	夜間定時制課程における外国人生徒等の選抜	16
9	その他	16

第4 再募集・追加募集

1	全日制課程及び昼間定時制課程の再募集	17
2	夜間定時制課程の再募集	18
3	夜間定時制課程の追加募集	19
4	夜間定時制課程における外国人生徒等の再募集及び追加募集	20
5	その他	21

第5 連携型中高一貫教育に係る選抜

1	募集	22
2	検査	22
3	追検査	22
4	選抜方法	23
5	合格内定者の決定	23
6	合格内定の通知	23
7	合格者の発表	23
8	合格内定とならなかった者の後期選抜への応募	23

共通

前期選抜

後期選抜

追加募集・
再募集

中高一貫

特別選抜

海外帰国生徒・
外国人生活特別枠

スポーツ
特別枠選抜

通信制課程

秋期選抜

専攻科

付

別表1

別表2

別表3

別表4

別表5

別表6

別表7

特別支援学校

第6 特別選抜

1	募集	-----	24
2	検査	-----	26
3	追検査	-----	26
4	選抜方法	-----	27
5	合格内定者の決定	-----	27
6	合格内定の通知	-----	27
7	合格者の発表	-----	27
8	合格内定とならなかった者の後期選抜への応募	-----	27

第7 海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜

1	応募資格	-----	28
2	提出書類	-----	28
3	募集人数	-----	28
4	前期選抜	-----	29
5	後期選抜	-----	30

第8 スポーツ特別枠選抜

1	募集	-----	32
2	検査	-----	33
3	追検査	-----	33
4	選抜方法	-----	33
5	合格内定者の決定	-----	34
6	合格内定の通知	-----	34
7	合格者の発表	-----	34
8	合格内定とならなかった者の後期選抜への応募	-----	34
9	その他	-----	34

Ⅱ 通信制課程入学者選抜実施要項

1	募集	-----	36
2	前期選抜	-----	37
3	後期選抜	-----	38
4	再募集	-----	40
5	その他	-----	41

Ⅲ 秋期入学者選抜実施要項

1	募集	-----	42
2	検査	-----	43
3	選抜	-----	43
4	合格者の発表	-----	43
5	追検査	-----	43
6	再募集	-----	44

Ⅳ 専攻科入学者選抜実施要項

1	募集	-----	45
2	面接検査	-----	46
3	選抜	-----	46
4	合格者の発表	-----	46

(付)

・	令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等 取扱要項	-----	47
・	保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項	-----	50
・	三重県立高等学校通学区域に関する規則（抜粋）	-----	53
・	三重県立高等学校の所在地	-----	56
・	令和8年度三重県立高等学校入学志願者の個人情報取扱要項	-----	57

＜別表1＞	令和8年度三重県立高等学校入学者選抜に関する各高等学校別実施 要項	-----	58
-------	--------------------------------------	-------	----

＜別表2＞	令和8年度三重県立高等学校入学者選抜で前期選抜を実施する高等 学校の「学校の特色」「選抜において重視する要件」「検査内容」 「選抜方法」一覧	-----	66
-------	--	-------	----

＜別表3＞	令和8年度三重県立高等学校入学者選抜における後期選抜の選抜方法 の(1)において、調査書の「各教科の学習の記録」等により選ぶ人数 を募集定員の110%又は120%に設定する高等学校、学科・コースの 一覧	-----	132
-------	--	-------	-----

＜別表4＞	令和8年度三重県立高等学校入学者選抜における各高等学校別後期 選抜の選抜資料及び選抜方法の最終段階における「特に重視する選 抜資料等」一覧	-----	133
-------	---	-------	-----

＜別表5＞	令和8年度三重県立高等学校入学者選抜でスポーツ特別枠選抜を実 施する高等学校の「募集競技」「募集学科」一覧	-----	139
-------	--	-------	-----

＜別表6＞	令和8年度三重県立高等学校入学者選抜でスポーツ特別枠選抜を実 施する高等学校の「募集競技」「応募資格」「実技検査」「選抜方 法」一覧	-----	140
-------	--	-------	-----

＜別表7＞	令和8年度三重県立高等学校入学者選抜における海外帰国生徒・ 外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜の「実施校」「募集学科・ コース」「募集人数」「検査内容」一覧	-----	157
-------	--	-------	-----

令和 8 年 度 三 重 県 立 特 別 支 援 学 校 入 学 者 募 集 要 項

1	募集する学校及び学科	158
2	応募資格のある者	158
3	選 考	159
	(1) 志願者の応募手続	
	(2) 出願書類及び提出先	
	(3) 出願書類の受付	
	(4) 選考期日	
	(5) 選考内容	
	(6) 選考場所	
	(7) その他	
	(8) 追選考	
4	合格者の決定及び発表	161
5	再募集	161
	(1) 再募集を受けられる者	
	(2) 志願者の応募手続	
	(3) 出願書類及び提出先	
	(4) 出願書類の受付	
	(5) 選考期日	
	(6) 選考内容	
	(7) 選考場所	
	(8) 合格者の決定及び発表	
	(9) 追選考	
6	その他	163

共通

前期選抜

後期選抜

再募集・追加募集

中高一貫

特別選抜

海外帰国生徒・外国人生活特別枠

スポーツ特別枠選抜

通信制課程

秋期選抜

専攻科

付

別表 1

別表 2

別表 3

別表 4

別表 5

別表 6

別表 7

特別支援学校

令和 8 年 度 三 重 県 立 高 等 学 校 入 学 者 選 抜 実 施 要 項

令和 8 年度 三重県立高等学校入学者選抜実施要項

令和 8 年度三重県立高等学校の第 1 学年入学者の選抜は、この要項の定めるところによる。

なお、義務教育学校においては、この要項及び各様式のすべての記載について、中学校等の「第 1 学年」を「第 7 学年」、「第 2 学年」を「第 8 学年」、「第 3 学年」を「第 9 学年」とするものとする。

I 全日制・定時制課程入学者選抜実施要項

第 1 共 通

1 募 集

(1) 応募資格

三重県立高等学校に入学を志願することのできる者は、次のア、イ、ウのいずれかの条件を満たし、かつエ又はオに該当するものとする。ただし、高等学校等に在籍している者を除く。

ア 学校教育法第 1 条に規定する中学校もしくは特別支援学校の中学部もしくは義務教育学校を卒業した者又は令和 8 年 3 月卒業見込みの者

イ 学校教育法第 1 条に規定する中等教育学校の前期課程を修了した者又は令和 8 年 3 月修了見込みの者

(以下、中学校、特別支援学校の中学部、義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を総称して「中学校等」という。)

ウ 学校教育法施行規則（昭和 2 2 年 5 月文部省令第 1 1 号）第 9 5 条各号の一に該当する者

エ 全日制課程を志願する場合は、原則として保護者とともに県内に居住している者

オ 定時制課程を志願する場合は、原則として県内に居住又は勤務している者

外国の中学校等を既に卒業した者が志願する場合、三重県立高等学校入学者選抜への応募資格を出願手続までに三重県教育委員会高校教育課で確認する。

(2) 入学定員

令和 8 年度三重県立高等学校第 1 学年生徒の入学定員は、別に告示する。

※ 別表 1 「令和 8 年度三重県立高等学校入学者選抜に関する各高等学校別実施要項」参照

(3) 志願できる区域

入学志願できる区域は、「三重県立高等学校通学区域に関する規則」（昭和 3 3 年 1 月三重県教育委員会規則第 1 3 号。以下「通学区域に関する規則」という。）に定めるところによる。

(4) 募集方法

ア 志願者の応募手続

(ア) 三重県立高等学校入学者選抜 Web 出願システム（以下「Web 出願システム」という。）の入学願書（様式 1）に、出願に必要な情報（以下「志願情報」という。）を入力する。

(イ) 入学選抜手数料を、次の a、b いずれかの方法で納付する。

a Web 出願システムにより、全日制は 2, 200 円、定時制は 950 円を電子決済の手続きを行い納付（以下、「電子納付」）する。

b 収入証紙納付書（様式 2）に、全日制は 2, 200 円、定時制は 950 円の三重県収入証紙を貼付して、在学する中学校等の校長を経由して志願先高等学校長に提出する。

なお、既に中学校等を卒業した志願者については原則として本人が提出し、県外からの志願者については原則として保護者が提出する。

(ウ) 県内居住者で、転居等の事由により、通学区域に関する規則に規定する保護者の居住する住所の属する学区又は当該学区に隣接する学区（以下「志願学区」という。）外の高等学校

を志願する者、県外に居住する志願者及び県内に居住していて県外の中学校等を卒業見込みの志願者は、「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」に定める手続を行う。

- (イ) 入学願書データ、調査書等データ及び出願書類（これらをあわせて、以下「出願書類等」という。）を志願先高等学校に受理された者は、受検票発行メールの受信後、受検票（様式3）をWeb出願システムから印刷し写真を貼付して在学する中学校等に提出し、中学校等が写真の上から所定のシールを貼る。なお、既に中学校等を卒業した志願者については、受検票（様式3）に写真を貼付し、本人が写真の上から所定のシールを貼る。
- (ロ) 納付した入学選抜手数料は、事由のいかんを問わず返却しない。

イ 志願者が在学する中学校等又は卒業した中学校等の校長の応募手続

志願者が在学する中学校等の校長は、志願情報に誤りがないことを確認のうえ、次の手続を行う。

なお、(イ)の手続には、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式23）の提示を必要とする。

既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が(イ)の手続を行う。また、県外からの志願者については、原則として保護者が(イ)の手続を行う。

(7) 出願書類等の作成

a 調査書（様式4）を選抜ごとに作成する。

令和8年3月卒業見込みの志願者については、志願先高等学校ごとにWeb出願システムで調査書（様式4）のデータを提出する。既に中学校等を卒業した志願者については、卒業した中学校等の校長が調査書（様式4）1通を厳封して本人に交付する。ただし、令和2年3月以前の中学校等卒業者については、卒業証明書をもってこれに代える。また、外国の中学校等を卒業又は卒業見込みの志願者で、調査書（様式4）のデータの提出や調査書（様式4）の記載が無理な場合は、外国における最終学校の成績証明書、もしくは、これに代わるもので代替することができる。

b 令和8年3月卒業見込みの者について、調査書の各教科の学習の記録の評定分布表（様式5）を作成する。（後期選抜のみ）

令和8年3月卒業見込みの志願者の志願先高等学校に、調査書の各教科の学習の記録の評定分布表（様式5）のPDFファイルをWeb出願システムにより提出する。

c 令和8年3月卒業見込みの者について、志願先高等学校ごとに志願者一覧表（様式22）を作成する。既に中学校等を卒業した志願者については、志願者一覧表（様式22）は作成しない。

令和8年3月卒業見込みの志願者の志願先高等学校に、志願者一覧表（様式22）のPDFファイルをWeb出願システムにより提出する。

d 必要に応じて、通学区域外高等学校入学志願許可申請書等（様式12、様式13-1、様式13-2、様式14）の副申書を作成する。

(イ) 出願書類の提出

a 志願先高等学校長へ提出すべき書類

(a) 在学する中学校等の志願者の収入証紙納付書（様式2）（ア(イ) bの手続きにより納付する場合）等の出願書類を取りまとめて提出する。

南伊勢高等学校を志願する場合は、度会校舎に提出する。

熊野青藍高等学校を志願する場合は、前期選抜は紀南校舎に、後期選抜は木本校舎に提出する。

なお、既に中学校等を卒業した志願者については原則として本人が提出し、県外からの志願者については原則として保護者が提出する。

外国の中学校等を既に卒業した者は、応募資格を証明する書類を志願する高等学校に提示する。

(b) 県内居住者で、転居等の事由により、志願学区外の高等学校を志願する者については通学区域外高等学校入学志願許可申請書（様式12）を、県外に居住する志願者に

については三重県立高等学校入学志願許可申請書（様式 1 3 - 1、様式 1 3 - 2）を、県内に居住していて県外の中学校等を卒業見込みの志願者等については三重県立高等学校入学志願届出書（様式 1 4）を提出する。

ただし、県外に居住する志願者のうち覚書等による志願者については、三重県立高等学校入学志願許可申請書に代えて入学志願整理票を提出する。

- (c) 出願書類の提出方法（郵送・持参など）を Web 出願システムで申告し、前期選抜等及び後期選抜において出願書類を郵送する場合、受付締切期限までに志願先高等学校に必着するように送付する。

b 三重県教育委員会事務局高校教育課へ提出すべき書類（後期選抜の志願者がいる場合のみ）

調査書の各教科の学習の記録の評定分布表（様式 5）を次により提出する。

- (a) 県内の市町等立中学校等は、令和 8 年 2 月 2 6 日（木）1 2 時までに当該市町等教育委員会へ提出する。また、各市町等教育委員会はこれらを取りまとめ、令和 8 年 3 月 4 日（水）までに三重県教育委員会事務局高校教育課へ提出する。
- (b) 国立、私立及び県外の中学校等は、令和 8 年 2 月 2 6 日（木）1 2 時までに三重県教育委員会事務局高校教育課へ提出する。

ウ 志願先高等学校の処理すべき事務

- (7) 出願書類等が適正であると認められる場合には Web 出願システムで受理処理を行い、受検番号を発行する。
- (イ) 出願書類等を受理する際、通学区域に関する規則第 3 条第 1 項に基づいて入学志願しなければならない学科・コースを設置する高等学校にあつては、志願者の志願学区を確認する。
- (ウ) 出願書類等受付締切後及び志願変更受付締切後、直ちに、志願者数を三重県教育委員会事務局高校教育課へ報告する。

(5) 受検時に特別な配慮を必要とする者の入学志願について

受検時に特別な配慮を必要とする者については、在学する中学校等の校長より志願先高等学校長にその旨を申し出る。既に中学校等を卒業した志願者が受検時に特別な配慮を必要とする場合は、志願先高等学校長にその旨を申し出る。申し出を受けた高等学校長は、検査方法が変わる特別な措置を実施する場合は、事前に三重県教育委員会事務局高校教育課の承認を受ける。検査方法が変わらない特別な措置を実施する場合は、事後に三重県教育委員会事務局高校教育課に報告する。

＜参考＞過去に行った主な特別な措置の例

ア 検査方法が変わる特別な措置

- (7) 検査用紙、検査内容、検査方法、検査時間についての配慮
 - ・ 問題用紙、解答用紙の拡大
 - ・ ルビ付き学力検査問題の使用
 - ・ 問題文の読み上げ
 - ・ 英語リスニング検査での放送台本の使用
 - ・ 集団面接を個人面接に変更
 - ・ 筆談での面接の実施
 - ・ 検査時間の延長
 - ・ 病院内での受検

イ 検査方法が変わらない特別な措置

- (7) 検査室や座席についての配慮
 - ・ 1 階の教室、トイレや保健室に近い教室での受検
 - ・ 別室での受検
 - ・ 窓際の明るい座席、スピーカーの音声や監督者の指示の聞き取りやすい座席、出入り口に近い座席での受検
- (イ) 検査当日の介助等についての配慮

- ・ 高等学校職員による検査室での介助
- ・ 保護者、介助員の別室待機
- (ウ) 持参して使用するものについての配慮
 - ・ 補聴器、ロジャーの持参使用
 - ・ 読む部分だけが見える自助具（スリット等）の持参使用
 - ・ 血糖値測定器の持参使用
 - ・ 検査室への薬、補食の持参及び検査時間中の服薬、補食
 - ・ 車椅子、松葉杖、特別な机・椅子の持参使用
 - ・ 耳栓、イヤーマフ、座布団、文鎮、帽子的持参使用
- (I) その他の配慮
 - ・ 文章による指示事項の伝達
- (注) ・ 上記は主な措置の例であり、どの志願者に対しても、これらの配慮を行うとは限らない。
- ・ 障がいの内容や程度には個人差があるため、受検配慮申請や相談内容に基づき、必要な調整を行ったうえで、措置の内容を決定する。
- ・ 志願者の状況に応じて、中学校等で行われていない配慮を行う場合や、入学者選抜における公平性の観点から、中学校等で行われている配慮ができない場合がある。

(6) 中学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者の入学志願について

学校教育法施行規則第95条第5号の適用を受けようとする者が出願書類等を提出したときは、志願先高等学校において先に仮受付を行い、志願先高等学校長が中学校卒業者と同等以上の学力があると認定したとき、正式に出願書類等の受付を行い、入学者選抜の対象とする。

(7) その他

熊野青藍高等学校については志願先校舎にかかわらず、前期選抜は志願関係書類の受付、検査、合格内定の通知等をすべて紀南校舎において行い、後期選抜以降の選抜は志願関係書類の受付、検査、合格発表等をすべて木本校舎において行う。

2 調査書等の作成

(1) 調査書作成委員会の設置

ア 調査書（様式4）の作成に当たっては、中学校等ごとに調査書作成委員会を設けて、調査書の公正を期するための審議を行う。

イ 調査書作成委員会は、中学校等の校長を委員長として組織する。

(2) 調査書（様式4）の作成要領

ア 「1 各教科の学習の記録（評定）」の記入について

(ア) 第1学年及び第2学年について

- ・ 指導要録の「学習の記録」を転記する。

(イ) 第3学年について

- ・ 前期選抜を志願する者については、第1学期及び第2学期の成績を十分加味した12月末現在の成績を、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）により5段階で評定し、記入する。

また、二学期制を実施する中学校等については、前期の成績を十分加味した後期の12月末現在の成績を、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）により5段階で評定し、記入する。

- ・ 後期選抜、再募集及び追加募集を志願する者については、第1学期及び第2学期の成績を十分加味した第3学期の1月末現在の成績を、目標に準拠した評価（いわゆる絶対

評価)により5段階で評定し、記入する。

また、二学期制を実施する中学校等については、前期の成績を十分加味した後期の1月末現在の成績を、目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)により5段階で評定し、記入する。

イ 「1 各教科の学習の記録(観点別学習状況)」の記入について

「指導要録の記入と取扱い」(令和2年3月三重県教育委員会)に基づき、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、観点ごとに上記2・(2)・ア・(イ)に準じて評価し、A、B、Cで記入する。

＜各教科の観点＞(令和7年度中学校等卒業見込者及び令和3年度以降中学校等卒業者)

教科	番号	観 点
全教科	①	知識・技能
	②	思考・判断・表現
	③	主体的に学習に取り組む態度

ウ 「2 総合的な学習の時間の記録」の記入について

指導要録の記載に準じ、文章で記入する。

エ 「3 特別活動の記録及び行動の記録」の記入について

特別活動及び行動の状況について、項目ごとに個性や長所を積極的に評価し、十分満足できる場合に○印を記入する。

オ 「4 出欠・健康の記録」の記入について

(ア) 第1学年及び第2学年について

- ・ 指導要録の「出欠の記録」を転記する。

(イ) 第3学年について

- ・ 前期選抜を志願する者については、令和7年12月末現在において記入する。
- ・ 後期選抜、再募集及び追加募集を志願する者については、令和8年1月末現在において記入する。

(ウ) 「欠席理由の主なもの」の記入について

- ・ 各学年とも、引き続き7日以上欠席した場合に、その主な理由を記入する。また、断続して20日以上欠席した場合についても、その主な理由を記入する。

(エ) 「健康の状況」の記入について

- ・ 健康状況全般に関して、進学後特に配慮を必要とする事項について、文章で記入する。

カ 「5 その他参考となる諸事項」の記入について

上記イからオで表記したこと以外に、志願者の長所、特技、生徒会活動、スポーツ活動、文化活動、職場体験活動、社会活動、ボランティア活動歴等について、積極的に記入する。

キ 既に中学校等を卒業した者について

調査書(様式4)に、指導要録の記載を転記するが、上記アからカに準じるものとする。

ただし、令和2年3月以前の中学校等卒業者については卒業証明書をもってこれに代える。

(3) 調査書の各教科の学習の記録の評定分布表(様式5)の作成要領

中学校等の校長は、次の要領により作成する。

ア 第3学年全員について、後期選抜における評定を対象として作成する。

イ 教科別、評定別に生徒数を記入する。「合計人数」の欄には、各教科の合計人数を記入する。また、各教科の評定別生徒数の合計人数に対する割合(%)を記入する。

なお、教科により合計人数が異なる場合は、その理由を備考欄に記入する。

ウ 「調査書作成委員会の記録」を記入する。

3 選 抜

(1) 基本方針

入学者の選抜については、調査書（様式4）、学力検査及びその他選抜のための資料に基づき、各高等学校長が公正かつ的確に行う。

調査書中の「各教科の学習の記録」以外の記載事項についても積極的に活用する。なお、健康の状況については、修学の可否の判定のみに用いることとする。

(2) 入学者選抜委員会

各高等学校は、入学者選抜事務の公正かつ適正な遂行のため、校長を委員長とし、下記の事務を遂行するために必要な校務分掌担当者を含め、適切な人数で構成する入学者選抜委員会を設置する。

各高等学校は、入学者選抜委員会についての内規を定める。

ア 学力検査実行管理に関する事務

- ・ 学力検査当日の監督等の役割分担作成及び運用に係る事務
- ・ 学力検査会場の設営に係る事務
- ・ 学力検査問題等受領、点検及び整理に係る事務
- ・ その他校長が必要と認める事務

イ 入学者選抜に関する事務

- ・ 中学校等からの出願書類等及び選抜資料の受領、点検及び整理に係る事務
- ・ 採点に関する職員の役割の分担に係る事務
- ・ 各教科の採点基準作成及び決定に係る事務
- ・ 面接又は「自己表現」、作文又は小論文、実技検査等についての評価基準の作成及び評価に係る事務
- ・ 解答用紙等の管理及び採点の監督に係る事務
- ・ 選抜資料のコンピュータへのデータ入力等に係る事務
- ・ 採点結果の点検に係る事務
- ・ 合否判定の原案及び資料の作成に係る事務
- ・ 合格通知書作成等の合格者発表に係る事務
- ・ 個人情報の提供に係る事務
- ・ その他校長が必要と認める事務

なお、前期選抜等を実施する学校においては、その選抜を実施する学科・コースの特色等により、後期選抜とは異なる構成員の委員会を設けることができる。また、上記の委員会をその果たす役割から、学力検査実行管理委員会と入学者選抜委員会との2つの委員会に分けてもよい。

(3) 合否判定会議

各高等学校は、原則としてすべての教員で構成する合否判定会議を設置する。

(4) 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

(5) その他

熊野青藍高等学校については志願先校舎にかかわらず、入学者選抜事務のすべてを、前期選抜は紀南校舎において行い、後期選抜以降の選抜は木本校舎において行う。

4 その他

桑名高等学校衛生看護科は、高等学校衛生看護科と専攻科をあわせた5年一貫教育を行う。
四日市工業高等学校ものづくり創造専攻科の入学者選抜実施要項は、別に定める。

第2 前期選抜

1 募集

(1) 前期選抜を実施する高等学校の学科・コース及び募集枠等

前期選抜を実施する高等学校の学科・コース及び募集枠等は別表1に、各高等学校の「学校の特色」「選抜において重視する要件」は別表2にそれぞれ示すとおりとする。

(2) 応募資格

前期選抜を志願できる者は、第1・1・(1)の応募資格を有する者及び「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」に定める入学志願のできる者とする。

※ 連携型中高一貫教育に係る選抜を実施する高等学校に連携型中学校から志願する場合は、原則として連携型中高一貫教育に係る選抜によるものとする。

※ 前期選抜と特別選抜の両方を実施する高等学校の学科に、第6・1・(2)の応募資格を有する者が志願する場合は、特別選抜によるものとする。

(3) 募集方法

ア 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和7年12月1日（月）9時から 令和8年1月15日（木）17時まで

(i) Web出願システムによる調査書等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年1月16日（金）9時から 令和8年1月22日（木）17時まで

(u) 出願書類の受付（土曜日及び日曜日は除く。）

区 分	受 付 期 間	受 付 時 間
全日制	令和8年1月23日（金）から 令和8年1月27日（火）まで	9時から16時まで （締切日は9時から15時までとする。）
定時制	令和8年1月23日（金）から 令和8年1月27日（火）まで	13時から20時まで （締切日は13時から17時までとする。）

（備考） 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

イ 応募手続

(7) 志願者は、前期選抜を実施する高等学校の学科・コースのうち、1校の1学科・コースについてのみ出願できる。なお、分校は1校とみなす。

また、前期選抜への志願者は、連携型中高一貫教育に係る選抜、特別選抜への出願はできない。

(i) 志願者は、第1・1・(4)・アによる手続とともに、Web出願システムにより入学確約を行い、自己推薦書（様式17）に所定の事項を記入して、在学する中学校等の校長に提出する。

ただし、既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が志願先高等学校長に提出する。

(u) 中学校等の校長は、第1・1・(4)・イの(7)及び(i)・aによる手続とともに、志願者による上記(i)の手続及び書類に誤りのないことを確認し、志願先高等学校長に提出する。

なお、自己推薦書（様式１７）については、志願者から提出された自己推薦書（様式１７）のPDFファイルをWeb出願システムにより志願先高等学校長に提出する。

2 検 査

(1) 検査内容

面接又は「自己表現」、作文又は小論文、実技検査、学力検査等のうち、志願先高等学校が指定した項目を実施する。（別表２参照）

なお、「自己表現」は、受検者が面接時に、自己の個性や得意なものを自由な形で表現するものとする。

また、英語の学力検査については、リスニング検査を含み、英和辞典及び和英辞典の使用を認める。ただし、電子辞書及びそれに類するものは使用できない。

(2) 検査期日等

ア 期 日 令和８年２月３日（火）、４日（水）
（学力検査については、２月３日（火）に実施する。）

イ 学力検査日程 令和８年２月３日（火）

検 査 教 科		検 査 時 間	
1	国語又は数学	１０：００～１０：４５	４５分
2	英語	１１：００～１１：４５	４５分

（注１） 各教科の検査開始３０分経過後は、検査室への入場はできない。また、各教科の検査開始から３０分経過後の退席については、その教科の検査を完了したものとみなす。

（注２） 学力検査以外の検査の実施日程及び方法等については、当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

(3) 検査会場

志願先高等学校（南伊勢高等学校を志願する者は度会校舎において、熊野青藍高等学校を志願する者は紀南校舎において受検する。）

3 追検査

(1) 追検査を受けられる者

前期選抜を志願する者のうち、検査の当日、病気等やむを得ない理由によってその一部又はすべてを受けられなかった者で、追検査を希望する者。

(2) 受検の手続

令和８年２月４日（水）１２時までに在学する中学校等の校長を通して志願先高等学校長にその旨を申し出るとともに、前期選抜追検査受検願書（様式１０）に必要事項を記入のうえ、追検査受検の理由を証明する書類（医師の診断書等）及び受検票（様式３）を添えて、速やかに志願先高等学校長に提出する。ただし、２月４日（水）に検査を実施する高等学校においては、２月４日（水）１７時までに、志願先高等学校長にその旨を申し出るとともに、所定の手続を行う。

なお、手続には、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式２３）の提示を必要とする。

既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が手続を行う。また、県外からの志願者については、原則として保護者が手続を行う。

(3) 期日及び会場

ア 期 日 令和８年２月１０日（火）

イ 会 場 志願先高等学校
詳細については、当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

(4) 報 告

学力検査を実施する高等学校で追検査を希望する申し出があれば、各高等学校長は速やかに追検査を実施する教科、人数を三重県教育委員会事務局高校教育課に報告する。

4 選抜方法

- (1) 各高等学校の選抜方法は、別表 2 に示すとおりとする。
- (2) 各高等学校は、募集枠内で合格内定者を決定し、なおかつ、合格内定者と甲乙付け難い者がある場合は、当該学科・コースの募集枠の募集人数の 10% の範囲内で合格内定者を増やすことができる。ただし、人数算出については、小数点以下の端数は切り上げる。なお、募集枠の募集人数が 80 人を超える学科・コースは 8 人以内とする。
- (3) 各高等学校は、入学定員を超えて合格内定者を増やすことはできない。ただし、全寮制である昂学園高等学校については、(2)にかかわらず、2 人以内で合格内定者を増やすことができる。

5 合格内定者の決定

合格内定者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

6 合格内定の通知

- (1) 各高等学校長は、令和 8 年 2 月 13 日（金）9 時 30 分以降に、選考の結果を前期選抜結果通知書（様式 20）により中学校等の校長に通知し、合格内定者には在学する中学校等の校長を通じて前期選抜合格内定通知書（様式 21）を交付する。（熊野青藍高等学校は紀南校舎において通知及び交付をする。）なお、前期選抜結果通知書、前期選抜合格内定通知書を受領する際は、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式 23）の提示を必要とする。
また、合格内定者のうち、既に中学校等を卒業した者については、令和 8 年 2 月 13 日（金）9 時 30 分以降に、前期選抜合格内定通知書を志願者に直接交付する。
なお、令和 8 年 2 月 13 日（金）9 時 30 分に、中学校等に閲覧を限定した三重県の専用ウェブページに合格内定者として受検番号を掲載する。
- (2) 合格内定の通知を受けた者は、三重県立高等学校に改めて志願することはできないものとする。
- (3) 合格内定者数の発表は、令和 8 年 2 月 13 日（金）16 時とする。（三重県 Web ページへの掲載は 2 月 14 日（土））

7 合格者の発表

合格内定者については、令和 8 年 3 月 17 日（火）9 時 30 分に、志願先高等学校において合格者として受検番号を掲示するとともに、合格内定通知書に添付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者として受検番号を掲載し、発表する。（熊野青藍高等学校は木本校舎において掲示する。）

8 合格内定とならなかった者の後期選抜への応募

選考の結果、合格内定とならなかった者は、第1・**1**により、改めて応募するものとする。

9 その他**(1) 県内居住者の志願学区外の高等学校への入学志願について**

「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「1」による。

(2) 県外からの三重県立高等学校への入学志願について

「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「2」による。

(3) 県内居住者で令和7年度に県外の中学校等を卒業する者の入学志願について

「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「3」による。

(4) 志願学区外に居住する県内居住者の、「通学区域に関する規則」別表特例に定める高等学校への入学志願について

「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「4」による。

(備考) 海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜における前期選抜については、第7・**4**による。

第3 後 期 選 抜

1 募 集

(1) 後期選抜を実施する高等学校の学科・コース等

後期選抜を実施する高等学校の学科・コース等は、別表1に示すとおりとする。

後期選抜の募集人数は、令和8年2月13日（金）16時に発表する。（三重県Webページへの掲載は2月14日（土））

(2) 応募資格

後期選抜を志願できる者は、第1・**1**・(1)の応募資格を有する者及び「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」に定める入学志願のできる者とする。

ただし、前期選抜、連携型中高一貫教育に係る選抜、特別選抜及びスポーツ特別枠選抜において合格内定となった者は、後期選抜に志願できない。

(3) 募集方法

ア 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年2月5日（木）9時から 令和8年2月20日（金）17時まで

(4) Web出願システムによる調査書等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

課 程	受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
全日制	令和8年2月16日（月）9時から 令和8年2月26日（木）12時まで
定時制	令和8年2月16日（月）9時から 令和8年2月25日（水）17時まで

(7) 出願書類の受付

課 程	受 付 期 間	受 付 時 間
全日制	令和8年2月24日（火）から 令和8年2月26日（木）まで	9時から16時まで （締切日は9時から12時までとする。）
定時制	令和8年2月24日（火）から 令和8年2月25日（水）まで	13時から20時まで （締切日は13時から17時までとする。）

（備考） 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

上記受付期間及び受付時間締切後に、「保護者の転勤に伴う一家転住」を事由とする志願者があった場合は、特例として、出願を志願変更受付締切時まで認める。

イ 応募手続

(7) 志願者は、後期選抜を実施する高等学校の学科・コースのうち、1校の1学科・コースに限り志願できる。ただし、同一高等学校に設置する同一課程（全日制・定時制）内の、異なる学科・コースに限り第2志望とすることができる。

なお、熊野青藍高等学校全日制課程については、同一校舎の異なる学科又は異なる校舎の学科を第2志望とすることができる。

また、北星高等学校については、定時制課程と通信制課程の併願を認める。

(4) 志願者は、第1・**1**・(4)・アによる手続を行う。

(7) 中学校等の校長は、第1・**1**・(4)・イによる手続を行う。

(4) 志願高等学校等の変更

出願書類等受付締切後、志願した高等学校又は課程、学科・コースの変更を希望する者は、志願変更受付期間内において、1回に限り変更することができる。

なお、志願者は、第1志望の変更と関係なく、第2志望も同様に1回に限り変更することができる。ただし、第1志望及び第2志望ともに変更する場合は、同時に変更しなければならない。

なお、中学校等の校長の手続には、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式23）の提示を必要とする。

ア 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

課 程	受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
全日制	令和8年2月27日(金)9時から 令和8年3月5日(木)12時まで
定時制	令和8年2月27日(金)9時から 令和8年3月4日(水)17時まで

(4) Web出願システムによる中学校等からの調査書及び志願校及び志願学科等変更願等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

※ 調査書の提出は志願高等学校を変更する場合のみ

課 程	受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
全日制	令和8年2月27日(金)9時から 令和8年3月5日(木)12時まで
定時制	令和8年2月27日(金)9時から 令和8年3月4日(水)17時まで

(4) 志願変更に係る書類等の受付期間及び受付時間

課 程	受 付 期 間	受 付 時 間
全日制	令和8年3月3日(火)から 令和8年3月5日(木)まで	9時から16時まで (締切日は9時から12時までとする。)
定時制	令和8年3月3日(火)から 令和8年3月4日(水)まで	13時から20時まで (締切日は13時から17時までとする。)

イ 志願変更手続

(7) 志願高等学校を変更する場合

- ・ 志願高等学校を変更しようとする者は、在学する中学校等の校長に申し出るとともに、志願校変更願（様式6）を在学する中学校等の校長に提出する。
- ・ 中学校等の校長はWeb出願システムにより、志願変更前の高等学校長に、志願校変更願（様式6）のPDFファイルを提出する。
- ・ 志願者は、Web出願システムの入学願書（様式1）に志願変更先の志願情報を入力し、印刷して中学校等の校長に提出する。
- ・ 中学校等の校長はWeb出願システムにより、志願変更先の高等学校長に、調査書（様式4）のデータを提出するとともに、志願校変更願（様式6）及び志願校及び志願学科等変更者一覧表（様式7）のPDFファイルを提出する。
- ・ 志願変更先の高等学校長は、出願書類等を確認し、適正であると認められる場合には、これを受理し、受検番号を発行する。
- ・ 志願者は、新たに「受検票（様式3）」を印刷して写真を貼付し、中学校等が写真の上から所定のシールを貼る。

(4) 志願する課程、学科・コースを変更する場合

- ・ 志願する課程、学科・コースを変更しようとする者は、在学する中学校等の校長に申し出

るとともに、志願学科等変更願（様式 8）を、在学する中学校等の校長に提出する。

- ・ 志願者は、Web 出願システムの入学願書（様式 1）に志願変更先の志願情報を入力し、印刷して中学校等の校長に提出する。
- ・ 中学校等の校長は Web 出願システムにより、出願した高等学校長に、志願学科等変更願（様式 8）の PDF ファイルを提出する。
- ・ 中学校等の校長は Web 出願システムにより、志願変更先の高等学校長に、志願校及び志願学科等変更者一覧表（様式 7）の PDF ファイルを提出する。
- ・ 志願先高等学校長は、出願書類等を確認し、適正であると認められる場合には、これを受理し、受検番号を発行する。ただし、第 2 志望の学科・コースのみを変更する場合は、新たに受検番号は発行しない。
- ・ 志願者は、新たに受検票（様式 3）を印刷して写真を貼付し、中学校等が写真の上から所定のシールを貼る。

(ウ) その他

- ・ 志願する課程を変更する場合は、入学選抜手数料の差額（定時制課程から全日制課程への変更 1,250 円、通信制課程から全日制課程への変更は 2,200 円、通信制課程から定時制課程への変更は 950 円）を、次の a、b いずれかの方法で納付する。
 - a Web 出願システムにより、ア・(イ)の受付期間内に入学選抜手数料の差額を電子納付する。
 - b 収入証紙納付書（様式 2）に、入学選抜手数料の差額分の三重県収入証紙を貼付して、ア・(ウ)の受付期間内に在学する中学校等の校長を経由して志願変更先の高等学校長に提出する。

なお、既に中学校等を卒業した志願者については原則として本人が提出し、県外からの志願者については原則として保護者が提出する。
- ・ 既に中学校等を卒業した志願者は、原則として本人が、ア・(ア)の受付期間内に入学願書（様式 1）の入力を行い、ア・(ウ)の受付期間内に、志願校の変更の場合は志願校変更願（様式 6）を 2 枚作成し、それぞれ志願変更前及び志願変更先の高等学校長に提出することとし、志願学科等の変更の場合は志願学科等変更願（様式 8）を志願した高等学校長に提出することとする。

(備考) 海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜における志願変更については、第 7・5・(4)・アにより、手続を行う。

2 検 査

(1) 検査内容

ア 学力検査

- (ア) 後期選抜における学力検査は、同一問題により、国語、数学、社会、外国語（英語）、理科の 5 教科のうち、高等学校の指定する教科により実施する。（別表 1「令和 8 年度三重県立高等学校入学者選抜に関する各高等学校別実施要項」参照）
- なお、外国語（英語）の学力検査には、リスニング検査を含む。
- また、夜間定時制課程志願者のうち、令和 8 年 3 月 31 日までに満 20 歳以上になる者は、学力検査を免除する。
- (イ) 学力検査問題及び採点基準等は、三重県教育委員会教育長の任命する学力検査問題作成委員会が作成する。

イ 面接又は「自己表現」、作文又は小論文、実技検査

- (ア) 高等学校長が必要と認めた場合、面接又は「自己表現」、作文又は小論文、実技検査を実施することができる。（別表 1 参照）
- その日程、方法等については、当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

- (イ) 海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜志願者については、面接及び作文を実施する。その日程、方法等については、当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

(2) 検査期日等

ア 期 日 令和8年3月10日（火）
 イ 受付時間 8時30分から8時50分まで
 ウ 日 程

検査教科等		検査等時間	
点呼・諸注意		9:00 ~ 9:20	20分
1	国 語	9:30 ~ 10:15	45分
2	数 学	10:30 ~ 11:15	45分
3	社 会	11:30 ~ 12:15	45分
昼食・休憩		12:15 ~ 13:15	60分
4	英 語	13:15 ~ 14:00	45分
5	理 科	14:15 ~ 15:00	45分

(注1) 各教科等の配点については50点を標準とするが、傾斜配点を行う学科・コースがある。（別表1参照）

(注2) 検査教科を減じる高等学校においても、学力検査等の日程は変えない。

(注3) 各教科の検査開始30分経過後は、検査室への入場はできない。また、各教科の検査開始から30分経過後の退席については、その教科の検査を完了したものとみなす。

(3) 検査会場

志願先高等学校（南伊勢高等学校を志願する者は度会校舎において、熊野青藍高等学校を志願する者は木本校舎において受検する。）

3 選抜方法

- (1) 調査書（様式4）の第3学年における「各教科の学習の記録」及び「特別活動の記録」等により、およそ募集定員に当たる数の者を選ぶ。ただし、高等学校によっては、調査書の「各教科の学習の記録」等により選ぶ人数を、募集定員のおよそ110%又は120%にあらかじめ設定することができる。（別表3参照）
- (2) 受検者全員について学力検査と実技検査の得点合計（以下「学力検査等得点」という。）により、募集定員のおよそ80%に当たる者を高点者から順次選ぶ。ただし、その中から各高等学校の特色、性格に応じて必要な教科の成績が著しく下位にある者等を、保留者として除外することができる。
- (3) 同一人について、上記(1)及び(2)の両方に含まれている者を合格者とする。ただし、面接又は「自己表現」、作文又は小論文を選抜のための資料として利用する高等学校にあっては、この資料に基づき慎重審議を要すると考えられる者を保留者として除外することができる。
- (4) 上記(3)による合格者の数と募集定員との差のうち、その2分の1に相当する人数は、上記(1)

において選ばれた者の中から、学力検査等得点の高点者から順次選び、これを合格者とする。

- (5) 上記(3)及び(4)による合格者の合計数と募集定員との差に当たる者の選抜に当たっては、上記保留者を含めた残りの受験者の中から、各高等学校別に示す「特に重視する選抜資料等」(別表4参照)を踏まえ、合格者を決定する。

4 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

5 合格者の発表

令和8年3月17日(火)9時30分に、志願先高等学校において合格者の受験番号を掲示するとともに、受験時に受験者に配付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者の受験番号を掲載し、発表する。(熊野青藍高等学校は木本校舎において掲示する。)

6 入学辞退

入学を辞退する者は、速やかに在学する中学校等の校長に申し出て、入学辞退届(様式11)を合格先高等学校長に提出する。

ただし、既に中学校等を卒業した者については、原則として本人が手続を行う。また、県外から志願した者については、原則として保護者が手続を行う。

7 追検査

(1) 追検査を受けられる者

後期選抜を志願する者のうち、検査の当日、病気等やむを得ない理由によってその一部又はすべてを受けられなかった者で、追検査を希望する者。

(2) 受検の手続

令和8年3月10日(火)15時までに在学する中学校等の校長を通して志願先高等学校長にその旨を申し出るとともに、令和8年3月18日(水)から3月19日(木)12時(定時制は17時)までに後期選抜追検査受検願書(様式10)に必要な事項を記入のうえ、追検査受検の理由を証明する書類(医師の診断書等)及び受検票(様式3)を添えて、志願先高等学校長に提出する。なお、手続には、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書(様式23)の提示を必要とする。

ただし、既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が手続を行う。また、県外からの志願者については、原則として保護者が手続を行う。

(3) 期日、日程、検査教科等

ア 期 日 令和8年3月23日(月)

イ 日 程 後期選抜と同じ日程で実施する。

ウ 検査教科等

区 分	内 容
全日制・昼間定時制	後期選抜と同じ検査内容で実施する。
夜間定時制	再募集と同じ検査内容で実施する。

- (4) 追検査の会場
志願先高等学校

- (5) 合格者の決定
合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

- (6) 合格者の発表
令和8年3月25日（水）9時30分に、志願先高等学校において合格者の受検番号を掲示するとともに、受検時に受検者に配付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者の受検番号を掲載し、発表する。（熊野青藍高等学校は木本校舎において掲示する。）

8 夜間定時制課程における外国人生徒等の選抜

- (1) 外国人生徒等で夜間定時制課程への入学を希望する者については、志願先高等学校長の判断により、第7の「海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜」のうち、**1**・(2)、**2**・(1)、**5**・(6)、**5**・(8)を準用して実施することができる。ただし、募集枠は設けず、募集定員内で取り扱う。

9 その他

- (1) 県内居住者の志願学区外の高等学校への入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「1」による。
- (2) 県外からの三重県立高等学校への入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「2」による。
- (3) 県内居住者で令和7年度に県外の中学校等を卒業する者の入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「3」による。
- (4) 志願学区外に居住する県内居住者の、「通学区域に関する規則」別表特例に定める高等学校への入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「4」による。
- （備考） 海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜における後期選抜については、第7・**5**による。

第4 再募集・追加募集

1 全日制課程及び昼間定時制課程の再募集

(1) 募 集

合格者が入学定員に満たないときは、再募集を行う。

ア 応募資格

再募集を志願できる者は、第1・1・(1)の応募資格を有し、「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」に定める入学志願のできる者かつ、次の(7)、(1)の2つの要件を満たす者とする。

(7) 三重県立高等学校の入学選抜に合格していない者。ただし、合格していても入学辞退届(様式11)を提出した者は、志願できる。

(1) 県内外の国・私立の高等学校等(高等専門学校を含む)のいずれにも合格していない者。ただし、合格していても「最終の入学手続」をしていない者は志願できる。なお、「最終の入学手続」をしていても、①、②のいずれかの要件を満たす者は、志願できる。

① 職業学科や総合学科、体育、芸術の専門学科を志願する者

② やむを得ない事情があり、中学校等の校長がその事情を認める者

イ 募集定員

再募集を行う高等学校の学科・コース及びその募集定員は、令和8年3月17日(火)9時30分に公告(三重県庁1階に掲示)し、三重県Webページに掲載する。

ウ 応募手続

(7) 志願者は、第3・1・(3)・イ(前期選抜で入学定員のすべてを募集する学科・コースにおいて、合格者が入学定員に満たないために再募集を実施する場合は、第2・1・(3)・イ)により手続を行うとともに、次の①、②に該当する場合は、所定の手続を行う。

① 三重県立高等学校後期選抜に合格した者

入学辞退届(様式11)及び再募集受検申請書(様式24)に所定の事項を記入して、中学校等の校長へ提出する。ただし、既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が合格した高等学校長に提出する。

② 県内の国・私立の高等学校等(高等専門学校を含む)のいずれかに合格し、「最終の入学手続」をしている者

再募集受検申請書(様式24)に所定の事項を記入して、中学校等の校長へ提出する。ただし、既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が合格した高等学校長に提出する。

(1) 中学校等の校長は、第3・1・(3)・イ(前期選抜で入学定員のすべてを募集する学科・コースにおいて、合格者が入学定員に満たないために再募集を実施する場合は、第2・1・(3)・イ)により手続を行う。上記①または②に該当する者の手続を行う場合は、手続及び書類に誤りのないことを確認し、合格した高等学校長に提出する。

エ 志願できる区域

再募集については、「通学区域に関する規則」別表特例4により、通学区域にかかわらず、いずれの高等学校にも志願できる。

オ 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

区 分	受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
全日制	令和8年3月17日(火)10時から 令和8年3月19日(木)12時まで
昼 間 定時制	令和8年3月17日(火)10時から 令和8年3月19日(木)17時まで

(イ) Web出願システムによる調査書等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

区 分	受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
全日制	令和8年3月17日（火）10時から 令和8年3月19日（木）12時まで
昼 間 定時制	令和8年3月17日（火）10時から 令和8年3月19日（木）17時まで

(ウ) 出願書類の受付

区 分	受 付 期 間	受 付 時 間
全日制	3月18日（水）	9時から16時まで
	3月19日（木）	9時から12時まで
昼 間 定時制	3月18日（水）	13時から20時まで
	3月19日（木）	13時から17時まで

(2) 検 査

ア 検査内容

第3・2・(1)により実施する。

なお、前期選抜で入学定員のすべてを募集する学科・コースにおいて、合格者が入学定員に満たないために再募集を実施する場合は、第2・2・(1)により実施する。

イ 検査期日等

(ア) 期 日 令和8年3月23日（月）

(イ) 日 程 全 日 制 課 程 後期選抜と同じ日程で実施する。

昼間定時制課程 当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

ウ 検査会場

志願先高等学校（南伊勢高等学校を志願する者は度会校舎において、熊野青藍高等学校を志願する者は木本校舎において受検する。）

(3) 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

(4) 合格者の発表

令和8年3月25日（水）9時30分に、志願先高等学校において合格者の受検番号を掲示するとともに、受検時に受検者に配付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者の受検番号を掲載し、発表する。（熊野青藍高等学校は木本校舎において掲示する。）

2 夜間定時制課程の再募集

(1) 募 集

合格者が入学定員に満たないときは、再募集を行う。

ア 応募資格

第4・1・(1)アの応募資格を有する者とする。

イ 募集定員

再募集を行う高等学校の学科・コース及びその募集定員は、令和8年3月17日（火）9時30分に公告（三重県庁1階に掲示）し、三重県Webページに掲載する。

ウ 応募手続

志願者は、第3・**1**・(3)・イにより手続を行う。

エ 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年3月17日（火）10時から 令和8年3月19日（木）17時まで

(4) Web出願システムによる調査書等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年3月17日（火）10時から 令和8年3月19日（木）17時まで

(5) 出願書類の受付

受 付 期 間	受 付 時 間
3月18日（水）	13時から20時まで
3月19日（木）	13時から17時まで

(2) 検 査

ア 検査内容

面接又は「自己表現」、作文、学力検査等のうち、志願先高等学校が指定した項目を実施する。（別表1参照）

ただし、令和8年3月31日までに満20歳以上になる者について、学力検査を免除する。

なお、学力検査を課す場合は、当該実施校が作成する基礎的な内容の学力検査問題又は県教育委員会が作成する学力検査問題のどちらかを高等学校が選択して実施する。

イ 検査期日等

(7) 期 日 令和8年3月23日（月）

(4) 日 程 当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

ウ 検査会場 志願先高等学校

(3) 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

(4) 合格者の発表

令和8年3月25日（水）9時30分に、志願先高等学校において合格者の受検番号を掲示するとともに、受検時に受検者に配付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者の受検番号を掲載し、発表する。

3 夜間定時制課程の追加募集

(1) 募 集

再募集においてもなお合格者が入学定員に満たないときは、追加募集を行う。

ア 応募資格

追加募集を志願できる者は、第1・**1**・(1)の応募資格を有する者及び「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」に定める入学志願のできる者とする。

ただし、令和8年度三重県立高等学校入学者選抜において合格した者は、志願できない。

イ 募集定員

追加募集を行う高等学校の学科及びその募集定員は、令和8年3月25日（水）16時に公告（三重県庁1階に掲示）する。（三重県Webページへの掲載は18時頃）

ウ 応募手続

志願者は、第3・**1**・(3)・イにより、手続を行う。

エ 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年3月25日（水）16時から 令和8年3月26日（木）17時まで

(1) Web出願システムによる調査書等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年3月25日（水）16時から 令和8年3月26日（木）17時まで

(2) 出願書類の受付

受 付 期 間	受 付 時 間
3月25日（水）	16時から20時まで
3月26日（木）	13時から17時まで

(2) 検 査

ア 検査内容

面接又は「自己表現」、作文、基礎的な内容の学力検査等のうち、志願先高等学校が指定した項目を実施する。（別表1参照）

ただし、令和8年3月31日までに満20歳以上になる者について、基礎的な内容の学力検査を免除する。

イ 検査期日等

(7) 期 日 令和8年3月27日（金）

(1) 日 程 当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

ウ 検査会場 志願先高等学校

(3) 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

(4) 合格者の発表

令和8年3月31日（火）9時30分に、志願先高等学校において合格者の受検番号を掲示するとともに、受検時に受検者に配付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用Webページに合格者の受検番号を掲載し、発表する。

4 夜間定時制課程における外国人生徒等の再募集及び追加募集

外国人生徒等で夜間定時制課程への再募集及び追加募集を希望する者については、志願先高等学校長の判断により、第7の「海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜」のうち、**1**・(2)、**2**・(1)、**5**・(6)、**5**・(8)を準用して実施することができる。ただし、募集枠は設けず、募集定員内で取り扱う。

5 その他

- (1) 県外からの三重県立高等学校への入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「2」による。
- (2) 県内居住者で令和7年度に県外の中学校等を卒業する者の入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「3」による。

第5 連携型中高一貫教育に係る選抜

1 募 集

- (1) 連携型中高一貫教育に係る選抜を実施する高等学校

三重県立飯南高等学校

- (2) 応募資格

松阪市立飯南中学校又は飯高中学校を令和8年3月卒業見込みの者

※ 松阪市立飯南中学校又は飯高中学校から飯南高等学校を志願する場合は、原則としてこの選抜によるものとする。

- (3) 募集枠

連携型中高一貫教育に係る選抜の募集枠は、特に定めない。

- (4) 募集方法

ア 受付期間及び受付時間

- (7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和7年12月1日（月）9時から 令和8年1月15日（木）17時まで

- (4) 出願書類の受付（土曜日及び日曜日は除く。）

受 付 期 間	受 付 時 間
令和8年1月23日（金）から 令和8年1月27日（火）まで	9時から16時まで （締切日は9時から15時までとする。）

イ 応募手続

- (7) 連携型中高一貫教育に係る選抜への志願者は、前期選抜への出願はできない。

- (4) 志願者は、第1・1・(4)・アによる手続とともに、Web出願システムにより入学確約を行い、下記の書類をそろえて、中学校長を経て、志願先高等学校長に提出する。

- a 収入証紙納付書（様式2）（第1・1・(4)・ア(イ) bの手続きにより納付する場合のみ）
b 「課題学習のまとめ」

詳細な内容については、当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

- (7) 中学校等の校長は、第1・1・(4)・イ(7) cによる手続を行うとともに、志願者による上記(4)の手続き及び書類に誤りのないことを確認し、志願先高等学校長に提出する。

2 検 査

- (1) 検査内容

面接（学習についての発表）

また、高等学校長の判断により、基礎学力検査を課することができる。

- (2) 期日及び会場

ア 期 日 令和8年2月4日（水）

イ 会 場 三重県立飯南高等学校

3 追検査

- (1) 追検査を受けられる者

連携型中高一貫教育に係る選抜を志願する者のうち、検査の当日、病気等やむを得ない理由に

よってその一部又はすべてを受けられなかった者で、追検査を希望する者。

(2) 受検の手続

令和8年2月4日（水）17時までに中学校長を通して飯南高等学校長にその旨を申し出るとともに、連携型中高一貫教育に係る選抜追検査受検願書（様式10）に必要事項を記入のうえ、追検査受検の理由を証明する書類（医師の診断書等）及び受検票（様式3）を添えて、速やかに飯南高等学校長に提出する。なお、手続には、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式23）の提示を必要とする。

(3) 期日及び会場

ア 期 日 令和8年2月10日（火）
イ 会 場 三重県立飯南高等学校

4 選抜方法

「課題学習のまとめ」、面接（学習についての発表）及び基礎学力検査を課す場合においては基礎学力検査の結果を資料として総合的に判断し、合格内定者を決定する。

5 合格内定者の決定

合格内定者は、合否判定会議の審議に基づき、飯南高等学校長が決定する。

6 合格内定の通知

- (1) 飯南高等学校長は、令和8年2月13日（金）9時30分以降に、選考の結果を連携型中高一貫教育に係る選抜結果通知書（様式20）により中学校長に通知し、合格内定者には中学校長を通じて連携型中高一貫教育に係る選抜合格内定通知書（様式21）を交付する。なお、連携型中高一貫教育に係る選抜結果通知書、連携型中高一貫教育に係る選抜合格内定通知書を受領する際は、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式23）の提示を必要とする。

また、令和8年2月13日（金）9時30分に、中学校等に関連を限定した三重県の専用ウェブページに合格内定者として受検番号を掲載する。

- (2) 合格内定の通知を受けた者は、三重県立高等学校に改めて志願することはできないものとする。

- (3) 合格内定者数の発表は、令和8年2月13日（金）16時とする。（三重県Webページへの掲載は2月14日（土））

7 合格者の発表

合格内定者については、令和8年3月17日（火）9時30分に、飯南高等学校において合格者として受検番号を掲示するとともに、合格内定通知書に添付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者として受検番号を掲載し、発表する。

8 合格内定とならなかった者の後期選抜への応募

選考の結果、合格内定とならなかった者は、第1・1により、改めて応募するものとする。

第6 特 別 選 抜

1 募 集

(1) 特別選抜を実施する高等学校及び課程

- ア 三重県立あけぼの学園高等学校（全日制課程）
- イ 三重県立四日市工業高等学校（定時制課程）
- ウ 三重県立北星高等学校（定時制課程）
- エ 三重県立飯野高等学校（定時制課程）
- オ 三重県立みえ夢学園高等学校（定時制課程）
- カ 三重県立伊勢まなび高等学校（定時制課程）

(2) 応募資格

第1・1・(1)の 応募資格を有し、かつ次の各号のいずれか一つに該当するものとする。

- ア 三重県立あけぼの学園高等学校
 - (7) 高等学校等を中途退学した者
 - (4) 何らかの理由により中学校等の卒業時に高等学校等へ進学できなかった者
- イ 三重県立四日市工業高等学校
 - (7) 高等学校等を中途退学した者
 - (4) 令和8年3月31日までに満20歳以上になる者
- ウ 三重県立北星高等学校
 - (7) 令和7年3月以前に中学校等を卒業した者等
- エ 三重県立飯野高等学校
 - (7) 高等学校等を中途退学した者
 - (4) 何らかの理由により中学校等の卒業時に高等学校等へ進学できなかった者
 - (4) 令和8年3月31日までに満20歳以上になる者
- オ 三重県立みえ夢学園高等学校
 - (7) 令和7年3月以前に中学校等を卒業した者等
- カ 三重県立伊勢まなび高等学校
 - (7) 高等学校等を中途退学した者
 - (4) 何らかの理由により中学校等の卒業時に高等学校等へ進学できなかった者
 - (4) 令和8年3月31日までに満20歳以上になる者

※ 上記(2)に該当する者が当該高等学校を志願する場合は、特別選抜によるものとし、前期選抜には志願することができない。

(3) 募集枠

課 程	学 校 名	学 科 名	募 集 枠
全日制	あけぼの学園高等学校	総合学科	5%
定時制	四日市工業高等学校	機械交通工学科 住システム工学科	10% 10%
	北星高等学校	普通科（昼間部） 情報ビジネス科（昼間部）	} くくり募集 5%
		普通科（夜間部）	10%
	飯野高等学校	普通科	5%
	みえ夢学園高等学校	総合学科（午前の部）	10%
		総合学科（午後の部）	10%
		総合学科（夜間部）	10%
	伊勢まなび高等学校	普通科（午前の部）	10%
		普通科（午後の部）	10%
		ものづくり工学科（夜間部）	10%

（備考） 募集枠は入学定員に対する割合（%）を示す。

(4) 募集方法

ア 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和7年12月1日（月）9時から 令和8年1月15日（木）17時まで

(4) 出願書類の受付（土曜日及び日曜日は除く。）

区 分	受 付 期 間	受 付 時 間
全日制	令和8年1月23日（金）から 令和8年1月27日（火）まで	9時から16時まで （締切日は9時から15時までとする。）
定時制	令和8年1月23日（金）から 令和8年1月27日（火）まで	13時から20時まで （締切日は13時から17時までとする。）

（備考） 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

イ 応募手続

(7) 特別選抜への志願者は、前期選抜への出願はできない。

(イ) 志願者は、第1・1・(4)・アによる手続とともに、Web出願システムにより入学確約を行い、下記の書類をそろえて、志願先高等学校長に提出する。

a 収入証紙納付書（様式2）（第1・1・(4)・ア(イ) bの手続きにより納付する場合のみ）

b 調査書（様式4）

（ただし、令和2年3月以前の中学校等卒業者及び北星高等学校志願者は卒業証明書をもってこれに代える。）

c 志願理由書（様式18）

d 応募資格を証明する書類（「(2) 応募資格」のア・(7)、イ・(7)、エ・(7)、カ・(7)に該当する者のみ）

高等学校等を中途退学した者で、

・ 高等学校等での修得単位がない者 --- 高等学校等の在籍証明書（在学期間が明示されたもの）

・ 高等学校等で単位を修得した者 ----- 高等学校等の単位修得証明書又は単位修得の状況がわかる成績証明書

e その他志願先高等学校長が必要とする書類

2 検 査

(1) 検査内容

学 校 名	検 査	実 施 概 要
あけぼの学園高等学校	面 接	個人面接（２０分程度） 志望動機、本校で学ぶことへの意欲・関心、将来の目標、中学校での活動等について応答する。
	作 文	５０分・１０００字程度
四日市工業高等学校	面 接	個人面接（１５～２０分程度） 定時制工業高等学校に関する興味・関心、意欲等について応答する。
	作 文	４５分・６００字程度
	実技検査	１０分程度 中学校技術・家庭（技術分野）に係る知識と技能を問う作業
北星高等学校	「自己表現」	「自己表現」（２分）＋個人面接（５分程度） 「自己表現」は、事前課題に基づき、各自が準備した内容を発表する。ただし、準備物等の持ち込みは不可とする。
飯野高等学校	面 接	個人面接（１０分程度） 志望動機、意欲・関心等について応答する。
	作 文	４５分・８００字程度
みえ夢学園高等学校	面 接	個人面接（２０分程度） 志望動機、将来の目標等について応答する。
	作 文	４５分・６００字程度
伊勢まなび高等学校	面 接	個人面接（２０分程度） 志願理由書の内容を中心に、志望の動機、目的意識、意欲・関心及び学校生活への適性等について応答する。
	作 文	４５分・４００字以内

(2) 期日及び会場

ア 期 日 令和８年２月３日（火）、４日（水）
イ 会 場 志願先高等学校

3 追検査

(1) 追検査を受けられる者

特別選抜を志願する者のうち、検査の当日、病気等やむを得ない理由によってその一部又はすべてを受けられなかった者で、追検査を希望する者。

(2) 受検の手続

令和８年２月４日（水）１２時までに志願先高等学校長にその旨を申し出るとともに、特別選抜追検査受検願書（様式１０）に必要事項を記入のうえ、追検査受検の理由を証明する書類（医師の診断書等）及び受検票（様式３）を添えて、速やかに志願先高等学校長に提出する。ただし、２月４日（水）に検査を実施する高等学校においては、２月４日（水）１７時までに志願先高等学校長にその旨を申し出るとともに、所定の手続を行う。

(3) 期日及び会場

ア 期 日 令和８年２月１０日（火）
イ 会 場 志願先高等学校

4 選抜方法

調査書（様式4 北星高等学校を除く。）、志願理由書（様式18）、面接又は「自己表現」、作文の結果を資料として総合的に判断し、合格内定者を決定する。

5 合格内定者の決定

合格内定者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

6 合格内定の通知

- (1) 各高等学校長は、令和8年2月13日（金）9時30分以降に、合格内定者に特別選抜合格内定通知書（様式21）により通知する。
- (2) 合格内定の通知を受けた者は、三重県立高等学校に改めて志願することはできないものとする。
- (3) 合格内定者数の発表は、令和8年2月13日（金）16時とする。

7 合格者の発表

合格内定者については、令和8年3月17日（火）9時30分に、志願先高等学校において合格者として受検番号を掲示するとともに、合格内定通知書に添付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者として受検番号を掲載し、発表する。

8 合格内定とならなかった者の後期選抜への応募

選考の結果、合格内定とならなかった者は、第1・1により、改めて応募するものとする。

第7 海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜

1 応募資格

第1・1・(1)の応募資格を有する者で、次の条件を満たす者とする。

(1) 海外帰国生徒等の場合

原則として、外国に引き続き1年を超える期間在留して帰国し、令和8年4月1日現在、帰国後3年以内で保護者とともに三重県内に居住している者。ただし、保護者の帰国が遅れるときでも、保護者が志願者の入学後1年以内に帰国し、三重県内に志願者と同居することが確実な者であれば応募を認める。

(2) 外国人生徒等の場合

保護者とともに三重県内に居住しているか又は居住予定の外国籍を有する者で、入国後の在日期間が6年以内の者（ただし、「入国後の在日期間が6年以内」とは、原則として、入国した日から令和8年4月1日現在で6年を経過していない場合をいう。）

2 提出書類

前期選抜及び後期選抜における応募手続に加えて、次の書類を提出する。

(1) 応募資格を証明する書類

- ・ 海外帰国生徒等 ---- 海外生活を証明する書類（在住期間明示のもの）
- ・ 外国人生徒等 ---- 外国籍を有することを証明する書類及び入国後の在日期間が6年以内であることを証明する書類

(2) 海外帰国生徒・外国人生徒等特別枠適用申請書（様式16）

(3) その他志願先高等学校長が必要とする書類

3 募集人数

海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜の募集人数は、入学定員の枠内とし、各高等学校とも海外帰国生徒・外国人生徒等を合わせて、原則として前期選抜、後期選抜それぞれ3人以内とする。ただし、飯野高等学校（英語コミュニケーション科）については原則として前期選抜、後期選抜それぞれ原則として7人以内とし、みえ夢学園高等学校（総合学科（午前の部）、総合学科（午後の部））については原則として前期選抜、後期選抜それぞれ原則として5人以内とし、前期選抜又は後期選抜のみを実施している高等学校については原則として6人以内とする。

海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜の募集人数に満たない場合は、一般入学者で募集人数を満たすことができる。

4 前期選抜

(1) 応募資格

第2・**1**・(2)の応募資格を有する者とする。

(2) 志願できる高等学校、校舎、学科・コース

- ・ 桑名北高等学校（普通科）
- ・ いなべ総合学園高等学校（総合学科）
- ・ 四日市四郷高等学校（普通科、普通科・スポーツ科学コース）
- ・ 川越高等学校（国際探究科）
- ・ 飯野高等学校（英語コミュニケーション科）
- ・ 稲生高等学校（普通科、体育科）
- ・ 津西高等学校（国際科学科）
- ・ 津東高等学校（普通科）
- ・ 久居高等学校（普通科）
- ・ あけぼの学園高等学校（総合学科）
- ・ 名張高等学校（総合学科）
- ・ 名張青峰高等学校（普通科、普通科・文理探究コース）
- ・ 松阪商業高等学校（国際ビジネス科）
- ・ 飯南高等学校（総合学科）
- ・ 昂学園高等学校（総合学科）
- ・ 宇治山田商業高等学校（国際科）
- ・ 鳥羽高等学校（総合学科）
- ・ 尾鷲高等学校（普通科、普通科・プログレッシブコース、情報ビジネス科、システム工学科）
- ・ 熊野青藍高等学校木本校舎（総合学科）
- ・ 熊野青藍高等学校紀南校舎（総合学科）
- ・ 北星高等学校（普通科（昼間部）、情報ビジネス科（昼間部））
- ・ みえ夢学園高等学校（総合学科（午前の部）、総合学科（午後の部））

(3) 実施方法

「第2 前期選抜」に基づいて実施する。

(4) 選抜方法

第2・**4**によるが、海外帰国生徒・外国人生徒等の事情を十分配慮したうえで決定する。

(5) 合格内定者の決定

合格内定者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

(6) 合格内定とならなかった者の後期選抜への応募

第2・**8**によるが、後期選抜における海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜に出願することもできる。

5 後期選抜

(1) 応募資格

第3・**1**・(2)の応募資格を有する者とする。

(2) 志願できる高等学校、校舎、学科・コース

- ・ 桑名北高等学校（普通科）
- ・ いなべ総合学園高等学校（総合学科）
- ・ 四日市四郷高等学校（普通科）
- ・ 川越高等学校（探究科、国際探究科）
- ・ 飯野高等学校（英語コミュニケーション科）
- ・ 稲生高等学校（普通科）
- ・ 津西高等学校（普通科、国際科学科）
- ・ 津東高等学校（普通科）
- ・ 久居高等学校（普通科）
- ・ あけぼの学園高等学校（総合学科）
- ・ 名張高等学校（総合学科）
- ・ 名張青峰高等学校（普通科、普通科・文理探究コース）
- ・ 松阪商業高等学校（国際ビジネス科）
- ・ 飯南高等学校（総合学科）
- ・ 宇治山田商業高等学校（国際科）
- ・ 鳥羽高等学校（総合学科）
- ・ 尾鷲高等学校（普通科、普通科・プログレッシブコース、情報ビジネス科、システム工学科）
- ・ 熊野青藍高等学校木本校舎（総合学科）
- ・ 熊野青藍高等学校紀南校舎（総合学科）
- ・ 北星高等学校（普通科（昼間部）、情報ビジネス科（昼間部））
- ・ みえ夢学園高等学校（総合学科（午前の部）、総合学科（午後の部））

(3) 募集方法

ア 受付期間、受付時間

第3・**1**・(3)・アによる。

イ 応募手続

第3・**1**・(3)・イによる。

(4) 志願変更

後期選抜において出願関係書類受付締切後、海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜（以下、特別枠選抜という）から特別枠以外の選抜への志願変更又は特別枠以外の選抜から特別枠選抜への志願変更を希望する者は、志願変更受付期間内において、1回に限り変更することができる。なお、中学校等が手続を行う場合は、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式23）の提示を必要とする。

既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が手続を行う。また、県外からの志願者については、原則として保護者が手続を行う。

ア 変更手続（志願した高等学校又は課程、学科・コース内において、志願変更する場合）

- ・ 特別枠に係る志願変更をしようとする者は、在学する中学校等の校長に申し出るとともに、海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜の志願変更願（様式9）を、在学する中学校等の校長に提出する。
- ・ 中学校等の校長はWeb出願システムにより、出願した高等学校長に、PDFにした海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜の志願変更願（様式9）のデータを提出

する。

a 特別枠選抜から特別枠以外の選抜への志願変更の場合

中学校等の校長は、出願した高等学校長から海外帰国生徒・外国人生徒等特別枠適用申請書（様式１６）と応募資格を証明する書類の返付を受ける。

b 特別枠以外の選抜から特別枠選抜への志願変更の場合

中学校等の校長は、出願した高等学校長に海外帰国生徒・外国人生徒等特別枠適用申請書（様式１６）及び応募資格を証明する書類を提出する。

（備考） 志願高等学校又は課程、学科・コースを変更する場合は、第３・1・(4)・イにより、手続を行う。

イ 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜の志願変更願（様式９）の受付

課 程	受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
全日制	令和８年２月２７日(金)９時から 令和８年３月５日(木)１２時まで
定時制	令和８年２月２７日(金)９時から 令和８年３月４日(水)１７時まで

(イ) 海外帰国生徒・外国人生徒等特別枠適用申請書（様式１６）及び応募資格を証明する書類の返付及び受付

課 程	受 付 期 間	受 付 時 間
全日制	令和８年３月３日(火)から 令和８年３月５日(木)まで	９時から１６時まで (締切日は９時から１２時までとする。)
定時制	令和８年３月３日(火)から 令和８年３月４日(水)まで	１３時から２０時まで (締切日は１３時から１７時までとする。)

(5) 検査期日 令和８年３月１０日（火）

(6) 検査内容等

作文と面接

なお、各高等学校長の判断により学力検査を課することができる。（別表７参照）

また、作文と面接の使用言語については、母語（または英語）又は日本語により実施できるととし、各高等学校長が定めるものとする。

(7) 検査会場

志願先高等学校（熊野青藍高等学校を志願する者は、木本校舎において受検する。）

(8) 選抜方法

調査書（様式４）、学力検査の成績及び面接・作文の結果等を選抜資料とし、総合的に判定して入学者の選抜を行い、合格者を決定する。

(9) 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

第8 スポーツ特別枠選抜

1 募 集

(1) スポーツ特別枠選抜を実施する高等学校の募集競技、募集学科及び募集人数等

スポーツ特別枠選抜を実施する高等学校の募集競技、募集学科及び募集人数は別表5に、各高等学校の「応募資格」「実技検査」「選抜方法」は別表6にそれぞれ示すとおりとする。

(2) 応募資格

スポーツ特別枠選抜を志願できる者は、第1・1・(1)の応募資格を有する者及び「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」に定める入学志願のできる者のうち、別表6に定める各高等学校の「応募資格」を有する者とする。なお、「通学区域に関する規則」別表特例2により、第1・1・(3)の志願できる区域にかかわらず入学志願できる。

(3) 募集方法

ア 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力の受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和7年12月1日（月）9時から 令和8年1月15日（木）17時まで

(4) Web出願システムによる調査書等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年1月16日（金）9時から 令和8年1月22日（木）17時まで

(5) 出願書類の受付（土曜日及び日曜日は除く。）

受 付 期 間	受 付 時 間
令和8年1月23日（金）から 令和8年1月27日（火）まで	9時から16時まで （締切日は9時から15時までとする。）

（備考） 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

イ 応募手続

(7) 志願者は、スポーツ特別枠選抜を実施する高等学校のうち、1校の1競技、1学科・コースについてのみ出願できる。

なお、志願した高等学校の同一学科において前期選抜が実施される場合は、同時に当該学科の前期選抜へも志願することとなる。ただし、普通科については、保護者の転住を伴わず県外から入学志願できる高等学校以外の高等学校に志願学区外から志願する場合は、この限りではない。

また、スポーツ特別枠選抜への志願者は、連携型中高一貫教育に係る選抜、特別選抜への出願はできない。

(4) 志願者は、第1・1・(4)・アによる手続とともに、Web出願システムにより入学確約及び入部確約を行い、スポーツ特別枠自己推薦書（様式19）に所定の事項を記入して、中学校等の校長に提出する。

ただし、既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が志願先高等学校長に提出する。

(5) 中学校等の校長は、第1・1・(4)・イの(7)、(4)・aによる手続とともに、志願者による上記(4)の手続き及び書類に誤りのないことを確認し、志願先高等学校長に提出する。

なお、スポーツ特別枠自己推薦書（様式19）については、志願者から提出されたスポ

スポーツ特別枠自己推薦書（様式１９）のPDFファイルをWeb出願システムにより志願先高等学校長に提出する。

2 検 査

(1) 検査内容

第２・**2**・(1)の検査内容及び各高等学校が定める実技検査等を実施する。

（別表２、６参照）

(2) 期日及び会場

ア 期 日 令和８年２月３日（火）、４日（水）
（学力検査については、２月３日（火）に実施し、前期選抜と同じ日程で行う。また、学力検査以外の検査の日程及び方法等については、当該高等学校長が志願者に適宜通知する。）
イ 会 場 志願先高等学校

3 追検査

(1) 追検査を受けられる者

スポーツ特別枠選抜を志願する者のうち、検査の当日、病気等やむを得ない理由によってその一部又はすべてを受けられなかった者で、追検査を希望する者。

(2) 受検の手続

令和８年２月４日（水）１２時までに在学する中学校等の校長を通して志願先高等学校長にその旨を申し出るとともに、スポーツ特別枠選抜追検査受検願書（様式１０）に必要事項を記入のうえ、追検査受検の理由を証明する書類（医師の診断書等）及び受検票（様式３）を添えて、速やかに志願先高等学校長に提出する。ただし、２月４日（水）に検査を実施する高等学校においては、２月４日（水）１７時までに、志願先高等学校長にその旨を申し出るとともに、所定の手続を行う。

なお、手続には、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式２３）の提示を必要とする。

既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が手続を行う。また、県外からの志願者については、原則として保護者が手続を行う。

(3) 期日及び会場

ア 期 日 令和８年２月１０日（火）
イ 会 場 志願先高等学校
詳細については、当該高等学校長が志願者に適宜通知する。

(4) 報 告

学力検査を実施する高等学校で追検査を希望する申し出があれば、当該高等学校長は速やかに追検査を実施する教科、人数を三重県教育委員会事務局高校教育課に報告する。

4 選抜方法

各高等学校の選抜方法は、別表６に示すとおりとする。

5 合格内定者の決定

- (1) 合格内定者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。
- (2) スポーツ特別枠選抜において合格内定とならなかった者は、第2・4により前期選抜の志願者として選抜する。

6 合格内定の通知

- (1) 各高等学校長は、令和8年2月13日（金）9時30分以降に、選考の結果をスポーツ特別枠選抜結果通知書（様式20）により中学校等の校長に通知し、合格内定者には在学する中学校等の校長を通じてスポーツ特別枠選抜合格内定通知書（様式21）を交付する。また、前期選抜の志願者として合格内定した場合は、前期選抜合格内定通知書（様式21）を交付する。なお、スポーツ特別枠選抜結果通知書、スポーツ特別枠選抜合格内定通知書、前期選抜合格内定通知書を受領する際は、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式23）の提示を必要とする。

合格内定者のうち、既に中学校等を卒業した者については、令和8年2月13日（金）9時30分以降に、スポーツ特別枠選抜合格内定通知書を志願者に直接交付する。また、前期選抜の志願者として合格内定した場合は、前期選抜合格内定通知書を志願者に直接交付する。

なお、令和8年2月13日（金）9時30分に、中学校等に関連を限定した三重県の専用ウェブページに合格内定者として受検番号を掲載する。

- (2) 合格内定の通知を受けた者は、三重県立高等学校に改めて志願することはできないものとする。
- (3) 前期選抜を含めた合格内定者数の発表は、令和8年2月13日（金）16時とする。

7 合格者の発表

合格内定者については、令和8年3月17日（火）9時30分に、志願先高等学校において合格者として受検番号を掲示するとともに、合格内定通知書に添付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者として受検番号を掲載し、発表する。

8 合格内定とならなかった者の後期選抜への応募

選考の結果、スポーツ特別枠選抜及び前期選抜のいずれにおいても合格内定とならなかった者は、第1・1により、改めて応募するものとする。

9 その他

- (1) 県内居住者の志願学区外の高等学校への入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の「1」による。
- (2) 県外からの三重県立高等学校への入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の

「2」による。

- (3) 県内居住者で令和7年度に県外の中学校等を卒業する者の入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の
「3」による。
- (4) 志願学区外に居住する県内居住者の、「通学区域に関する規則」別表特例に定める高等学校
への入学志願について
「令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」の
「4」による。

Ⅱ 通信制課程入学者選抜実施要項

1 募 集

(1) 通信制課程設置高等学校

学 校 名	所 在 地	郵便番号	電話番号
北 星 高 等 学 校	四日市市大字茂福字横座668-1	510-8027	059-363-8111
松 阪 高 等 学 校	松阪市垣鼻町1664	515-8577	0598-26-7522

(2) 応募資格

三重県内に居住し、次のア、イ、ウのいずれかに該当する者とする。ただし、高等学校等に在籍している者を除く。

ア 学校教育法第1条に規定する中学校もしくは特別支援学校の中学部もしくは義務教育学校を卒業した者又は令和8年3月卒業見込みの者

イ 学校教育法第1条に規定する中等教育学校の前期課程を修了した者又は令和8年3月修了見込みの者

(以下、中学校、特別支援学校の中学部、義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を総称して「中学校等」という。)

ウ 学校教育法施行規則(昭和22年5月文部省令第11号)第95条各号の一に該当する者
外国の中学校等を既に卒業した者が志願する場合、三重県立高等学校入学者選抜への応募資格を出願手続までに三重県教育委員会高校教育課で確認する。

(3) 入学定員

学 校 名	学科名	入 学 定 員	
北 星 高 等 学 校	普通科	240	(秋期入学者選抜) 60
松 阪 高 等 学 校	普通科	200	

※ 北星高等学校の入学定員300人のうち、60人は秋期入学者選抜とする。

(4) 募集方法

ア 応募手続

(ア) 志願者は、三重県立高等学校入学者選抜Web出願システム(以下「Web出願システム」という。)の入学願書(様式1)に、出願に必要な情報(以下「志願情報」という。)を入力する。前期選抜志願者は、Web出願システムにて入学確約を行い、自己推薦書(様式17)に所定の事項を記入して、在学する中学校等の校長に提出する。ただし、既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が志願先高等学校長に提出する。

(イ) 中学校等が、調査書(様式4)及び志願者一覧表(様式22)を選抜ごとに作成する。

令和7年度卒業見込みの志願者については、志願先高等学校ごとに調査書(様式4)のデータ、志願者一覧表(様式22)及び自己推薦書(様式17)(前期選抜のみ)のPDFファイルをWeb出願システムにより提出する。

令和6年度以前に中学校等を卒業した者が志願する場合、卒業した中学校等の校長が調査書(様式4)1通を厳封して本人に交付する。また、志願者一覧表(様式22)は提出しない。

(ウ) 次の書類を志願先高等学校長に提出する。

調査書(様式4)(令和6年度以前に中学校等を卒業した志願者のみ)(ただし、令和2年3月以前の中学校等卒業者については、卒業証明書をもってこれに代える。また、外国の中学校等を卒業又は卒業見込みの志願者で、調査書(様式4)のデータの登録や調査書(様式4)の記載が無理な場合は、外国における最終学校の成績証明書、もしくは

は、これに代わるもので代替することができる。)

外国の中学校等を既に卒業した者は、応募資格を証明する書類を志願する高等学校に提示する。

なお、令和7年度卒業見込みの志願者の在学する中学校等が手続を行う場合は、手続の際に入学選抜又は入学選考事務に係る証明書(様式23)の提示を必要とする。

- (イ) 入学願書データ、調査書等データ及び出願書類(これらをあわせて、以下「出願書類等」という。)を志願先高等学校で受理された者は、受検票発行メールの受信後、受検票(様式3)をWeb出願システムから印刷して写真を貼付し、写真の上に所定のシールを貼る。

イ その他

- (7) 受検票写真の上に貼付する所定のシールは、中学校等、志願先高等学校、最寄りの市町等教育委員会又は三重県教育委員会事務局高校教育課に請求する。
(イ) 入学選抜手数料及び入学料は不要である。

2 前期選抜

(1) 実施する高等学校及び募集枠

三重県立北星高等学校で実施し、募集枠は入学定員の20%とする。

(2) 受付期間及び受付時間

ア Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和7年12月1日(月)9時から 令和8年1月15日(木)17時まで

イ Web出願システムによる調査書等の受付(令和7年度中学校等卒業見込者)

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年1月16日(金)9時から 令和8年1月22日(木)17時まで

ウ 出願書類の受付(土曜日及び日曜日は除く。)

受 付 期 間	受 付 時 間
令和8年1月23日(金)から 令和8年1月27日(火)まで	13時から20時まで (締切日は13時から17時までとする。)

(備考) 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

(3) 検 査

ア 検査内容 「自己表現」

イ 期日及び会場

- (7) 期 日 令和8年2月3日(火)
(イ) 会 場 三重県立北星高等学校

(4) 追検査

ア 追検査を受けられる者

前期選抜に志願する者のうち、検査の当日、病気等やむを得ない理由によってその一部又はすべての検査を受けられなかった者で、追検査を希望する者。

イ 受検の手続

令和8年2月4日(水)12時までに北星高等学校長にその旨を申し出るとともに、前期選抜追検査受検願書(様式10)に必要事項を記入のうえ、追検査受検の理由を証明する書類(医師の診断書等)及び受検票(様式3)を添えて、北星高等学校長に提出する。ただし、在学する中学校等の校長を通じて出願した者については、I・第2・3・(2)に準じて行う。

ウ 期日及び会場

- (7) 期 日 令和8年2月10日(火)
(イ) 会 場 三重県立北星高等学校

(5) 選 抜

ア 選抜方法

調査書及び「自己表現」の結果に基づいて選抜を行う。

イ 合格内定者の決定

合格内定者は、合否判定会議の審議に基づき、北星高等学校長が決定する。

(6) 合格内定の通知

北星高等学校長は、令和8年2月13日（金）9時30分以降に、合格内定者に前期選抜合格内定通知書（様式21）により通知する。

ただし、在学する中学校等の校長を通じて出願した者については、I・第2・**6**に準じて行う。

(7) 合格者の発表

合格内定者については、令和8年3月17日（火）9時30分に、北星高等学校において合格者として受検番号を掲示するとともに、合格内定通知書に添付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者として受検番号を掲載し、発表する。

3 後期選抜

(1) 後期選抜を実施する高等学校の学科等

後期選抜を実施する高等学校の学科等は別表1に示すとおりとする。

後期選抜の募集人数は、令和8年2月13日（金）16時に発表する。（三重県Webページへの掲載は2月14日（土））

(2) 受付期間及び受付時間

ア Web出願システムによる入学願書入力の受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年2月5日（木）9時から 令和8年2月20日（金）17時まで

イ Web出願システムによる調査書等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

学校名	受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
松阪	令和8年2月16日（月）9時から 令和8年2月25日（水）12時まで
北星	令和8年2月16日（月）9時から 令和8年2月25日（水）17時まで

ウ 出願書類の受付

受 付 期 間	学校名	受 付 時 間
令和8年2月24日（火）から 令和8年2月25日（水）まで	松阪	9時から16時まで （締切日は9時から12時までとする。）
	北星	13時から20時まで （締切日は13時から17時までとする。）

（備考） 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

(3) 志願高等学校等の変更

出願書類受付締切後、志願した高等学校又は課程、学科・コースの変更を希望する者は、志願変更受付期間内において、1回に限り変更することができる。

なお、志願者は、第1志望の変更と関係なく、第2志望も同様に1回に限り変更することができる。ただし、第1志望及び第2志望ともに変更する場合は、同時に変更しなければならない。

ア 変更手続

I・第3・**1**・(4)のイによる。

※ 志願する課程を変更する場合は、入学選抜手数料を、次のa、bいずれかの方法で納付する。

- a Web出願システムにより、通信制課程から全日制課程への変更の場合は2,200円、通信制課程から定時制課程への変更の場合は950円を電子納付する。
- b 収入証紙納付書（様式2）に、通信制課程から全日制課程への変更の場合は2,200円、通信制課程から定時制課程への変更の場合は950円の三重県収入証紙を貼付して、イ・ウの受付期間内に在学する中学校等の校長を経由して志願変更先の高等学校長に提出する。
- なお、全日制課程及び定時制課程から通信制課程に変更する場合、納付済みの入学選抜手数料は返却しない。

イ 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

学校名	受付期間・受付時間
松阪	令和8年2月27日（金）9時から 令和8年3月4日（水）16時まで
北星	令和8年2月27日（金）9時から 令和8年3月4日（水）17時まで

(イ) Web出願システムによる中学校等からの調査書及び志願校及び志願学科等変更願等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者） ※ 調査書の提出は志願高等学校を変更する場合のみ

学校名	受付期間・受付時間
松阪	令和8年2月27日（金）9時から 令和8年3月4日（水）16時まで
北星	令和8年2月27日（金）9時から 令和8年3月4日（水）17時まで

(ウ) 志願変更書類の受付期間及び受付時間

受付期間	学校名	受付時間
令和8年3月3日（火）から 令和8年3月4日（水）まで	松阪	9時から16時まで
	北星	13時から20時まで （締切日は13時から17時までとする。）

(4) 検査

ア 検査内容 面接及び作文

イ 期日及び会場

- (7) 期 日 令和8年3月10日（火）
- (イ) 会 場 志願先高等学校

(5) 選 抜

ア 選抜方法

調査書（様式4）、面接及び作文の結果に基づいて選抜を行う。

イ 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

(6) 合格者の発表

令和8年3月17日（火）9時30分に、志願先高等学校において合格者の受検番号を掲示するとともに、受検時に受検者に配付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者の受検番号を掲載し、発表する。

(7) 追検査

ア 追検査を受けられる者

後期選抜に志願する者のうち、検査の当日、病気等やむを得ない理由によってその一部又はすべての検査を受けられなかった者で、追検査を希望する者。

イ 受検の手続

令和8年3月10日（火）15時までに志願先高等学校長にその旨を申し出るとともに、松阪高等学校は令和8年3月18日（水）から3月19日（木）12時まで、北星高等学校は

令和8年3月18日（水）から3月19日（木）17時までに、後期選抜追検査受検願書（様式10）に必要事項を記入のうえ、追検査受検の理由を証明する書類（医師の診断書等）及び受検票を添えて、志願先高等学校長に提出する。ただし、在学する中学校等の校長を通じて出願した者については、Ⅰ・第3・7・(2)に準じて行う。

ウ 期日及び会場

- (ア) 期 日 令和8年3月23日（月）
(イ) 会 場 志願先高等学校

エ 選 抜

選抜方法及び合格者の決定については、後期選抜と同様とする。

オ 合格者の発表

令和8年3月25日（水）9時30分に、志願先高等学校において合格者の受検番号を掲示するとともに、受検時に受検者に配付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者の受検番号を掲載し、発表する。

4 再募集

合格者が入学定員に満たないときは、再募集を行う。

(1) 募集定員

再募集を行う高等学校の学科及び募集定員は、令和8年3月17日（火）9時30分に公告する。

(2) 受付期間及び受付時間

ア Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年3月17日（火）10時から 令和8年3月26日（木）12時まで

イ Web出願システムによる調査書等の受付（令和7年度中学校等卒業見込者）

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年3月17日（火）10時から 令和8年3月26日（木）12時まで

ウ 出願書類の受付

受 付 期 間	受 付 時 間
令和8年3月25日（水）から 令和8年3月26日（木）まで	9時から16時まで （締切日は9時から12時までとする。）

（備考） 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

(3) 検 査

ア 検査内容

後期選抜と同じ検査内容で実施する。

イ 期日及び会場

- (ア) 期 日 令和8年3月27日（金）
(イ) 会 場 志願先高等学校

(4) 選 抜

選抜方法及び合格者の決定については、後期選抜と同様とする。

(5) 合格者の発表

令和8年3月31日（火）9時30分に、志願先高等学校において合格者の受検番号を掲示するとともに、受検時に受検者に配付する連絡文書に記載の閲覧者を限定した三重県の専用ウェブページに合格者の受検番号を掲載し、発表する。

なお、入学定員に満たない場合でも、追加して募集は行わない。

ただし、秋期入学者選抜は、「Ⅲ 秋期入学者選抜実施要項」のとおり行うものとする。

5 その他

- (1) 第7・**1**・(2)に係る外国人生徒等の入学志願者の選抜に当たっては、事情を十分配慮しうえで可否を決定する。
- (2) 中学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者の取扱い
学校教育法施行規則第95条第5号の適用を受けようとする者が出願書類等を提出したときは、志願先高等学校において仮受付を行い、志願先高等学校長が中学校卒業者と同等以上の学力があると認定した場合、正式に出願書類等の受付を行い、入学者選抜の対象とする。

Ⅲ 秋期入学者選抜実施要項

1 募 集

(1) 秋期入学者選抜を実施する高等学校及び課程

三重県立北星高等学校 定時制課程及び通信制課程

(2) 応募資格

次のア、イ、ウのいずれかの条件を満たし、かつエ又はオに該当するものとする。ただし、高等学校等に在籍している者を除く。

ア 学校教育法第1条に規定する中学校もしくは特別支援学校の中学部もしくは義務教育学校を卒業した者

イ 学校教育法第1条に規定する中等教育学校の前期課程を修了した者

(以下、中学校、特別支援学校の中学部、義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を総称して「中学校等」という。)

ウ 学校教育法施行規則(昭和22年5月文部省令第11号)第95条各号の一に該当する者

エ 定時制課程を志願する場合は、県内に居住又は勤務している者

オ 通信制課程を志願する場合は、県内に居住している者

外国の中学校等を既に卒業した者が志願する場合、三重県立高等学校入学者選抜への応募資格を出願手続までに三重県教育委員会高校教育課で確認する。

(3) 入学定員

区 分	学 科 名	入学定員
定時制	普通科(昼間部)	4
	情報ビジネス科(昼間部)	
	普通科(夜間部)	2
通信制	普通科	60

(4) 募集方法

ア 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年8月3日(月)9時から 令和8年9月1日(火)17時まで

(4) 出願書類の受付(土曜日及び日曜日は除く)

受 付 期 間	受 付 時 間
令和8年8月28日(金)から 令和8年9月1日(火)まで	13時から20時まで (締切日は13時から17時までとする。)

(備考) 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

イ 応募手続

(7) 志願者は、三重県立高等学校入学者選抜Web出願システム(以下「Web出願システム」という。)の入学願書(様式1)に、出願に必要な情報(以下、「志願情報」という。)を入力する。

(4) 定時制課程の志願者のみ、入学選抜手数料を、次のa、bいずれかの方法で納付する。

a Web出願システムにより、950円を電子納付する。

b 収入証紙納付書(様式2)に、950円の三重県収入証紙を貼付する。

- (ウ) 志願者は、次の書類をア・(イ)の受付期間及び受付時間に北星高等学校に提出する。
- ・ 収入証紙納付書（様式2）（(イ) bの手続により納付する場合のみ）
 - ・ 調査書（様式4）（ただし、令和3年3月以前の中学校等卒業者については、卒業証明書をもってこれに代える。）
- ※ 外国の中学校等を既に卒業した者は、応募資格を証明する書類を志願する高等学校に提示する。
- (エ) 入学願書データ、調査書等データ及び出願書類（以下「出願書類等」という。）を北星高等学校に受理された者は、受検票発行メールの受信後、受検票（様式3）をWeb出願システムから印刷して写真を貼付し、写真の上に所定のシールを貼る。

ウ その他

- (ア) 受検票写真の上に貼付する所定のシールは、北星高等学校又は三重県教育委員会事務局高校教育課に請求する。
- (イ) 通信制課程のみの志願については、入学選抜手数料及び入学料は不要である。

2 検 査

- (1) 検査内容 面接及び作文

- (2) 期日及び会場

ア 期 日	令和8年9月8日（火）
イ 会 場	三重県立北星高等学校

3 選 抜

- (1) 選抜方法
調査書（様式4）、面接及び作文の結果に基づいて選抜を行う。
- (2) 合格者の決定
合格者は、合否判定会議の審議に基づき、北星高等学校長が決定する。

4 合格者の発表

- (1) 発表の日時 令和8年9月10日（木）9時30分
- (2) 発表の方法 北星高等学校において合格者の受検番号を掲示し、発表する。

5 追検査

- (1) 追検査を受けられる者
秋期入学選抜を志願する者のうち、検査の当日、病気等やむを得ない理由によってその一部又はすべてを受けられなかった者で、追検査を希望する者。
- (2) 受検の手続
令和8年9月8日（火）15時までに、北星高等学校長にその旨を申し出る。
- (3) 期日及び会場
- | | |
|-------|--------------|
| ア 期 日 | 令和8年9月20日（日） |
| イ 会 場 | 三重県立北星高等学校 |
- (4) 合格者の決定
合格者は、合否判定会議の審議に基づき、北星高等学校長が決定する。
- (5) 合格者の発表
令和8年9月25日（金）9時30分に、北星高等学校において合格者の受検番号を掲示し、

発表する。

6 再募集

合格者が入学定員に満たないときは、再募集を行う。

(1) 募集定員

令和8年9月10日（木）15時に北星高等学校において掲示し、発表する。

(2) 募集方法

ア 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年9月10日（木）15時から 令和8年9月17日（木）17時まで

(4) 出願書類の受付

受 付 期 間	受 付 時 間
令和8年9月16日（水）	13時から20時まで
令和8年9月17日（木）	13時から17時まで

（備考） 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

イ 応募手続

(7) 志願者は、Web出願システムの入学願書（様式1）に志願情報を入力して登録する。

(4) 定時制課程の志願者のみ、入学選抜手数料を、次のa、bいずれかの方法で納付する。

a Web出願システムにより、950円を電子納付する。

b 収入証紙納付書（様式2）に、950円の三重県収入証紙を貼付する。

(7) 志願者は、次の書類をア・(4)の受付期間及び受付時間に北星高等学校に提出する。

・ 収入証紙納付書（様式2）（(4)bの手続により納付する場合のみ）

・ 調査書（様式4）（ただし、令和2年3月以前の中学校等卒業者については、卒業証明書をもってこれに代える。）

(4) 出願書類等を北星高等学校に受理された者は、受検票発行メールの受信後、受検票（様式3）をWeb出願システムから印刷して写真を貼付し、写真の上に所定のシールを貼る。

ウ その他

(7) 受検票写真の上に貼付する所定のシールは、北星高等学校又は三重県教育委員会高校教育課に請求する。

(4) 通信制課程のみの志願については、入学選抜手数料及び入学料は不要である。

(3) 検 査

ア 検査内容 面接及び作文

イ 期日及び会場

(7) 期 日 令和8年9月20日（日）

(4) 会 場 三重県立北星高等学校

(4) 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、北星高等学校長が決定する。

(5) 合格者の発表

令和8年9月25日（金）9時30分に、北星高等学校において合格者の受検番号を掲示し、発表する。

IV 専攻科入学者選抜実施要項

三重県立水産高等学校漁業専攻科及び機関専攻科

1 募 集

(1) 応募資格

入学志願できる者は、次のア、イ、ウのいずれかの条件を満たし、かつエ及びオの両方に該当する者とする。（ただし、エは①、②のいずれかを満たすこと。）

ア 高等学校もしくは中等教育学校の卒業者又は令和8年3月卒業見込みの者

イ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は令和8年3月卒業見込みの者

ウ 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者又は令和8年3月31日までにこれに該当する見込みの者

エ ① 漁業専攻科を希望する場合は、五級以上の海技士（航海）免許状を有する者

機関専攻科を希望する場合は、五級以上の海技士（機関）免許状を有する者

② 漁業専攻科を希望する場合は、船舶職員養成施設の課程を修了又は修了見込みの者のうち、令和8年3月31日までに五級海技士（航海）の筆記試験の免除及び海技免許講習の修了が見込まれる者

機関専攻科を希望する場合は、船舶職員養成施設の課程を修了又は修了見込みの者のうち、令和8年3月31日までに五級海技士（機関）の筆記試験の免除及び海技免許講習の修了が見込まれる者

オ 乙区域もしくは甲区域で従事する総トン数20トン以上の漁船又はそれと同等の資格を有する船舶の乗船履歴3か月以上を有する者

ただし、機関専攻科への入学志願者は、乗船履歴の一部又は全部を工場実習履歴で代えることができる。

(2) 入学定員

漁業専攻科	第1学年	10人程度	} 合計 20人
機関専攻科	第1学年	10人程度	

(3) 募集方法

ア 受付期間及び受付時間

(7) Web出願システムによる入学願書入力受付

受 付 期 間 ・ 受 付 時 間
令和8年2月5日（木）9時から 令和8年2月20日（金）17時まで

(4) 出願書類の受付

課 程	受 付 期 間	受 付 時 間
全日制	令和8年2月24日（火）から 令和8年2月26日（木）まで	9時から16時まで （締切日は9時から12時までとする。）

（備考） 郵送の場合は、受付締切期限までに必着のこと。

イ 応募手続

(7) 志願者は、三重県立高等学校入学選抜Web出願システム（以下「Web出願システム」という。）の入学願書（様式1）に、出願に必要な情報（以下、「志願情報」という。）を入力する。

- (イ) 入学選抜手数料を、次の a、b いずれかの方法で納付する。
- a Web 出願システムにより、2,200 円を電子納付する。
 - b 収入証紙納付書（様式 2）に、2,200 円の三重県収入証紙を貼付する。
- (ウ) 次の書類を、上記ア・(イ)の出願書類の受付期間及び受付時間に、三重県立水産高等学校長に提出する。
- a 収入証紙納付書（様式 2）（(イ) b の手続により納付する場合）
 - b 卒業証明書
 - c 身体検査証明書（三重県立水産高等学校所定の様式による。）
 - d 最終出身学校長からの調査書
 - e 乗船実習履歴証明書又は工場実習証明書
- ただし、三重県立水産高等学校漁業科、海洋科、機関科及び海洋・機関科の卒業者又は令和 8 年 3 月卒業見込みの者は、b、c、e を省略することができる。
- なお、納付した入学選抜手数料は理由のいかんを問わず返却しない。
- (イ) 県立水産高等学校で出願書類等が受理された者は、受検票発行メールの受信後、受検票（様式 3）を Web 出願システムから印刷して写真を貼付し、写真の上に所定のシールを貼る。
- 受検票を、検査当日受付に提示する。
- (オ) 受検票写真の上に貼付する所定のシールは、三重県立水産高等学校（〒517-0703 三重県志摩市志摩町和具2578 電話 0599-85-0021 ）に請求する。
- なお、郵送希望者は、返信用封筒（宛名を記載し、簡易書留相当額の切手を貼付のこと）を添えて請求する。

2 面接検査

- (1) 検査期日 令和 8 年 3 月 10 日（火）
- (2) 受付 8 時 30 分から 8 時 50 分まで
- (3) 検査日程等
- | | |
|----------|-----------------------|
| ア 点呼・諸注意 | 9 時 00 分から 9 時 20 分まで |
| イ 面接 | 9 時 30 分から |
- (4) 検査会場 三重県立水産高等学校

3 選 抜

- (1) 選抜方法
- 選抜は、出身高等学校長から提出される書類及び面接の結果に基づいて、公正かつ的確に行う。
- (2) 合格者の決定
- 合格者は、合否判定会議の審議に基づき、三重県立水産高等学校長が決定する。

4 合格者の発表

令和 8 年 3 月 17 日（火）9 時 30 分に、三重県立水産高等学校において合格者の受検番号を掲示し、発表する。

(付) 令和8年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項

「三重県立高等学校通学区域に関する規則」(昭和33年三重県教育委員会規則第13号。以下「通学区域に関する規則」という。)に規定する、保護者の居住する住所の属する学区又は当該学区に隣接する学区(以下「志願学区」という。)外及び県外からの高等学校への入学志願については、「通学区域に関する規則」第3条第2項、第4条及び第5条並びに本取扱要項及び「保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項」の定めるところによる。

1 県内居住者の志願学区外の高等学校への入学志願について

1 入学志願のできる者

- (1) 保護者が本人の志願先高等学校の属する志願学区に転住した者、又は令和8年3月31日までに転住することの確実な者
- (2) その他特別な理由のある者

2 入学志願に係る申請手続

- (1) 提出書類
 - ・「通学区域外高等学校入学志願許可申請書」(様式12)(2部)
 - ・志願学区外への入学志願の理由を確実に証明する書類並びに保護者及び本人の住民票の写し

(2) 提出先

三重県教育委員会事務局高校教育課

(3) 提出期間

ア 前期選抜

- (ア) 出願書類受付期間前に入学志願許可書の交付を希望する場合

令和7年12月8日(月)から令和8年1月9日(金)までに郵送又は持参する。

※ 郵送する場合は簡易書留とし、提出締切日の消印のあるものを有効とする。

※ 持参する場合は12月29日(月)～1月2日(金)並びに土曜日及び日曜日は除く。

- (イ) 出願書類受付期間に入学志願許可書の即時交付を希望する場合

令和8年1月23日(金)または1月26日(月)に持参する。

イ 後期選抜

- (ア) 出願書類受付期間前に入学志願許可書の交付を希望する場合

令和8年1月27日(火)から2月16日(月)までに郵送又は持参する。

※ 郵送する場合は簡易書留とし、提出締切日の消印のあるものを有効とする。

※ 持参する場合は土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に定める休日(以下休日という。)は除く。

- (イ) 出願書類受付期間に入学志願許可書の即時交付を希望する場合

令和8年2月24日(火)または2月25日(水)に持参する。

2 県外からの三重県立高等学校への入学志願について

1 入学志願のできる者

- (1) 保護者が入学を志願する高等学校の属する志願学区に転住した者、又は令和8年3月31日までに転住することが確実な者
- (2) 保護者の居住する都道府県に入学を志願する学科を設置する高等学校がない者
- (3) 高等学校への出願について隣接する府県と締結している協定により三重県立高等学校に志願できる者
- (4) 「保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項」に定める高等学校に入学を希望する者(ただし、尾鷲市、熊野市及び南牟婁郡に所在する高等学校については、志願学区内に転住せずに保護者の居住する住居から通学する者も入学志願できる。)

※ 前期選抜(スポーツ特別枠選抜含む)及び後期選抜のみとする。

- (5) 高等学校の定時制課程に入学を希望する者で、入学の期日までに本県に転住又は勤務することが確実な者
- (6) 高等学校の通信制課程に入学を希望する者で、入学の期日までに本県に転住することが確実な者

(7) その他特別な理由がある者

2 入学志願に係る申請手続〔2〕・1・(3)に該当する者を除く)

全日制課程への志願者は三重県教育委員会教育長、定時制課程、通信制課程への志願者は志願先高等学校長の承認を得ること。ただし、再募集以降は、いずれの課程への志願者も志願先高等学校長の承認を得ることとする。

(1) 保証人に係る手続〔2〕・1の(2)又は(4)のいずれかに該当する者)

入学志願する者の保護者は、以下の手続を行う。

- ・「保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項」に定める保証人の役割を果たすことができる者に、保証人となることを依頼する。
- ・志願先高等学校長に保証人を立て出願したい旨を申し出るとともに面接の依頼及び面接日時等を調整する。
- ・11月28日(金)から入学志願許可申請手続までに、「保証人届(様式15)」及び保証人の住民票を志願先高等学校長に提出し、保証人が面接を受ける際に原則として同席する。

(2) 申請に係る手続

ア 提出書類

- ・「三重県立高等学校入学志願許可申請書」

全日制課程 - - - - - 様式13-1(前期選抜及び後期選抜)(2部)

様式13-2(再募集)

定時制課程、通信制課程 - - - - 様式13-2

- ・保護者及び本人の住民票の写し

- ・県外からの入学志願の理由を確実に証明する書類〔2〕・1の(1)、(5)、(6)、(7)のいずれかに該当する者)

- ・「保証人届(様式15)」(志願先高等学校長の副申済のもの)及び保証人の住民票の写し〔2〕・1の(2)又は(4)のいずれかに該当する者)

イ 提出先

- (ア) 全日制課程 - - - - - 前期選抜及び後期選抜は三重県教育委員会事務局高校教育課
再募集は志願先高等学校長

- (イ) 定時制課程、通信制課程 - - - - 志願先高等学校長

ウ 提出期間

(ア) 全日制課程

○ 前期選抜

- ・出願書類受付期間前に入学志願許可書の交付を希望する場合

令和7年12月8日(月)から令和8年1月9日(金)までに郵送又は持参する。

※ 郵送する場合は簡易書留とし、提出締切日の消印のあるものを有効とする。

※ 持参する場合は12月29日(月)～1月2日(金)並びに土曜日及び日曜日は除く。

- ・出願書類受付期間に入学志願許可書の即時交付を希望する場合

令和8年1月23日(金)または1月26日(月)に持参する。

○ 後期選抜

- ・出願書類受付期間前に入学志願許可書の交付を希望する場合

令和8年1月27日(火)から2月16日(月)までに郵送又は持参する。

※ 郵送する場合は簡易書留とし、提出締切日の消印のあるものを有効とする。

※ 持参する場合は土曜日、日曜日及びは除く。

- ・出願書類受付期間に入学志願許可書の即時交付を希望する場合

令和8年2月24日(火)または2月25日(水)に持参する。

○ 再募集

令和8年3月18日(水)から3月19日(木)までに郵送又は持参する。

※ 郵送する場合は簡易書留とし、受付締切期限までに必着とする。

(イ) 定時制課程、通信制課程

※ 郵送する場合は簡易書留とし、受付締切期限までに必着とする。

※ 持参する場合は土曜日、日曜日は除く。

- 前期選抜 令和8年1月23日(金)から1月27日(火)まで
- 後期選抜 令和8年2月24日(火)から2月25日(水)まで
- 再募集 (定時制課程) 令和8年3月18日(水)から3月19日(木)まで

3 その他

- (1) 高等学校への出願について隣接する府県と締結している協定により三重県立高等学校に志願できる者〔2〕・1・(3)に該当する者は、〔2〕・2の手続を要しない。ただし、出身中学校等の校長は、本人の住所、名前並びに志願する高等学校名、課程名及び学科・コース名を下記の期日までに三重県教育委員会事務局高校教育課に提出する。(土曜日、日曜日は除く。)
- 前期選抜 令和8年1月23日(金)から1月26日(月)まで
 - 後期選抜 令和8年2月24日(火)から2月25日(水)まで
 - 再募集 令和8年3月18日(水)から3月19日(木)まで
- (2) 後期選抜の出願受付締切後に、「保護者の転勤に伴う一家転住」を事由とする志願者があった場合、特例として出願を志願変更受付締切時まで認める。(提出書類及び提出先は〔2〕・2・(2)と同様とし、提出期限は全日制課程については令和8年3月5日(木)まで、定時制課程、通信制課程については令和8年3月4日(水)までとする。)

〔3〕 県内居住者で令和7年度に県外の中学校等を卒業する者の入学志願について

1 入学志願のできる者

従前から本県内に保護者とともに居住する者で、令和7年度に県外の中学校等を卒業する者

2 入学志願に係る申請手続

- (1) 提出書類
- ・「三重県立高等学校入学志願届出書」(様式14)
 - ・保護者及び本人の住民票の写し
- (2) 提出先
志願先高等学校長
- (3) 提出期間(土曜日、日曜日は除く。)
- 前期選抜 令和8年1月23日(金)から1月27日(火)まで
 - 後期選抜 令和8年2月24日(火)から2月26日(木)まで
 - 再募集 令和8年3月18日(水)から3月19日(木)まで

〔4〕 志願学区外に居住する県内居住者の、「通学区域に関する規則」別表特例に定める高等学校への入学志願について

1 入学志願のできる者

- (1) 全日制の課程のうち普通科(スポーツ科学コースを除く。)及び理数科(松阪高等学校理数科を除く。)以外の学科並びに定時制の課程及び通信制の課程に入学を希望する者
- (2) スポーツ特別枠選抜に志願する者
- (3) 「保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項」に定める高等学校に入学を希望する者(「保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項」別表に対象部活動が示されている高等学校に入学志願する場合は、当該部活動に入部する意志が確実な者とし、入学できる人数は、県外から入学できる生徒の数に含むものとする。)

2 その他

- (1) 〔4〕・1・(3)に該当する者は、「三重県立高等学校入学志願届出書」(様式14)を出願関係書類に添付する。
- (2) スポーツ特別枠選抜において合格内定とならなかった者が、前期選抜の合格内定基準に達している場合には、前期選抜の志願者として合格内定とすることができる。
- ただし、「保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項」に定める高等学校の普通科において、前期選抜の志願者として合格内定とすることができる者の数は県外から入学できる生徒の数に含むものとする。

(付) 保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項

1 目的

この要項は、三重県立高等学校通学区域に関する規則（昭和 33 年三重県教育委員会規則第 13 号。以下「通学区域に関する規則」という。）第 4 条第 4 号に基づき、県立高等学校の活性化に係る取組の一層の充実を図るため、保護者の転住を伴わない県外からの三重県立高等学校への入学志願に関する事項を定める。

2 入学志願できる高等学校

(1) 入学志願できる高等学校は、次のいずれかに該当する高等学校又は校舎のうち、別表に示す高等学校又は校舎とする。

ア 入学者選抜でスポーツ特別枠選抜を実施する高等学校及び全国大会に出場した硬式野球部を有する高等学校

イ 1 学年 3 学級以下の高等学校又または 1 学年 1 学級の校舎を有する高等学校

ウ 県内唯一の学科・コースまたは地域に唯一の職業学科を有する高等学校

(2) (1) のア～ウのいずれかに該当する高等学校の中で、今後、保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に係る制度を実施しようとする場合は、PTA や地元の中学校、地域の活性化協議会等と協議のうえ、県教育委員会に申請するものとする。

3 入学志願できる者

(1) 保護者が保証人を確保し、志願者が志願先高等学校の入学の期日までに、志願先高等学校の属する学区又は当該学区に隣接する学区に転入することが確実な者とする。

ただし、尾鷲市、熊野市及び南牟婁郡に所在する高等学校については、保護者の居住する住居から通学する者も入学志願できることとする。

(2) 「2 入学志願できる高等学校」の(1) アに該当する高等学校に入学志願する場合は、当該部活動に入部する意志が確実な者とする。

4 入学志願できる選抜

前期選抜、スポーツ特別枠選抜及び後期選抜とする。

5 入学できる生徒の上限

(1) 昴学園高等学校と水産高等学校以外の高等学校

① 県外から入学できる生徒の数は、当該高等学校で保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に係る制度を実施する学科・コースの入学定員の合計の 5 % を上限（前期選抜及び後期選抜のそれぞれの入学定員の 5 %）とする。

② 前期選抜及び後期選抜の募集人数については、①の県外から入学できる生徒の数の 30 %（上限）にあたる人数を、前期選抜と後期選抜の間で振り分けることができる。

③ 各学科・コース別の合格者数については、前期選抜及び後期選抜のそれぞれの入学定員の 10 % を上限とする。

(2) 昴学園高等学校及び水産高等学校

① 県外から入学できる生徒の数は、当該高等学校で保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に係る制度を実施する学科・コースの入学定員の合計の 10 % を上限（前期選抜及び後期選抜のそれぞれの入学定員の 10 %）とする。

② 前期選抜及び後期選抜の募集人数については、①の県外から入学できる生徒の数の 30 %（上限）にあたる人数を、前期選抜と後期選抜の間で振り分けることができる。

③ 各学科・コース別の合格者数については、前期選抜及び後期選抜のそれぞれの入学定員の 20 % を上限とする。

- (3) 2 (1) イの高等学校又は校舎において、合格者数が募集人数に満たない場合は、前期選抜及び後期選抜の募集人数の範囲内で県外から入学志願する生徒を(1)(2)に定める上限を超えて合格させることができる。
- (4) 通学区域に関する規則第2条の別表の特例3(特例1及び2を除く)により入学できる人数は、(1)に定める人数に含むものとする。

6 生徒の安全・安心の確保

生徒の安全・安心を確保するため、保証人、高等学校及び県教育委員会は、次の各事項に取り組むこととする。

(1) 保証人

三重県立高等学校学則の基準に関する規則第19条で定める保証人届(第2号様式)に記載のある次の役割を果たすこと。

- ① 生徒の健康、食生活及び日常の生活に関する見守りを行うこと
- ② 生徒と日常的に関わり、生徒の状況を保護者や学校と共有すること
- ③ 生徒の病気やけがの際には、迅速に対応すること
- ④ 必要に応じて、学校の教育活動に参加すること

(2) 高等学校

- ① 生徒が迷わず相談できるよう、担当教員を定めること
- ② 保護者及び保証人との連携体制を確立すること
- ③ 家庭訪問(下宿・アパート等)により、生徒の食生活等日常の生活環境を把握すること
- ④ 生徒との日常のコミュニケーションを通じて、生徒の状況を把握すること
- ⑤ 生徒の病気やけがの際には、保証人と連携して迅速に対応すること
- ⑥ 生徒の生活状況や保証人の見守りの状況等の報告を県教育委員会へ年3回行うこと

(3) 県教育委員会

- ① 保護者や教職員に保証人の役割について周知徹底を行うこと
- ② 生徒の生活状況や保証人の見守りの状況等を把握すること
- ③ その他必要に応じて指導・助言を行うこと

7 その他

「2 入学志願できる高等学校」の(1)アに該当する高等学校に入学した生徒が、怪我などにより部活動を続けられなくなった場合でも、当該高等学校に在籍できることとする。

附 則 この要項は、平成30年4月1日から施行する。	附 則 この要項は、令和4年7月8日から施行する。
附 則 この要項は、平成30年7月9日から施行する。	附 則 この要項は、令和5年7月4日から施行する。
附 則 この要項は、令和元年7月11日から施行する。	附 則 この要項は、令和6年7月4日から施行する。
附 則 この要項は、令和2年7月9日から施行する。	附 則 この要項は、令和7年7月8日から施行する。
附 則 この要項は、令和3年7月8日から施行する。	

別表

ア 入学者選抜でスポーツ特別枠選抜を実施する高等学校及び全国大会に出場した硬式野球部を有する高等学校

高等学校名	対象部活動	募集学科・コース名	募集人数
いなべ総合学園	レスリング(男女) バスケットボール(女) 硬式野球(男)	総合学科	前期7人以内 後期7人以内
朝明	自転車(男)、レスリング(男) ラグビー(男)	普通科 ふくし科	前期3人以内 後期3人以内
四日市四郷	アーチェリー(男女)	普通科 普通科・スポーツ科学コース 《スポーツ科学コースは前期選抜のみの実施》	前期4人以内 後期4人以内
四日市工業	陸上競技(男)、テニス(男) バスケットボール(男) ハンドボール(男) ウエイトリフティング(男) ラグビー(男)	機械科 電子機械科 電気科 電子工学科 物質工学科 自動車科	前期6人以内 後期6人以内
四日市中央工業	水泳(水球)(男)、柔道(男) サッカー(男) ウエイトリフティング(男)	機械科 電気科 化学工学科 都市工学科 設備システム科	前期8人以内 後期2人以内
四日市商業	陸上競技(女)、テニス(女) バスケットボール(女) ハンドボール(女)、空手道(女) 柔道(女)	商業科 情報マネジメント科	前期10人以内 後期2人以内
菰野	硬式野球(男)	普通科	前期4人以内 後期4人以内
白子	卓球(男女)	普通科 生活創造科	前期9人以内 後期3人以内
稲生	水泳(水球)(男) なぎなた(女)	普通科 体育科 《体育科は前期選抜のみの実施》	前期4人以内 後期4人以内
津工業	セーリング(男女) バスケットボール(男)	機械科 電気科 電子科 建設工学科	前期6人以内 後期6人以内
白山	硬式野球(男)	普通科 情報コミュニケーション科	前期3人以内 後期1人以内
名張	新体操競技(女) 柔道(男女)	総合学科	前期8人以内 後期2人以内
松阪工業	バレーボール(男)	機械科 電気工学科 工業化学科 自動車科	前期2人以内 後期2人以内
宇治山田商業	相撲(男) 硬式野球(男)	商業科 情報処理科	前期3人以内 後期3人以内
尾鷲	水泳(競泳)(男女)	普通科 普通科・プログレッシブコース 情報ビジネス科 システム工学科	前期2人以内 後期6人以内

イ 1学年3学級以下の高等学校又は1学年1学級の校舎を有する高等学校

高等学校名	募集学科・コース名	募集人数
朝明	普通科 ふくし科	アに示す募集 人数に含む
白山	普通科 情報コミュニケーション科	アに示す募集 人数に含む
あけぼの学園	総合学科	前期1人以内 後期1人以内
飯南	総合学科	前期2人以内 後期2人以内
昂学園	総合学科	前期8人以内
南伊勢	度会校舎 普通科	前期1人以内 後期1人以内
鳥羽	総合学科	前期1人以内 後期1人以内
志摩	普通科	前期1人以内 後期1人以内
水産	海洋・機関科 水産資源科	前期6人以内 後期2人以内
熊野青藍	木本校舎 普通科 総合学科	前期2人以内 後期8人以内
	紀南校舎 総合学科	

ウ 県内唯一の学科・コースまたは地域に唯一の職業学科を有する高等学校

高等学校名	募集学科・コース名	募集人数
白子	普通科・文化教養(吹奏楽)コース 《前期選抜のみの実施》	アに示す募集 人数に含む
水産	海洋・機関科 水産資源科	イに示す募集 人数に含む
尾鷲	情報ビジネス科 システム工学科	アに示す募集 人数に含む

(付) 三重県立高等学校通学区域に関する規則 (抜粋)

〔昭和33年1月24日〕
〔教育委員会規則第13号〕

最終改正 令和6年8月7日教育委員会規則第5号

(目的)

第一条 この規則は、三重県立高等学校（以下「高等学校」という。）の通学区域（以下「学区」という。）を定めることを目的とする。

(学区)

第二条 学区は、別表に掲げるとおりとする。

(入学志願及び学区外入学)

第三条 高等学校に入学（転入学を含む。以下同じ。）をしようとする者は、保護者の居住する住所の属する学区又は当該学区に隣接する学区（以下これらの学区を「志願学区」という。）内の高等学校へ出願しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、三重県教育委員会の許可を得て、志願学区外の高等学校に出願することができる。

- 一 保護者が、入学者選抜の実施年度の末日までに入学を志願する高等学校の属する学区又は当該学区に隣接する学区に転入することが確実な場合
- 二 その他特別な理由がある場合

3 在学中に住所の変更により、志願学区外の高等学校へ通学することとなる者は、住所変更後の志願学区内の高等学校へ転学しなければならない。ただし、本人及び保護者が希望し、かつ、正当な理由がある場合は、通学区域外高等学校通学承認申請書（第一号様式）を三重県教育委員会に提出し、その承認を得て現に在学する高等学校に在学することができる。

(県外居住者の取扱)

第四条 保護者が、他の都道府県に居住している者は、本県の高等学校へ入学することはできない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合に限り、三重県教育委員会の許可を得て本県の高等学校に出願した上で、入学することができる。

- 一 保護者が、入学者選抜の実施年度の末日までに入学を志願する高等学校の属する学区又は当該学区に隣接する学区に転入することが確実な場合
- 二 保護者の居住する都道府県に入学を志願する学科を設置する高等学校がない場合
- 三 高等学校への出願について隣接する府県と協定を締結している場合
- 四 保護者の転住を伴わずに他の都道府県に居住している者が入学志願できる学校として教育長が別に定める高等学校に入学を志願する場合
- 五 高等学校の定時制課程に入学を志願する者が、入学を志願する高等学校の入学の期日までに本県に転入又は勤務することが確実な場合
- 六 高等学校の通信制課程に入学を志願する者が、入学を志願する高等学校の入学の期日までに本県に転入することが確実な場合
- 七 その他特別な理由がある場合

付

（学区外入学志願の手続き）

第五条 第三条第二項の規定により志願学区外の高等学校に出願するときは、通学区域外高等学校入学志願許可申請書（第二号様式）を三重県教育委員会に提出し、その許可を得なければならない。

2 前条ただし書の規定により県外から本県の高等学校に入学を志願するときは、三重県立高等学校入学志願許可申請書（第三号様式）を三重県教育委員会に提出し、その許可を得なければならない。ただし、県外から本県の高等学校の夜間定時制課程に入学を志願するときは、三重県立高等学校入学志願許可申請書（第四号様式）を当該高等学校長に提出し、その許可を得るものとし、その許可をもって前条ただし書の許可とみなす。

（委任）

第六条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

別表（第二―条関係）

三、重慶市公立高等學校通學區域

番号	学区	地域	高等学校	特例
一	北部	桑名市 員いなべ市 四日市市 三重郡市	三重県立桑名高等学校 三重県立桑名西高等学校 三重県立桑名北高等学校 三重県立桑名工業高等学校 三重県立いなべ総合学園高等学校 三重県立四日市高等学校 三重県立四日市南高等学校 三重県立四日市西高等学校 三重県立朝明高等学校 三重県立四日市四郷高等学校 三重県立四日市工業高等学校 三重県立四日市中央工業高等学校 三重県立四日市商業高等学校 三重県立北星高等学校 三重県立四日市農芸高等学校 三重県立菰野高等学校 三重県立川越高等学校	1 普通全日制的課程のうち、理数系（科学）のコースを除く。上記以外の課程は、信託方式により、他の公立学校に委託して実施する。
二	中部	鈴鹿市 伊賀市 亀山市 張西市	三重県立神戸高等学校 三重県立飯野高等学校 三重県立白子高等学校 三重県立石薬師高等学校 三重県立稻生高等学校 三重県立亀山高等学校 三重県立津高高等学校 三重県立津西高等学校 三重県立津東高等学校 三重県立みえ夢学園高等学校 三重県立津工業高等学校 三重県立久居高等学校 三重県立久居農林高等学校 三重県立白山高等学校 三重県立上野高等学校 三重県立あけぼの学園高等学校 三重県立伊賀白鳳高等学校 三重県立名張高等学校 三重県立名張青峰高等学校	2 特別進学コースを設置し、選抜型授業を行う。 3 保護者の都合等により、他府県の高校へ転入する場合があるが、その場合は、原則として、入学後、1年以上在学することとする。
三	南部	松阪市 多気郡市 伊勢市 度会郡市 鳥羽市 志摩市 尾鷲市 熊本市 牟婁郡市 南牟婁郡市	三重県立松阪高等学校 三重県立松阪工業高等学校 三重県立松阪商業高等学校 三重県立飯南高等学校 三重県立相可高等学校 三重県立昂学園高等学校 三重県立明野高等学校 三重県立宇治山田高等学校 三重県立伊勢山田高等学校 三重県立宇治山田商業高等学校 三重県立伊勢工業高等学校 三重県立伊勢まなび高等学校 三重県立南伊勢高等学校 三重県立南伊勢高等学校度会分校 三重県立鳥羽高等学校 三重県立志摩高等学校 三重県立水産高等学校 三重県立尾鷲高等学校 三重県立木本高等学校 三重県立熊野青藍高等学校 三重県立熊野青藍高等学校紀南分校 三重県立紀南高等学校	4 上記の各校において、学力や進路志向などに基づき、個別指導や小規模クラスでの学習を実施している。

別表中の三重県立南伊勢高等学校は、三重県立南伊勢高等学校南勢校舎を示し、三重県立南伊勢高等学校度会分校は、三重県立南伊勢高等学校校舎を示す。三重県立熊野青藍高等学校は、三重県立熊野青藍高等学校木本校舎を示し、三重県立熊野青藍高等学校紀南分校は、三重県立熊野青藍高等学校紀南校舎を示す。

＜三重県立高等学校の所在地＞



(付) 令和8年度三重県立高等学校入学志願者の個人情報取扱要項

<口頭による個人情報提供の申請>

1 提供する個人情報

各高等学校の前期選抜及び追検査、特別選抜、後期選抜及び追検査、再募集、追加募集における合否判定のための資料として保有する以下の(1)～(5)の個人情報について、受検者の申請に応じ、本人に、個人情報を提供する。

- (1) 調査書の「各教科の学習の記録」欄の教科別の「第3学年」の評定
- (2) 面接又は「自己表現」の各学校の基準に基づく総合的評価
- (3) 作文又は小論文の各学校の基準に基づく総合的評価
- (4) 学力検査又は総合問題の各学校の基準に基づく総合的評価（後期選抜は学力検査得点）
- (5) 実技検査等の各学校の基準に基づく総合的評価

2 実施方法

(1) 個人情報提供の申請方法

受検者本人が、受検した高等学校に出向き、受検票（様式3）等（受検者本人であることを証明する書類）を提示したうえで、口頭により申請する。

(2) 個人情報に係る本人証明

三重県立高等学校入学選抜実施要項に定める受検票等又は受検者本人であることを証明する書類（顔写真付きの書類は1種類、顔写真付きでない書類は2種類）の提示により行う。

(3) 個人情報提供の期間

ア 個人情報提供の期間（土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に定める休日は除く。）

(7) 前期選抜及び前期選抜追検査、特別選抜

令和8年2月13日(金)から4月30日(木)まで

(4) 後期選抜

令和8年3月17日(火)から4月30日(木)まで

(7) 後期選抜追検査、全日制課程及び定時制課程の再募集

令和8年3月25日(水)から4月30日(木)まで

(4) 夜間定時制課程の追加募集、通信制課程の再募集

令和8年3月31日(火)から4月30日(木)まで

※ 上記期間のうち、3月10日(火)(後期選抜の検査日)、3月23日(月)(後期選抜追検査及び再募集の検査日)は、情報提供を行わない。

イ 個人情報提供の申請受付時間

申請者は、原則として上記アの期間内の次の時間内に(1)の方法により申請する。

- ・ 全日制課程及び松阪高等学校通信制課程は、9時から16時30分まで
(ただし、2月13日、3月17日及び3月25日は9時30分から)
- ・ 定時制課程及び北星高等学校通信制課程は、13時から16時30分まで

(4) 受検者本人以外（保護者等）による申請方法

上記(2)とともに、承諾書（受検者本人の自筆）、受検者と保護者等との関係を証明するための書類（戸籍謄本又は戸籍抄本又は住民票（続柄の記載されたもの））、保護者等が本人であることを証明する書類（顔写真付きの書類は1種類、顔写真付きでない書類は2種類）を提示し、上記(3)のアに示す期間内かつイに示す時間内に申請を行う。

3 その他

個人情報の提供に係る経費は徴収しない。

<上記以外の個人情報の開示請求>

上記1以外の個人情報の開示請求を行う場合や、令和8年5月1日以降に個人情報の開示請求を行う場合は、「個人情報開示請求書」を提出することにより、請求することができる。請求があった高等学校は「個人情報開示決定通知書」により開示の実施方法等を請求者に通知する。また、開示資料等、写しの交付に係る実費を徴収する。

なお、詳細については、受検した高等学校に問い合わせる。

〈別表 1〉

令和 8 年 度 三 重 県 立 高 等 学 校 入 学 者 選 抜 に 関 す る 各 高 等 学 校 別 実 施 要 項
全 日 制 課 程

高等学校名	学科・コース名	入学定員	前 期 選 抜										後 期 選 抜								
			募集率 (%)	面接	自己 表現	作文	小論文	実技 検査	学力検査			総合 問題	その他 の検査	配点（傾斜配点を含む。）							
									国語	数学	英語			国語	数学	社会	英語	理科	実技 検査	面接	
桑 名	普通科	240	—																		
	理数科	40	—																		
	衛生看護科	40	100 %	集団				○				○									
	普通科	240	—																		
	普通科	160	30 %	個人			○										50	50	50	50	—
桑名工業	機械科	40 } 40 } 80	50 %	集団								○					50	50	50	50	—
	材料技術科	50 %	集団									○					50	50	50	50	—
	電気科	40 } 40 } 80	50 %	集団								○					50	50	50	50	—
	電子科	50 %	集団									○					50	50	50	50	—
	総合学科	280	I 50% II III	集団			○														
四日市	普通科	240	—																		
	普通科・国際科学コース	80	—																		
	普通科	240	—																		
	普通科・数理科学コース	80	—																		
	普通科	120	—																		
四日市西	普通科・ 比較文化・歴史コース	40 } 40 } 80	25 %	集団								○					50	50	50	50	—
	普通科・数理情報コース	40 %	25 %	集団									○				50	50	50	50	—
	普通科	80	50 %	個人								○					50	50	50	50	—
朝 明	ふくし科	40	50 %	個人								○					50	50	50	50	—

高等学校名	学科・コース名	入学定員	前期選抜							後期選抜									
			募集枠 (%)	面接	自己 表現	作文	小論文	実技 検査	学力検査			配点（傾斜配点を含む。）				面接			
									国語	数学	英語	国語	数学	社会	英語	理科	実技 検査	面接	
四日市四郷	普通科	120	30 %	個人							○				50	50	50	50	個人
	普通科・スポーツ科学コース	40	100 %	個人						○									
四日市工業	機械科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
	電子機械科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
	電気科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
	電子工学科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
	建築科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
	物質工学科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
	自動車科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
	機械科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	個人
四日市中央工業	電気科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	個人
	化学工学科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	個人
	都市工学科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	個人
	設備システム科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	個人
	商業科	200	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
四日市商業	情報マネジメント科	40	50 %	個人		○									50	50	50	50	—
	農業科学科	40	50 %	個人		○													—
四日市農芸	食品科学科	40	50 %	個人		○													—
	環境造園科	40	50 %	個人		○													—
	生活文化科	80	50 %	個人		○													—
	普通科	160	30 %	集団							○				50	50	50	50	—
菟野	探究科	200	—												50	50	50	50	—
川越	国際探究科	80	50 %												50	50	50	50	—
																			—

高等学校名	学科・コース名	入学定員	前 期 選 抜							後 期 選 抜						
			募集率 (%)	面接 自己 表現	作文	小論文	実技 検査	学力検査			総合 問題	その他 の検査				
								国語	数学	英語						
神戸	普通科	200	—													
	理数科	80	50 %	集団						○	○					
飯野	応用デザイン科	80	100 %	集団					○		○					
	英語コミュニケーション科	80	50 %	個人							○					
白子	普通科	160	30 %	個人						○						
	普通科・文化教養(吹奏楽)コース	40	100 %		個人					○						
	生活創造科	40	50 %	個人						○						
	普通科	80	50 %	個人						○						
石薬師	普通科	120	30 %	個人												
	普通科	40	100 %	個人						○						
亀山	普通科	80	30 %	個人	○											
	システムメディア科	80	50 %	個人	○											
津	総合生活科	40	50 %	個人	○											
	普通科	320	—													
津西	普通科	240	—													
	国際科学科	80	50 %							○	○					
津商業	ビジネス科	200	50 %	個人	○											
	情報システム科	40	50 %	個人	○											
津東	普通科	240	25 %							○	○					
津工業	機械科	120	50 %	集団								○				
	電気科	40	50 %	集団								○				
	電子科	40	50 %	集団								○				
	建設工学科	40	50 %	集団								○				

高等学校名	学科・コース名	入学定員	前期選抜										後期選抜						
			募集枠 (%)	面接 面談	自己 表現	作文	小論文	実技 検査	学力検査			総合 問題	その他 の検査	配点（傾斜配点を含む。）					
									国語	数学	英語			国語	数学	社会	英語	理科	実技 検査
久居	普通科	160	I 30%	集団							○			50	50	50	50	—	—
			II	集団				○											
			※ 上記のⅠ・Ⅱのどちらかを事前に選択する。																
久居農林	生物生産科	40	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	生物資源科	40	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	環境情報科	40	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	環境土木科	40	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	生活デザイン科	80	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
白山	普通科	40	50 %			個人							50	50	50	50	—	個人	
	情報コミュニケーション科	40	50 %			個人							50	50	50	50	—	個人	
上野	学際探究科	160	30 %	個人							○	○		50	50	50	50	—	—
	理数科	80	50 %								○	○		50	50	50	50	—	—
あけぼの学園	総合学科	40	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
			特別選抜は、募集枠5%で面接・作文を実施する。																
伊賀白鳳	機械科	35	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	電子機械科	35	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	建築デザイン科	35	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	生物資源科	35	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	フードシステム科	35	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	経営科	30	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
名張	ヒューマンサービス科	35	50 %	個人			○							50	50	50	50	—	個人
	総合学科	200	50 %	個人							○	○		50	50	50	50	—	個人
名張青峰	普通科	160	30 %	集団							○	○		50	50	50	50	—	—
	普通科・文理探究コース	40	50 %								○	○		50	50	50	50	—	—

高等学校名	学科・コース名	入学定員	前期選抜							後期選抜				
			募集率 (%)	面接 面談	自己 表現	作文	小論文	実技 検査	学力検査	配点（傾斜配点を含む。）				面接
									国語	数学	社会	英語	理科	実技 検査
松阪	普通科	200	—											
	理数科	80	50 %						○	○				
松阪工業	機械科	40	50 %	集団		○								集団
	電気工学科	40	50 %	集団		○								集団
	工業化学科	40	50 %	集団		○								集団
	繊維デザイン科	40	100 %	個人				○						集団
	自動車科	40	50 %	集団		○								集団
松阪商業	総合ビジネス科	120	50 %	集団		○								—
	国際ビジネス科	40	50 %	集団		○								—
飯南	総合学科	80	50 %	個人		○								個人
	普通科	80	30 %	個人					○					個人
	生産経済科	40	50 %	個人		○								個人
	環境創造科	40	50 %	個人					○					個人
	食物調理科	40	100 %	個人			○							個人
昴学園	総合学科	80	100 %	個人		○								—
	生産科学科	40	50 %	個人		○								集団
明野	食品科学科	40	50 %	個人		○								集団
	生活教養科	40	50 %	個人		○								集団
	福祉科	40	50 %	個人		○								集団

高等学校名	学科・コース名	入学定員	前期選抜										後期選抜							
			募集枠 (%)	面接 自己 表現	作文	小論文	実技 検査	学力検査			総合 問題	その他の 検査	配点（傾斜配点を含む。）							
								国語	数学	英語			国語	数学	社会	英語	理科	実技 検査	面接	
宇治山田	普通科	160	30 %								○	○		50	50	50	50	50	—	—
伊勢	普通科	240	—											50	50	50	50	50	—	—
	普通科・国際科学コース	40	—											50	50	50	50	50	—	—
	商業科	80	50 %	集団							○			50	50	50	50	50	—	—
宇治山田商業	情報処理科	40	50 %	集団							○			50	50	50	50	50	—	—
	国際科	40	50 %	集団								○		50	50	50	100	50	—	—
	機械科	80	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
伊勢工業	電気科	40	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
	建築科	40	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
	普通科	40	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
南伊勢	度会校舎	40	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
鳥羽	総合学科	40	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
志摩	普通科	40	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
水産	海洋・機関科	40	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
	水産資源科	40	50 %	個人		○								50	50	50	50	50	—	個人
尾鷲	普通科	70	30 %	集団								○	○	50	50	50	50	50	—	—
	普通科・プログレッシブコース	30	30 %	集団								○	○	50	50	50	50	50	—	—
	情報ビジネス科	30	30 %	集団									○	○	50	50	50	50	—	—
	システム工学科	30	30 %	集団									○	○	50	50	50	50	—	—
	普通科	120	—											50	50	50	50	50	—	—
熊野青藍	木本校舎	40	30%	個人								○		50	50	50	50	50	—	—
	紀南校舎	40	30%	個人								○		50	50	50	50	50	—	—

※ 再募集・追加募集の学力検査について ○ … 県が作成する学力検査問題 ● … 当該実施校が作成する学力検査問題

定時制課程

高等学校名	学科名	入学定員	前期選抜						後期選抜						再募集・追加募集 ※								
			募集率 (%)	面接	自己 表現	作文	実技 検査	学力 検査	総合 問題	配点（傾斜配点を含む）						国語	数学	英語	面接	作文	実技 検査		
										国語	数学	社会	英語	理科	実技 検査								
桑名	普通科	40	—											50	50	—	50	—	—	個人	○	○	(再募集)
	機械交通工学科	40	20 %	個人				○					50	50	—	—	—	50	—	個人	○	(追加募集)	
四日市工業	住システム工学科	40	20 %	個人				○					50	50	—	—	—	50	—	個人	○		
	普通科	秋 期 入 学 者 選 抜	50 %		個人							—	—	—	—	—	—			個人	○		
情報ビジネス科 (昼間部)	特別選抜は、募集率5%で自己表現を実施する。										(追加募集は、実施しない。)												
普通科 (夜間部)	20 %			個人						—	—	—	—	—	—	—	—			個人	○		
飯野	普通科	80	30 %	個人		○						50	50	—	—	—	—	—	個人	○	○		
	総合学科 (午前の部)		50 %	個人		○			○	50	50	—	50	—	—	—	—	—	個人	○	○	(追加募集は、実施しない。)	
みえ夢学園	総合学科 (午後の部)	40	50 %	個人		○						50	50	—	50	—	—	—	個人	○	○	(再募集)	
	総合学科 (夜間部)	40	50 %	個人		○						50	50	—	50	—	—	—	個人	○	○	(追加募集)	
			特別選抜は、募集率10%で面接・作文を実施する。										(追加募集は、実施しない。)										

高等学校名		学科名	入学定員	前期選抜						後期選抜						再募集・追加募集 ※										
				募集枠 (%)	面接	自己 表現	作文	実技 検査	学力 検査	総合 問題	配点（傾斜配点を含む）				面接	作文	国語	数学	英語	面接	作文	実技 検査				
											国語	数学	社会	英語									理科	実技 検査		
上野	普通科	40	—											50	50	—	50	—	—	個人	○	○	個人	○	(再募集)	
	普通科	40	—											50	50	—	50	—	—	個人	○	●	●	個人	○	(追加募集)
	普通科	40	—											50	50	—	50	—	—	個人	○	○	○	個人	○	(再募集)
松阪工業	普通科	40	50 %	個人			○			50	50	—	—	—	—	個人	○	○	○	個人	○	○	個人	○	(追加募集)	
	(午前の部)		特別選抜は、募集枠10%で面接・作文を実施する。										(追加募集は、実施しない。)													
	普通科	40	50 %	個人			○			50	50	—	—	—	—	個人	○	○	○	個人	○	○	個人	○	(再募集)	
伊勢まなび	普通科	40	特別選抜は、募集枠10%で面接・作文を実施する。											50	50	—	—	—	—	個人	○	(追加募集は、実施しない。)				
	(午後の部)		特別選抜は、募集枠10%で面接・作文を実施する。										(追加募集は、実施しない。)													
	ものづくり工学科 (夜間部)	40	50 %	個人			○			50	50	—	—	—	—	個人	○	●	●	個人	○	○	個人	○	(追加募集)	
尾鷲 熊野青藍	普通科	40	—											50	50	—	—	—	—	個人	○	●	●	個人	○	(追加募集)
	木本校舎 普通科	40	—											50	50	—	—	—	—	個人	○	●	●	個人	○	(追加募集)

通信制課程

高等学校名	学科名	入学定員	前期選抜						後期選抜			再募集	
			募集枠 (%)	面接	自己 表現	作文	実技 検査	学力 検査	総合 問題	面接	作文	面接	作文
北星	普通科	240	20		個人					個人	○	個人	○
松阪	普通科	200	—							個人	○	個人	○

注

- 「くくり募集」とは、いくつかの学科・コースについて、入学者を一括して募集し、入学後、それぞれの学科・コースの内容等を十分理解した後に、所属する学科・コースを決定する募集形態をいう。
- みえ夢学園高等学校定時制課程総合学科（夜間部）及び松阪工業高等学校定時制課程普通科の追加募集では、面接・作文を実施する。
- 屋間定時制課程（北星高等学校、伊勢まなび高等学校）においては、追加募集を実施しない。
- 北星高等学校定時制課程の入学定員 130人のうち10人及び通信制課程の入学定員 300人のうちの60人は、秋期入学者選抜において募集する。

〈別表2〉

令和8年度三重県立高等学校入学選抜で前期選抜を実施する高等学校の
「学校の特色」「選抜において重視する要件」「検査内容」「選抜方法」一覧

全日制課程

《桑名高等学校》

学 校 の 特 色
本校は、普通科・理数科・衛生看護科があり、生徒数1000人余の県立高校として最大規模の学校です。 普通科・理数科は、入学する生徒のほぼ全員が大学への進学を希望しています。創立110年を超えた伝統的な進学校として、学習指導と進路指導を中心に進学体制を充実させ、国公立大学や難関私立大学への進路希望を実現しています。 衛生看護科は、県内唯一の学科として、心身ともに健全で優れた看護サービスを提供できる人間性豊かな看護師の養成を目指し、5年一貫教育を行っています。衛生看護科の3年間と衛生看護専攻科の2年間の学習を終え、毎年2月下旬に実施される看護師国家試験に合格して看護師の資格を取得することになります。学習内容は普通教科と看護の専門教科があり、専門教科は医師や薬剤師、臨床検査技師など外部講師による授業があります。また、長期間にわたって実践的な学習を行う臨地実習もあります。 学校全体として、部活動も盛んであり、文武両道を目指し、毎年多くの運動系・文化系の部活動が東海大会や全国大会に出場し活躍しています。

選抜において重視する要件
(衛生看護科) ○ 看護師志望が明確で、高校生活にしっかりとした目標・目的意識をもった者 ○ 全ての教科に対して真面目に学習活動に取り組める者 ○ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
衛生看護科	面 接	集団面接（1グループ15分程度） コミュニケーション能力など看護師としての適性や意欲について応答する。
	小 論 文	45分・400字程度 自分の考えを述べる問題
	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
衛生看護科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。 (3) 小 論 文 点数化する。（10点満点） (4) 学力検査 100点（数学50点、英語50点）
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数のおよそ100%以内であることと、学力検査得点と小論文得点の合計の順位が募集人数のおよそ80%以内であることの両方の条件を満たす者のうち、面接の評価がB段階以上である者 (2) 第2段階 第1段階において合格となった者を除く全ての受検者

《桑名北高等学校》

学 校 の 特 色
本校では、次の二つの特色を生かして生徒と『共に創る』学校づくりに挑戦し続けています。一つ目は、「生徒一人ひとりの進路実現を目指す学校」であることです。外部テストも利用した学習実態調査や補習の実施により、中学校までの学習でつまづいた所やわからない所の学び直しなど、基礎・基本の定着を図ります。また、日々の授業において「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、生徒が能動的・積極的に学べる授業づくりに取り組みます。そして、それらを土台とした進学補習やテスト前学習会を実施することにより、個々の生徒の進路実現を全力で支援していきます。 二つ目は、「人と人とのつながりの大切さを学ぶ学校」であることです。総合的な探究の時間（みらい）では自己理解・他者理解、人間関係をつくる力の育成をねらいとした学習内容により、自分の在り方・生き方についてじっくり考え気付かせていきます。また、学校設定科目「コミュニケーション授業」では保育所の園児との交流を通して、自分が必要とされる喜びを体感させるとともに、コミュニケーション能力の育成を目指しています。 これらの活動を通じて、校訓である「自律・誠実・協働」の心を持った生徒の育成に努めます。育成を目指す資質・能力としての「7つの力」（①聴く力②話す力③書く力④読み取る力⑤考える力⑥前に踏み出す力⑦協働する力）を育てます。

選抜において重視する要件
（普通科） 規範意識や基本的生活習慣が身についており、以下のことに熱意をもって取り組める者 ○ 大学進学など、明確な進路意識をもって学業に取り組める者 ○ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	個人面接（10分程度） 規範意識や高校生活への意欲等について応答する。
	作 文	45分・400～600字

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い
	(1) 調 査 書 点数化する。
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）
	評定以外の記載事項
	最高
	7 5 点満点
	2 5 点
	合 計
	1 0 0 点
	(2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
(3) 作 文 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。	
2 選抜方法	
(1)調査書得点、(2)面接及び(3)作文の評価並びに調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	

《桑名工業高等学校》

学 校 の 特 色
○ 「地域と歩むものづくり」をもとに、本校独自のキャリア教育から人間性豊かな専門的職業人を目指し、積極的に行動できる人材の育成に努めます。 ○ 本校では「桑名版デュアルシステム」を学習内容に取り入れ、企業と協力しキャリア教育を充実させ適性に応じた進路実現に取り組んでいます。 ○ ものづくりを通じ地域社会での発展を担う職業人として、豊かな人間性を育み、生涯の見通しをもって創造的に探究できる学習活動の充実を図ります。 ○ 桑名工業三原則（あいさつ・身だしなみ・きれいな学校）の中で基本的生活習慣の確立と倫理観・道徳観を身につけさせコミュニケーション豊かな人間教育に取り組んでいます。

選抜において重視する要件
〔機械科、材料技術科、電気科、電子科共通〕 ○ ものづくりに興味を持ち、常に挑戦心を忘れず地域産業の活性化を担う人間性豊かな専門的職業人をめざそうと考えている者 ○ 高度な技術を身につけるため大学への進学をめざそうと考えている者 ○ 活気あふれる学校生活をめざし、部活動や生徒会活動、ボランティア活動または資格検定試験などに積極的に取り組みたいと考えている者 ○ 協調性を持ちコミュニケーション豊かな人間教育に取り組みたいと考えている者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
機 械 科 材 料 技 術 科 電 気 科 電 子 科	面 接	集団面接（20分程度） 志望動機、本校への関心・意欲、将来の目標等について応答する。
	学力検査	数学

学 科 名	選 抜 方 法						
機 械 科 材 料 技 術 科 電 気 科 電 子 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table border="0"> <tr> <td>評定（第3学年の各教科の評定の合計）</td> <td>45点満点</td> </tr> <tr> <td>評定以外の記載事項</td> <td>最高 20点</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>65点</td> </tr> </table> (2) 面 接 次の5つの項目について点数化し（25点満点）、A、B、Cの3段階で評価する。 ・ 本校を志望する動機 ・ 自分自身についての理解 ・ 高校生活への抱負 ・ 表現力 ・ コミュニケーション力・協調性 (3) 学力検査 数学（50点満点）の得点をA B C Dの4段階で評価する。 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数60%以内であることと、面接及び学力検査の評価がともにB段階以上であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 調査書得点の順位が募集人数80%以内であることと、面接及び学力検査の評価がともにC段階以上であることの両方の条件を満たす者 (3) 第3段階 第1段階及び第2段階において合格となった者を除く全ての受検者	評定（第3学年の各教科の評定の合計）	45点満点	評定以外の記載事項	最高 20点	合 計	65点
評定（第3学年の各教科の評定の合計）	45点満点						
評定以外の記載事項	最高 20点						
合 計	65点						

《いなべ総合学園高等学校》

学 校 の 特 色
○ 本校は全国でも有数の大規模総合学科高等学校として、平成13年度に開校しました。北勢地区唯一の総合学科として、生徒の多様な進路希望が実現できるよう150余りの講座を開設しています。 ○ 総合学科特有の授業等を通じて生徒一人ひとりが自分の進路を選択し、進路希望に合わせて科目を選択できるようチューター（中学校での担任のような存在）によるきめ細かな指導を行っています。また、社会人講師による講演や実習などによるキャリア教育の充実、地元の大学との連携による進学指導の充実にも力を入れています。 ○ 本校生徒の進路先は、大学・短大がおおよそ40%、専門・各種学校がおおよそ30%、就職がおおよそ30%で、特色ある学びのシステムにより幅広い進路実現を可能にしています。 ○ 部活動もとても盛んで、充実した施設設備を活用して多数の運動系部活動が全国大会、東海大会、県大会等に出場し、好成績を残しています。文化系部活動も地域に貢献する活動を積極的に行うなど、明るく生き生きとした学校の雰囲気を作り出しています。 ○ いなべ・東員地区唯一の高等学校として、地域に根ざし開かれた信頼される学校を目指しています。

選抜において重視する要件
（総合学科） 〔総合的観点〕 ◎ 基本的な生活習慣が身についており、本校で実施するカリキュラム・学習内容・部活動等教育活動全般に対して強い興味・関心をもつ者で、かつ入学後、意欲的に学校生活を送る意志のある者 〔個別観点〕 次のいずれかに該当する者 『学習について』 ○ 国語・社会・数学・理科・英語・芸術・体育等の各教科に関わって、優れた資質を持ち、得意分野の中から入学後も学習活動に意欲的である者 ○ 全ての教科に対して真面目に学習活動に取り組める者 『部活動等について』 ○ スポーツ・文化活動等で優れた実績や能力があり、入学後もその活動を継続して行う意志のある者 ○ 個々の部活動において、意欲的に活動する意志のある者 『学校生活について』 ○ 生徒会活動・学級活動で実績のある者 ○ ボランティア活動・人権活動に積極的に取り組める者 『進路について』 ○ 将来、地域社会に根差し、地域の一員として社会貢献をする意欲のある者 ○ 自分の夢の実現に向け、向上心を持って専門性を高めようと努力する者 ○ 四年制大学に進学を希望し、意欲的に学習に取り組める者

《いなべ総合学園高等学校》

学 科 名	検 査		実 施 概 要	
	※Ⅰ～Ⅲのいずれかを事前に選択する。			
総合学科	Ⅰ	面 接	集団面接（１グループ２０分程度） 総合学科での学習に対する興味・関心や意欲、進路に関する目的意識等について応答する。	
		作 文	４５分・６００～８００字	
	Ⅱ	次のいずれか １つを事前に 選択する。	学力検査	国語、英語
			学力検査	数学、英語
	Ⅲ	面 接	集団面接（１グループ２０分程度） 総合学科での学習に対する興味・関心や意欲、進路に関する目的意識等について応答する。	
		次のいずれか １つを事前に 選択する。	実技検査 芸術 （美術）	検査時間：１２０分（休憩を含む） 内容：静物デッサン、デッサンについての感想文（１０分） 持参用具：鉛筆、消しゴム（練り消しゴム可） ※高等学校で用意するもの：用紙（Ｂ３Ｍ画用紙ボード）
			実技検査 芸術 （書道）	検査時間：１２０分（休憩を含む） 内容：実技〔毛筆（半紙）・硬筆〕、実技作品についての感想文（１０分） 持参用具：太筆、細筆、墨汁（固形墨可）、硯、鉛筆、消しゴム、練習用半紙、文鎮 ※高等学校で用意するもの：下敷き、清書用紙
			実技検査 体育	１ 共通検査 ２５ｍ往復走、反復横跳び、立ち幅跳び、長座体前屈を全ての志願者に課す。 ２ 選択種目検査 ① 次の種目から、志願者が事前に選択した１種目とする。 陸上競技（１００ｍ走、８００ｍ走、砲丸投げ、走り高跳び、走り幅跳び）・サッカー・バスケットボール・バレーボール・卓球・ソフトボール・器械運動（マット運動）・剣道・レスリング・ゴルフ・ハンドボール・ソフトテニス ※陸上競技は、（ ）内の５種目から１種目を選択する。 ② 内容は、基本的な技能・技術・動作を中心とする。

《いなべ総合学園高等学校》

学 科 名	選 抜 方 法
総合学科	I
	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 評定（第3学年の各教科の評定の合計を2倍） 学級活動・生徒会活動、取得資格、 スポーツ・文化・社会活動の実績 90点満点 最高 10点 合計 100点
	(2) 面 接 A、B、C、Dの4段階で評価し、点数化する。（10点満点）
	(3) 作 文 A、B、C、Dの4段階で評価し、点数化する。（10点満点）
	2 選抜方法 (1)～(3)の合計点数をもとに、面接及び作文の評価、調査書、「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。
	II
	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 ① 評定（第3学年の各教科の評定の合計） ② 学級活動・生徒会活動、取得資格、 スポーツ・文化・社会活動の実績 45点満点 最高10点 100点
	(2) 学力検査 国語、英語または数学、英語（各教科50点）
	2 選抜方法 (1)①の評定得点と(1)②、(2)の合計点数の2つをもとに、調査書、「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。
	III
	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 ① 評定（第3学年の各教科の評定の合計） ② 学級活動・生徒会活動、取得資格、 スポーツ・文化・社会活動の実績 45点満点 最高10点
	(2) 面 接 A、B、C、Dの4段階で評価し、点数化する。（10点満点）
	(3) 実技検査 90点
	2 選抜方法 (1)①の評定得点と(1)②、(2)、(3)の合計点数の2つをもとに、面接の評価、調査書、「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《四日市西高等学校》

学 校 の 特 色
○ 生徒一人ひとりが西高の「顔」として、誇りと自信をもった高校生として生活できるよう、特に、正しく制服が着用できる指導、頭髪指導、挨拶運動、遅刻防止指導に力を入れています。 ○ 家庭学習を定着させるため、英・数・国の課題を毎週決まった曜日に提出します。課題未提出者には「居残り学習」を行います。ルールを守って全員が提出することを目指しています。地道に課題に取り組むことで生徒一人ひとりの学力が目に見える形で向上するように取り組んでいます。 ○ 50分の授業を大切にするため、授業開始の2分前の予鈴で教室に入り、チャイムとともに授業を開始しています。比較文化・歴史、数理情報の2コースは週1回の7限目授業を実施しています。 ○ 生徒の進路希望実現のため、1学年より模試を受け、また進路面談に力を注ぎ、系統だったキャリア教育を実践しています。その結果として、国公立大学、難関私立大学に合格者を出しています。 ○ 恵まれた施設・設備を生かした部活動は活発です。それぞれの部で目指す目標は異なりますが、部活動と学習を両立させて進路自己実現を果たした生徒は増加しています。充実した3年間を過ごすためにも、部活動を学校を挙げて奨励しています。 ○ 後期選抜において、比較文化・歴史、数理情報の2コースは、くくり募集とします。

選抜において重視する要件
〔普通科・比較文化・歴史コース、普通科・数理情報コース共通〕 ○ 国公立大学、難関私立大学への進路を希望し、意欲的・継続的に学業に取り組める者

学科・コース名	検 査	実 施 概 要
普通科・比較文化・歴史コース	面 接	集団面接（15分程度） 志望動機、将来の進路希望、学業への意欲等について応答する。
	学力検査	国語、英語
普通科・数理情報コース	面 接	集団面接（15分程度） 志望動機、将来の進路希望、学業への意欲等について応答する。
	学力検査	数学、英語

学科・コース名	選 抜 方 法
普通科・比較文化・歴史コース	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の国語・社会・数学・理科・英語の評定の合計 25点満点) (2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。 (3) 学力検査 100点(国語50点、英語50点)
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 面接の評価がB段階以上である者のうち、調査書得点が18点以上であることと、学力検査得点の順位が募集人数のおよそ70%以内であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 第1段階において合格となった者を除く全ての受検者
普通科・数理情報コース	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の国語・社会・数学・理科・英語の評定の合計 25点満点) (2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。 (3) 学力検査 250点(数学50点を3倍、英語50点を2倍する。)
	2 選抜方法 比較文化・歴史コースと同じ。

《朝明高等学校》

学 校 の 特 色
朝明高等学校は、昭和53年に創立され、今年で48年目を迎える高校です。春には「千本桜」が満開になり、秋には校舎の周りの木々が見事に紅葉し、冬には雪の鈴鹿山脈がとてもきれいに見える、豊かな自然環境に恵まれたところにあります。 普通科は、2年次よりアスリートコースの他、進学や就職に対応する選択ができます。アスリートコースの生徒は、自転車競技部・レスリング部・ラグビー部に所属し、全国大会に出場するなど、活躍しています。また、他の選択として、進学に対応できる学力を身に着けることを目指すものや、就職に対応するための基礎的な学力を定着させるとともに、就職に対応できるビジネス文書検定1級や簿記実務検定2級などの資格取得を目標にし、社会人基礎力を身につけることを目指しています。 ふくし科は、2年次より2つのコースに分かれます。一つは、介護福祉士の国家試験を受験し資格取得を目指す介護福祉コース。もう一つは、幅広く福祉について学ぶ生涯福祉コースです。 本校では、「社会に貢献できる人間―自分づくりの三年間―」をテーマとして、生徒が良好な人間関係を作りながら成長する学校となるように取り組んでいます。

選抜において重視する要件
(普通科) ○ 基本的生活習慣が身についており、積極的に学ぶ意欲のある者 ○ スポーツ・文化活動等を継続して行う意欲のある者 (ふくし科) ○ 福祉やボランティア活動に興味・関心を有する者 ○ 基本的生活習慣が身についており、積極的に学ぶ意欲のある者 ○ スポーツ・文化活動等を継続して行う意欲のある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科 ふ く し 科	面 接	個人面接（10分程度） 志望動機、学習活動、特技、将来の目標、自己アピール等について応答する。
	学力検査	国語

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科 ふ く し 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 A、B、C、Dの4段階で評価する。 (3) 学力検査 国語の得点をA、B、C、D、Eの5段階で評価する。
	2 選抜方法 学力検査及び面接の結果と調査書をもとに、「自己推薦書」の記載事項を考慮し、総合的に選抜する。

《四日市四郷高等学校》

学 校 の 特 色	
本校は、各学年に普通科と普通科・スポーツ科学コースを設置し、文化・スポーツ活動を通じ、自己実現に向かって努力する生徒、生涯にわたって学び続けることのできる生徒、互いの違いを認め合う心豊かな生徒の育成を目指しています。 生徒には部活動を奨励しており、多くの運動部や文化部が全国大会・東海大会等に出場するなど活躍しています。また、平成10年度から実施している「朝の読書」の取組も本校の特色の一つで、一日の生活を落ち着いた環境で始めることができるとともに、読書が好きになった、集中力がついた等、読書の大切さや良さが実感できる活動として定着しています。 学校生活においては、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成（じょうせい）のため、マナーやルールを守る生徒の育成や服装頭髪指導、遅刻指導、あいさつの励行、授業規律の確立に全校で力を入れて取り組んでいます。また、基礎学力の定着と向上を目指し、学び直しや少人数による習熟度別学習、各教科の補習や課外授業などの学習活動が充実しています。 進路面では、進学・就職両面の多様な進路希望に応えられるよう、進路説明会の充実や個別の面談を重視した、きめ細かな進路指導を進め、成果を上げています。	
○ 普通科	2学年から生徒の興味・関心、意欲や進路希望等に基づき、多様な進路選択ができるよう、芸術コース・ビジネスコース・アドバンスⅠコース（文系コース）・アドバンスⅡコース（理系コース）の4つの特色あるコースに分かれて学習します。
○ 普通科・スポーツ科学コース	スポーツ活動を通じた人づくりを目指します。多くの体育実技やスポーツ概論の授業があり、また、1年では水泳、2年ではゴルフ、3年ではスノーボードの体験実習を実施しています。 生徒たちの多くは各運動部の中心選手として活躍しています。
○ 令和7年度入学生より、コースを超えて一部の科目選択ができます。	

選抜において重視する要件	
〔普通科、普通科・スポーツ科学コース共通〕	
○	学習活動をはじめ、部活動または特別活動等に強い関心を持ち、意欲的に学校生活を送る意志のある者
○	将来、地域社会の一員として社会貢献する意欲のある者
○	明確な進路意識を持ち、その実現に向けて向上心をもって努力する者
〔普通科〕	
○	各教科に対する優れた資質を持ち、入学後も学習活動に意欲的に取り組める者
○	芸術活動（音楽・美術・書道）に強い意欲・関心をもつ者
○	生徒会活動または部活動等に意欲的に取り組む強い意志をもつ者
〔普通科・スポーツ科学コース〕	
○	体育・スポーツ活動に強い興味・関心をもつ者
○	体育・スポーツに関する専門性を高める意志を持ち、運動部活動などに継続的、意欲的に取り組める者

学科・コース名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	個人面接（5分程度） 「自己推薦書」の内容、学習活動、芸術活動、生徒会活動、部活動等への興味・関心・意欲、入学後の目標等について応答する。
	学力検査	国語
普通科・スポーツ科学コース	面 接	個人面接（5分程度） 「自己推薦書」の内容、スポーツ活動への興味・関心・意欲、入学後の目標等について応答する。
	実技検査	基本的な運動： 50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、反復横跳びを全員が受検する。 選択種目： 次の8種目の中から受検者が事前に選択した1種目を受検する。 内容は、基本的な技能・技術、動作を中心とする。 バスケットボール・ソフトボール・ハンドボール・テニス・サッカー・バレーボール・レスリング・陸上競技（100m走、800m走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げの中から一つを選択する。） （注）陸上競技は、天候によっては一部の種目を変更することがある。 100m走→25m2往復走 800m走→シャトルラン 走り幅跳び→立ち三段跳び

《四日市四郷高等学校》

学科・ コース名	選 抜 方 法						
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table> <tr> <td>評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）</td> <td>90点満点</td> </tr> <tr> <td>学級活動・生徒会活動、スポーツ・ 文化活動の実績、取得資格</td> <td>最高 30点</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>120点</td> </tr> </table> (2) 面 接 次の3つの項目について評価し、点数化する。（30点満点） ・ 学習活動や進路に対する目的意識 ・ 部活動や特別活動に対する興味・関心、意欲 ・ 面接態度 (3) 学力検査 国語（50点満点） 2 選抜方法 (1)～(3)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点	学級活動・生徒会活動、スポーツ・ 文化活動の実績、取得資格	最高 30点	合 計	120点
評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点						
学級活動・生徒会活動、スポーツ・ 文化活動の実績、取得資格	最高 30点						
合 計	120点						
普通科・ スポーツ科学 コース	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table> <tr> <td>評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）</td> <td>90点満点</td> </tr> <tr> <td>学級活動・生徒会活動、スポーツ活動の実績</td> <td>最高 50点</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>140点</td> </tr> </table> (2) 面 接 次の3つの項目について評価し、点数化する。（30点満点） ・ 学習活動や進路に対する目的意識 ・ 部活動やスポーツに対する興味・関心、意欲 ・ 面接態度 (3) 実技検査 100点 2 選抜方法 (1)～(3)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点	学級活動・生徒会活動、スポーツ活動の実績	最高 50点	合 計	140点
評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点						
学級活動・生徒会活動、スポーツ活動の実績	最高 50点						
合 計	140点						

《四日市工業高等学校》

学 校 の 特 色
○ 本校には、物質工学科、機械科、電子機械科、電気科、電子工学科、建築科、自動車科の7学科があり、各学科の3学年では、進学希望者に対応するため、専門科目に替えて普通教科・科目の選択もできます。 ○ 「技術と精神（こころ）」を校訓に、工業各分野の知識・技術を習得し、地域社会に貢献できる技術者を育成します。 ○ ものづくりや各種職業資格の取得ができるよう積極的に取り組みます。 ○ 勉学・礼儀・責任・勤労の調和のとれた教育を推進するとともに、部活動を奨励し、学校行事を充実させ、心豊かな人間を育成します。 ○ スポーツ等を通して心身を鍛え、全国高等学校総合体育大会への出場等スポーツ振興に取り組んでいます。

選抜において重視する要件
〔物質工学科、機械科、電子機械科、電気科、電子工学科、建築科、自動車科共通〕 ○ 芸術・文化活動や生徒会活動、ボランティア活動または人権活動等で活躍し、高校生活においても活動する意欲があり、工業に関する学科に興味・関心のある者 ○ スポーツ等においてすぐれた実績があり、入学後も継続して活動する意志のある者。また、工業に関する学科に興味・関心がある者 （物質工学科） ○ 物質工学（化学的技術・陶磁器技術）に強い興味・関心があり、資格取得に積極的に取り組むとともに、産業分野への進路を強く希望する者 （機械科） ○ 数学や理科が得意で、機械に強い興味・関心があり、資格取得に積極的に取り組むとともに、産業分野への進路を強く希望する者 （電子機械科） ○ 電子機械（ロボット技術・各種自動制御・情報技術等）に強い興味・関心があり、資格取得に積極的に取り組むとともに、産業分野への進路を強く希望する者 （電気科） ○ 数学や理科が得意で、電気に強い興味・関心があり、学習に対して粘り強く努力でき、資格取得に積極的に取り組むとともに、産業分野への進路を強く希望する者 （電子工学科） ○ 数学や理科が得意で、その知識を応用し伸ばそうとする意欲があり、電子工学に興味・関心がある者。また、産業分野への進路を強く希望する者 （建築科） ○ 建築に興味・関心があり、各教科に対して真面目に学習でき、ものづくり・資格取得に積極的に取り組むとともに、産業分野への進路を強く希望する者 （自動車科） ○ 自動車（構造・整備）に関する興味・関心が強く、その技術の習得や資格取得に熱心に取り組むとともに、産業分野への進路を強く希望する者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
物質工学科 機 械 科 電子機械科 電 気 科	面 接	個人面接（7～8分） 志願学科への興味・関心・意欲、目的意識等について応答する。
電子工学科 建 築 科 自 動 車 科	作 文	45分・600字程度

《四日市工業高等学校》

学 科 名	選 抜 方 法						
物質工学科 機 械 科 電子機械科 電 気 科 電子工学科 建 築 科 自 動 車 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table> <tr> <td>評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）</td> <td>90点満点</td> </tr> <tr> <td>評定以外の記載事項</td> <td>最高20点</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>110点</td> </tr> </table> (2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。 (3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価する。 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の60%以内であることと、面接と作文の評価がともにB段階以上であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点	評定以外の記載事項	最高20点	合 計	110点
評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点						
評定以外の記載事項	最高20点						
合 計	110点						

《四日市中央工業高等学校》

学 校 の 特 色
昭和37年に創立された工業高校で、機械科・電気科・化学工学科・都市工学科・設備システム科の5学科を有しています。「四中工はあなたの能力を伸ばします。」を合言葉に、全教職員が一丸となって次のことに取り組んでいます。 ○ 豊かな人間性を備えた工業技術者の育成を目指し、資格取得や専門教育の充実に積極的に取り組んでいます。 ○ 進路は、就職者が約8割で、その多くが製造関係の仕事についています。希望者に対し9倍以上の求人があります。残りの約2割の進学者は、工学部に進む人や、引き続きスポーツを行うため文系の学部に進む人がいます。卒業生との懇談会・企業セミナー・インターンシップなど様々なキャリア教育を行っています。 ○ 運動部活動が盛んで、サッカー部・ウエイトリフティング部・水球部（本年度3つの部活動が三重県高等学校運動部強化指定事業で「強化指定運動部」として指定）や柔道部などが東海大会や全国大会で活躍しています。 ○ 工業高校の特徴である技術系部活動では、ロボット研究部が全国大会で活躍するなどの実績を残しています。

選抜において重視する要件
〔機械科、電気科、化学工学科、都市工学科、設備システム科共通〕 ○ 工業学科への志望動機が明確であり、将来の進路に対する目標や目的意識をもっている者 ○ 工業学科の学習に興味・関心があり、資格取得等に意欲的に取り組める者 ○ 部活動またはホームルーム活動等に積極的に取り組める者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
機 械 科 電 気 科 化学工学科 都市工学科 設備システム科	面 接	個人面接（7分程度） 志願学科に対する志望動機、目的意識、関心・意欲、将来の進路の目標等について応答する。
	作 文	45分・400字程度

学 科 名	選 抜 方 法						
機 械 科 電 気 科 化学工学科 都市工学科 設備システム科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table> <tr> <td>評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）</td> <td>45点満点</td> </tr> <tr> <td>評定以外の記載事項</td> <td>最高 20点</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>65点</td> </tr> </table> (2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。（25点満点） (3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価する。（10点満点） 2 選抜方法 (1)～(3)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	45点満点	評定以外の記載事項	最高 20点	合 計	65点
評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	45点満点						
評定以外の記載事項	最高 20点						
合 計	65点						

《四日市商業高等学校》

学 校 の 特 色	
○	商業に関する専門高校です。 本校は創立１２９周年を迎え、県内はもちろん全国的にも、歴史と伝統を誇る商業高校です。
○	校訓は「至誠」です。 校訓「至誠」の精神をもとに、商業教育を通じて、知・徳・体・心の健全な成長を促し、礼儀を重んじ、誠実を旨とする専門性の高い職業人の育成に努めます。商業高校として、高校または大学卒業後の実社会で役立つよう、挨拶と礼儀を重視しています。
○	就職に強く、進学にも有利なのが本校の強みです。 資格の取得等に積極的に取り組みます。その結果として、抜群の就職実績だけでなく、商業高校の強みを生かした大学への進学実績にも注目してください。
○	学科は「商業科」と「情報マネジメント科」があります。 商業科は、商業に関して広く学習する学科です。２学年からは興味・関心、資格取得に応じて３つのコース（会計ビジネス・情報ビジネス・流通ビジネス）を用意しています。 情報マネジメント科は、１学年で情報処理分野と会計分野をバランス良く学習したうえで、２学年からは個々の適性や資格取得への希望等に応じ、情報処理分野の力をさらに伸ばす情報システムコース、会計分野の力をさらに伸ばす情報マネジメントコースを用意して、希望進路の実現を図ります。
○	勉強と部活動の両立を目指します。 部活動は運動部が１３、文化部が１７あり、大変盛んに活動しています。運動部は３つの部が三重県の強化指定を受けるなど高い評価を受けています。また商業高校独自の部もあり、各種商業実務競技大会での輝かしい実績を誇っています。東海大会や全国大会に出場する部は、運動部・文化部ともに多く、ほとんどの生徒が部活動に参加し、充実した学校生活を過ごしています。

選抜において重視する要件
〔商業科、情報マネジメント科共通〕 ○ 商業の学習に興味・関心をもち、資格取得などに意欲的に取り組める者 ○ スポーツ・文化活動または生徒会活動等で優れた資質を有し、入学後もその活動を継続的・意欲的に取り組む意志のある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
商 業 科 情報マネジ メント科	面 接	個人面接（５分程度） 志望動機、部活動、中学校での生活の様子等について応答する。
	作 文	４５分・４００～５００字

学 科 名	選 抜 方 法
商 業 科 情報マネジ メント科	1 選抜資料の取扱い
	(1) 調 査 書 点数化する。
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）
	調査書における評定以外の記載事項
	最高
	90点満点
	20点
	合計
	110点
	(2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価し点数化する。
(3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価し点数化する。	
2 選抜方法	
次の各段階に該当する受検者について順に、調査書、面接・作文の評価及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	
(1) 第1段階 「1 選抜資料の取扱い」(1)から(3)の合計点の順位が募集人数のおよそ60%以内である者	
(2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者について、「選抜において重視する要件」に特に合致する者	
(3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者	

《四日市農芸高等学校》

学 校 の 特 色
本校は四日市市の南端、河原田町にあり、交通はＪＲと伊勢鉄道が通っており、通学はたいへん便利です。校庭には多くの樹木が植えられ、春の新緑から秋の紅葉まで四季折々の樹木や花を楽しむことができます。専門高校として農業３学科、家庭１学科があります。農業では、栽培や飼育を中心とした食料生産の分野や観賞植物を活用した生活環境の改善についての知識・技術を学ぶ「農業科学科」、食の安全・安心をコンセプトに食品の製造・衛生・栄養、活用等について学ぶ「食品科学科」、自然と人間の調和を図り造園や都市計画、環境保全等の業務に従事し生活環境の向上を目指す「環境造園科」があります。また、家庭では、衣・食・住・福祉など、日々の生活と関わりの深い分野について学ぶことができる「生活文化科」があります。

選抜において重視する要件
〔農業科学科、食品科学科、環境造園科、生活文化科共通〕 ○ 各学科の学習内容に興味・関心があり、学習意欲のある者 ○ 部活動または生徒会活動等に積極的に取り組む意欲のある者 （農業科学科） ○ 栽培や飼育を中心とした食料生産の分野や観賞植物を活用した生活環境の改善といった分野に興味・関心及び意欲があり、将来その分野への進路を希望する者 （食品科学科） ○ 食の安全性や栄養機能、食品の開発、加工、販売技術に興味・関心及び意欲があり、将来その分野への進路を希望する者 （環境造園科） ○ 庭造りや公園設計、地域の自然環境の保全や再生に興味・関心及び意欲があり、将来その分野への進路を希望する者 （生活文化科） ○ 食物、服飾、福祉の分野に興味・関心及び意欲があり、高度な知識・技術を習得して、将来その分野への進路を希望する者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
農業科学科 食品科学科 環境造園科 生活文化科	面 接	個人面接（１０分程度） 志望の動機、目的意識、学習や部活動、生徒会活動等への関心・意欲等について応答する。
	作 文	５０分・６００字程度

学 科 名	選 抜 方 法
農業科学科 食品科学科 環境造園科 生活文化科	１ 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第１～３学年の各教科の評定を換算する） (2) 面 接 個人面接 Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅの５段階で評価し点数化する。 (3) 作 文 Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅの５段階で評価し点数化する。 ２ 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第１段階 調査書得点の順位が募集人数のおよそ６０％以内であることと、個人面接及び作文の評価がＣ段階以上で、なおかつＢ段階以上の評価が一つ以上あることの両方の条件を満たす者 (2) 第２段階 第１段階で合格となった者を除く全ての受検者

《菰野高等学校》

学 校 の 特 色
○菰野高校とは 昭和23年に創設され、70年を超える歴史と伝統があり、多くの卒業生が県内外の各界で活躍しています。また、菰野町唯一の県立高校として地元から親しまれるなど、地域とのつながりが強い学校です。 ○菰野高校が特に力を入れていること 【学力の向上】 在校生の進路希望は就職、進学と様々ですが、全員が希望する進路を実現できるよう、1学年次から段階を追って丁寧な指導を行うなど、学力の向上に力を入れています。 【エリア制】 「エリア制」という柔軟な教育課程を編成しているのが特徴です。2学年次から、次に示す3つのエリア（科目群）から授業を選択して、自分の興味・関心や進路希望に応じた学びを深め、力をつけていきます。 『ステップアップ』：大学・短大・高等看護専門学校等への進学に必要な学力を身につけ、上級学校への合格を目指します。 『キャリアデザイン』：就職したあと、仕事をするうえで必要となる資格の取得、技能の習得など、社会人としての資質と能力を身につけます。 『ヒューマンサポート』：実習や体験学習を中心とする授業をととして、社会人にふさわしい人格の完成を目指します。 【部活動、生徒会活動、地域との連携】 部活動をはじめ、生徒会活動、学校行事を通じて、優しさや思いやり、生命の尊さや人権を尊重する心、感謝の気持ちなど、一人ひとりの豊かな人間性を育みます。また、地域の行事等に積極的に参加するなど、「地域から愛される学校」として活発に活動しています。

選抜において重視する要件
(普通科) ○ 明確な進路希望を持って、本校の学校生活や学習活動、体験学習等の地域に根ざした教育活動に積極的に取り組む意欲のある者 ○ スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組んでおり、入学後も継続して活動する意志のある者 ○ 漢字検定、英語検定、数学検定、情報処理検定、ビジネス文書検定などの様々な資格検定を積極的に取得しようとする者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	集団面接（1グループ20分程度） 志望動機、志願者の目的意識、関心、意欲等について応答する。
	学力検査	数学

学 科 名	選 抜 方 法	
普 通 科	1 選抜資料の取扱い	
	(1) 調 査 書 点数化する。	
	評価(第3学年の各教科の評定の合計)	4 5 点満点
	スポーツ・文化活動等の実績や能力	最高 5 点
	合 計	5 0 点
	(2) 面 接 A、B、C、Dの4段階で判定する。	
	(3) 学力検査 数学(50点満点)の得点をA、B、C、Dの4段階で評価する。	
	2 選抜方法	
	次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	
	(1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数のおよそ60%以内であることと、面接及び数学の評価がともにB段階以上であることの両方の条件を満たす者	
(2) 第2段階 調査書得点の順位が募集人数のおよそ80%以内であることと、面接及び数学の評価がともにC段階以上であることの両方の条件を満たす者		
(3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者		

《川越高等学校》

学 校 の 特 色	
川越高校は、広い国際的な視野と自主的創造的な精神を身につけた「自立した学習者」(Independent Learner)を育成し、地域から信頼される進学校としての役割を果たします。文武両道に励みながら、ここ数年は概ね卒業生の4割が国公立大学に合格するなど、文系、理系を問わず幅広い分野の大学へ進学しています。 様々な社会課題を見出し主体的かつ協働的に解決できる次世代を担う人材育成をめざして、令和7年度入学生から、普通科を「探究科」に、国際文理科を「国際探究科」に学科を改編し、次のように取り組んでいます。 - 探究活動を通して「知的好奇心を持ち、知識を身につける力」、「情報を収集し、分析する力」、「物を論理的に考える力」、「傾聴・発信・協働する力」を育み、社会課題の解決に向けて主体的に取り組む人材を育成します。 「総合的な探究の時間」をこれまでの3単位から5単位に増単するとともに、学校設定科目「探究発展Ⅰ～Ⅲ」3単位と合わせて8単位とすることで、探究活動に係る時間を十分に確保しています。探究活動の基本的スキルの理解・定着から探究活動の実践及び発表に至るまで、探究活動のレベルを段階的に高めていく「探究プログラム」により、系統的な探究活動に取り組みます。 - 大学等の高等教育機関や行政機関等と連携し、個々の探究課題に応じてフィールドワークを実施します。学年の枠を越えた縦割りグループを編成し、上級生が下級生をリードしながらミニ探究活動や中間発表会及び相互評価を行い、生徒が主体的・協働的に取り組みます。 - 国のDXハイスクール事業により、生徒が自由に使える高性能パソコンや大型モニター等のデジタル機器を配置した「探究ラボルーム」を活用し、探究活動の質の向上につなげています。 - 教職進学セミナー及び医療看護系進学セミナーを開設し、希望者を対象に卒業生の現職や大学生、養成機関等からの講演を実施します。 - 海外からの交換留学生を受け入れるとともに、海外研修や留学、海外大学進学に向けたツアーデスクを開設するなど、海外交流を充実します。 - 充実したオンデマンド学習教材を活用し、個々の学習状況に合った個別最適な学習を推進します。 ○国際探究科の特色 2人のALTによるクリエイティブな授業や少人数制の英語プレゼンテーションスピーチ、サイエンスダイアログ等の各界スペシャリストによる英語特別講義など、これまで時代をリードしてきた本校独自の多彩な英語教育プログラムがあります。 - 海外大学において英語で講義を受け、英語で探究活動をプレゼンテーションを行ったり、在外企業を訪問したりする「海外スタディツアー」(シンガポールを予定)を実施します。	

選抜において重視する要件
(国際探究科) ○ 英語について興味・関心が強く、入学後も主体的・積極的に学ぶ意欲のある者 ○ 将来、大学などへの進学をはじめ、主体的に進路を切り拓き、学び続ける意欲のある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
国際探究科	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
国際探究科	1 選抜資料の取扱い (1) 学力検査 100点(数学50点、英語50点) (2) 調査書 点数化する。(第3学年の各教科の評定の合計 45点満点) 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の120%以内であることと、学力検査得点の合計の順位が募集人数の80%以内であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者

《神戸高等学校》

学 校 の 特 色
本校は、大正9（1920）年創立の伝統ある進学校です。 鈴鹿地区から通学している生徒が最も多く、地域の方々からは「神高生（かんこうせい）」と親しみをこめて呼ばれています。また、生徒は「質実剛健」の校訓のもと、誠実に、心身ともに健やかでたくましく学業に励んでいます。 本校では、どのような状況においても輝くことができる生徒を育てることを目指しています。生徒のほぼ全員が大学への進学を目指し、約8割が部活動に励みながら、充実した高校生活を過ごしています。また、個別面談のほか、課外授業、進路ガイダンス、大学出前授業等、希望する進路の実現に向けた多彩な行事設定やきめ細かな進路指導がなされています。 自らを知り、自分の目標に向かって挑戦し続けながら、将来、地域に貢献しリーダーとして活躍できる生徒を育成しています。

選抜において重視する要件
（理数科） ○ 学習成績が優秀で、意欲的に学習活動に取り組める者 ○ 国公立大学をはじめとする難関四年制大学への進学を希望する者 ○ 次世代を担う研究者・技術者として、社会に貢献する「夢」と「志」を持つ者 ○ リーダーシップを備え、部活動または生徒会活動等へ積極的に取り組める者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
理 数 科	面 接	集団面接（1グループ30分程度） 進路に対する目的意識、得意分野・教科に関する関心・意欲等について応答する。
	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
理 数 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。 (3) 学力検査 100点（数学50点、英語50点）
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、面接の評価、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して、総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点（45点満点）と学力検査得点の1.5倍（100点×1.5）の合計が、上位から募集人数のおよそ80％以内である者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者

《飯野高等学校》

学 校 の 特 色
県内唯一の学科である応用デザイン科と英語コミュニケーション科を有する高等学校です。 応用デザイン科では、生徒の適性、興味・関心や進路希望等により「ビジュアルデザイン」「服飾デザイン」「美術（油彩画・日本画・彫刻）」の3コースに分かれて専門的な学習を行っており、専門学科ならではの施設・設備を活用して実習の時間を多く設けています。また、美術系やデザイン系の上級学校への進学希望者が多く、国公立大学を含む芸術系大学への進学実績をあげています。 英語コミュニケーション科では、全ての英語の授業を少人数講座で行っており、読む・聴く・書く・話す（やり取り・発表）の4技能5領域をバランスよく学習できる授業内容となっています。ALTとのチームティーチングによる英会話やリスニングの授業も充実しています。授業以外にも、英語研修、海外語学研修、姉妹校（オーストラリア）交流など、実際に英語を使う多彩な行事を設けています。また、進路希望に応じたコース制のカリキュラムにより、四年制大学の外国語学部をはじめ、幅広い文系学部への進学実績をあげています。

選抜において重視する要件
（応用デザイン科） ○ 美術・デザイン表現に優れた資質をもつ者 ○ 将来の夢の実現に向けてチャレンジする向上心がある者 （英語コミュニケーション科） ○ 英語の学習に興味をもち、入学後も学習活動に意欲的である者 ○ 英語を生かした将来の夢の実現に向けてチャレンジする向上心がある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
応用デザイン科	面 接	集団面接（1グループ15分程度） 志望動機、美術・デザインに対する関心・意欲、将来の目標等について応答する。
	実技検査	鉛筆デッサン（休憩時間を含む120分） 用具：鉛筆、消しゴム（練り消しゴム可）、鉛筆削り（カッターナイフ可）のみ持ち込み可（志願者が持参する） 用紙：四つ切り画用紙（高等学校が用意する）
	学力検査	英語、国語
英語コミュニケーション科	面 接	個人面接（10分程度） 日本語と英語による面接。英語による面接では、日常会話や英文の内容について英問英答を行う。 （例）What is your hobby?
	学力検査	英語

《飯野高等学校》

学 科 名	選 抜 方 法
応用デザイン科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の各教科の評定の合計 45点満点) (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 学 力 検 査 100点(国語50点、英語50点) (4) 実 技 検 査 100点(鉛筆デッサン) 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、面接の評価並びに調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 次の3つの条件を全て満たす者 ① 調査書得点の順位が募集人数の100%以内であること ② 学力検査得点の順位が募集人数の100%以内であること ③ 実技検査得点の順位が募集人数の100%以内であること (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者
英語コミュニケーション科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の各教科の評定の合計 45点満点) (2) 面接(英語) 点数化する。(50点満点) (3) 面接(日本語) A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (4) 学 力 検 査 50点(英語) 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、面接(日本語)の評価並びに調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の100%以内であることと、学力検査得点と面接(英語)による得点の合計の順位が募集人数の80%以内であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者

《白子高等学校》

学 校 の 特 色
(普通科) 「創造・奉仕・規律」を教育理念として掲げている。奉仕の心で行動し、規律を守り、主体的に学ぶ姿勢の育成を目指す。 地元から愛され、応援される学校を目指している。 各々の生徒が「学ぶ意識」や「目的意識」をもち、特別活動等を通じて向上心を高め、社会の一員として必要な意識の醸成（じょうせい）に努めている。 生徒の希望に応じて、進学にも就職にも応えられる総合的な教育を実施している。 (普通科・文化教養（吹奏楽）コース) 吹奏楽に関する専門科目（吹奏楽、演奏研究、重奏、舞台芸術、音感身体表現等）を履修し、演奏技術、指導技術、音楽的素養の習得とともに、豊かな人間性をもったスペシャリストを育成する。 また、就職はもちろんのこと、音楽系大学や文系大学等への進学にも対応している。 (生活創造科) 家庭に関する知識や技術、マナーを学習し、心豊かなライフスタイルを創造する力を身につける。 新しい感覚をもったスペシャリストを育成するため、従来の家庭科領域にとらわれない独自のカリキュラムを設定している。 2年次から、食物分野・被服分野を柱とする2コースに分かれて専門的な学習をし、様々な資格取得にもチャレンジできる。 また、ボランティア活動を通して地域や産業界との連携を深めている。

選抜において重視する要件
[普通科、普通科・文化教養（吹奏楽）コース、生活創造科共通] ○ 志望の動機が明確で、高校生活にしっかりとした目標・目的意識をもった者 (普通科) ○ すべての教科に対して真面目に学習活動に取り組める者 ○ 勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組んでおり、入学後も高校生活において継続して努力する意志のある者 (普通科・文化教養（吹奏楽）コース) ○ すべての教科に対して真面目に学習活動に取り組める者 ○ 吹奏楽活動に興味・関心があり、高校生活において継続して努力する強い意志のある者 ○ 吹奏楽において優れた資質や実績があり、入学後も本校の中核として活動する強い意志のある者 (生活創造科) ○ 家庭に関する知識や技術の習得に興味があり、真面目に学習活動に取り組める者 ○ 勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組んでおり、入学後も高校生活において継続して努力する意志のある者

学科・コース名	検 査	実 施 概 要
普 通 科 生活創造科	面 接	個人面接（5分程度） 本校入学への目的意識や面接態度をみて、適性を確認する。
	学力検査	国語
普通科・ 文化教養 （吹奏楽） コース	自己表現	個人発表（5分程度） 自由な形式での自己PR（音楽系実技）及び質疑応答を通して、文化教養（吹奏楽）コースへの興味・関心、意欲や適性をみる。 （個人発表の例） ・ 楽器の演奏をする。
	学力検査	国語

《白子高等学校》

学科・ コース名	選 抜 方 法
普 通 科 生活創造科	1 選抜資料の取扱い (1) 学力検査 国語（５０点満点）の得点をＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅの５段階で評価する。 (2) 面 接 ２０点満点で評価し、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅの５段階で評価する。 (3) 調 査 書 ３年間の各教科の評定の合計（１３５点満点）を得点化し、評価する。 2 選抜方法 学力検査及び面接の結果と調査書をもとに、自己推薦書の記載事項を考慮し総合的に選抜する。
普通科・ 文化教養 （吹奏楽） コース	1 選抜資料の取扱い (1) 学力検査 国語（５０点満点）の得点をＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅの５段階で評価する。 (2) 自己表現 ２０点満点で評価し、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅの５段階で評価する。 (3) 調 査 書 ３年間の各教科の評定の合計（１３５点満点）を得点化し、評価する。 2 選抜方法 学力検査及び自己表現の結果と調査書をもとに、自己推薦書の記載事項を考慮し総合的に選抜する。

《石薬師高等学校》

学 校 の 特 色
本校は昭和53年に創立され、令和8年度には開校49年目を迎える普通科の学校です。 校訓の「自主・創造・敬愛」をもとに、次のような学校を目指しています。 ＜自主＞ 自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育てる学校 ＜創造＞ 地域から信頼され、強い責任感を持ち、将来の社会に貢献する生徒を育てる学校 ＜敬愛＞ 笑顔にあふれ、人を思いやる豊かな人間性を持つ生徒を育てる学校 このような学校を実現するために生徒一人ひとりをきめ細かくサポートする取組を進めています。特に次の3つに力を入れています。 ○ 学ぶ楽しさを実感できる授業 生徒一人ひとりが学ぶ意欲を高めながら、基礎的な学力をしっかりと身につけるよう「わかる授業」をめざして取り組んでいます。授業によっては、習熟度別のクラス編成をしています。 ○ キャリア教育の充実 1年次は全員共通の科目を学習し、その後2年次からは進学希望に対応する「アカデミック類型」と就職など幅広い進路希望に対応する「スタンダード類型」に分かれ、進路希望に応じて学びます。また、総合的な探究の時間等において「企業・学校説明会」「企業・学校訪問見学」「インターンシップ（就業体験）」などに取り組むとともに全職員体制で指導にあたる「面接指導」を行うなど、3年間を見通じたキャリア教育計画を進め、生徒一人ひとりの進路希望を実現します。 ○ 豊かな人間性の育成 ホームルーム活動、学校行事や部活動・生徒会活動のほか、併設の特別支援学校との交流等を通じて、他者への優しさや思いやり、生命の尊さや人権を尊重する心、感謝の気持ちなど、生徒一人ひとりの豊かな人間性を育みます。

選抜において重視する要件
(普通科) ○ 志望動機が明確で、高校生活に目的意識を持つ者 ○ 規範を守り、学校生活に積極的に取り組める者 ○ 基礎的な学力と学ぶ意欲を備え、向上心を持って学習する者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	個人面接（10分程度） 志望動機、学習・部活動等の学校生活に対する意欲・関心、将来の目標等について応答する。
	学力検査	国語

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 評定（第3学年の各教科の評定の合計） 4 5 点満点 評定以外の記載事項 最高 3 0 点 合 計 7 5 点 (2) 面 接 次の4つの項目について、A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 ・ 志望動機 ・ 中学校生活に関する内容 ・ 高校での抱負と将来の進路 ・ 面接態度 (3) 学力検査 国語（5 0 点満点）
	2 選抜方法 (1)～(3)をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《稻生高等学校》

学 校 の 特 色
知・徳・体の調和がとれた教育実践をととして、学校・家庭・地域の連携のもと「社会に役立つ人材の育成」に取り組み、向上心やコミュニケーション能力の育成を目指します。また「社会に役立つ人材」を育成するためのきめ細やかな生徒指導や個人面談を充実させ、個々の進路実現につなげます。 (普通科) ○ 2年次より、生徒の興味・関心に合わせてコースの授業を行い、大学、専門学校、民間企業等と連携し、資格取得や実習を多く取り入れ、生徒一人ひとりの進路実現につなげます。 ・アドバンスコース 国語・社会（公民）・数学・理科・英語の5教科の授業をととして、幅広い教養を身につけることをねらいとするコースです。生徒一人ひとりの多様な進路選択に対応し、基礎から発展的な内容まで学びます。また、資格取得をサポートし、社会で活躍できる人材の育成を目指します。 ・自動車工業コース 工業科目を中心に自動車工学、自動車整備など自動車と機械分野の基礎を学ぶとともに、3年次では企業実習を行います。 ・介護福祉コース 介護福祉についての専門的な知識を学ぶとともに、「介護職員初任者研修課程（旧ホームヘルパー2級）」の資格取得を目指します。 ・食物調理コース 食文化や食品についての専門的な知識を学ぶとともに、調理実習等をととして、計画的に考え行動する力を身につけ、食物に関する資格の取得を目指します。 ・ビジネスコース 簿記や情報処理などの商業科目を学ぶことで、コンピュータリテラシーやビジネスマナーなどビジネス社会で必要とされる力を養います。 ・情報コース 日々高度化する情報社会で専門的な情報活用能力、技術や正しい情報モラルを備えたスペシャリストの育成を目指します。さらにプレゼンテーションの学習を通じて、社会人として必要とされているコミュニケーション能力や自己表現力が身につけられます。 (体育科) ○ 健康促進：自身の健康を重視し、フィットネスプログラムや栄養指導などを通じて、健康的な生活習慣を養います。 ○ 運動能力の向上：生徒たちの運動能力を高めるために、多様なスポーツや運動プログラムを提供し、個々のニーズや興味に合わせたトレーニングを行います。 ○ スポーツマンシップと精神面の育成：勝利だけでなく、フェアプレイや相手を尊重する精神を育て、スポーツマンシップを重視します。また、ストレス管理や精神的な健康に関する教育を行います。 ○ チームワークとリーダーシップの育成：チームスポーツや協力型の活動を通じて、チームワークやリーダーシップスキルを養います。生徒たちが協力し合い、責任を持って行動する機会を提供します。 ○ キャリアの可能性の拡大：保健体育科教員をはじめ公務員を目指す等、将来のキャリアの可能性を広げる支援を行います。また、スポーツ関連のキャリアに興味を持つ生徒には、コーチングやスポーツマネジメントなどの専門知識を提供します。

選抜において重視する要件
[普通科、体育科共通] ○ 明確な進路希望を持ち学習活動をはじめ、主体的、積極的に取り組む意欲のある者 ○ 規範意識や基本的生活習慣が身につけている者 ○ 自他を敬愛し、コミュニケーション能力がある者 (普通科) ○ コース制を理解し、学習活動に意欲的に取り組める者 ○ 資格取得、スポーツ（部活動やクラブチームでの活動）、文化活動や生徒会活動等に積極的に取り組んでおり、入学後も継続していく意思のある者 (体育科) ○ スポーツ等において優れた実績があり、専門性を高め、競技力向上を継続して活動する強い意志のある者 ○ スポーツに強い興味・関心があり、体育科の学習活動や部活動に継続して意欲的に取り組める者

《稲生高等学校》

学科・コース名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	個人面接（１０分程度） 志望動機、学習や学校教育活動等への意欲、将来の目標等について応答する。
	学力検査	国語
体 育 科	面 接	個人面接（１０分程度） 志望動機、スポーツ・学習に対する意欲、将来の目標等について応答する。
	実技検査	運動基礎力： 立ち幅跳び、ハンドボール投げ、反復横跳びを全員が受検する。 選択種目： 次の種目から、志願者が事前に選択した１種目とする。内容は、基本的な技能・技術、動作を中心とする。 陸上競技（１００ｍ走、８００ｍ走、走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げ）・柔道・ソフトボール・サッカー・バスケットボール、ハンドボール （注）・ 陸上競技は、（ ）内の５種目から１種目を選択する。 ただし、雨天時は一部の種目を変更する。 １００ｍ走・走り幅跳び・砲丸投げ→立ち幅跳び ８００ｍ走→シャトルラン ・ 運動ができる服装を準備し、柔道選択者は柔道着を準備すること。スパイクシューズの使用は認めない。

学科・コース名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第３学年の各教科の評定の合計 ４５点満点 調査書に記載されている事項 最高１０点） (2) 面 接 A、B、C、D、Eの５段階で評価する。 (3) 学力検査 国語（５０点満点）の得点をA、B、C、D、Eの５段階で評価する。
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第１段階 調査書得点の順位が募集人数のおよそ８０％以内であることと、面接と学力検査（国語）の評価がともにB段階以上であることの両方の条件を満たす者 (2) 第２段階 第１段階で合格となった者を除く全ての受検者
体 育 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第３学年の各教科の評定の合計 ４５点満点 調査書に記載されている事項 最高１０点） (2) 面 接 A、B、C、D、Eの５段階で評価する。 (3) 実技検査 A、B、C、D、Eの５段階で評価する。
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第１段階 調査書得点の順位が募集人数のおよそ８０％以内であることと、面接の評価がB段階以上かつ実技検査の評価がA段階であることの両方の条件を満たす者 (2) 第２段階 第１段階で合格となった者を除く全ての受検者

《亀山高等学校》

学 校 の 特 色
普通科、システムメディア科、総合生活科の3学科を展開し、多様な進路希望の実現を支援します。また、個々の興味・関心、能力・適性に応じた学習を保障するため、2年次より学科の枠を越えて普通科目や専門科目を選択できる総合選択制を採っているほか、インターンシップなどの体験学習を中心としたキャリア教育を充実させ、勤労観・職業観の育成にも努めています。 普通科は、各自の適性に応じた進路希望を実現する学力の養成と資格の取得を目指し、「アドバンス系列」と「セレクション系列」を設置しています。アドバンス系列では、7限授業、必要に応じた習熟度別講座編成、夏期集中講座など、大学進学に向けてきめ細かな指導を行っています。セレクション系列では、興味・関心や進路希望に応じた幅広い科目選択を可能にして、丁寧な指導を行っています。 システムメディア科は、県内唯一の「情報」に関する専門学科であり、充実した施設・設備の中でコンピュータに関係する幅広い知識と専門的な技術を身に付けた高度情報社会で活躍できる人材の育成を目指しています。1年次では情報分野の基礎的な学習を進め、2年次より興味・関心、進路希望に応じて、「ITシステム」「メディアデザイン」「情報ビジネス」の3つの系列に分かれて、資格取得も支援しながらそれぞれの専門分野の学習を行います。 総合生活科は、ヒューマンサービスに関連する職業について学習し、地域の人々との触れ合いを大切にしながら、思いやりの心とコミュニケーション能力を育てることを目標に「幼児教育」「人間福祉」「食物文化」の3系列を設置しています。1年次に基礎学習とガイダンスの時間を設け、家庭科専門分野の基礎・基本を共通して学習し、2年次より各系列に分かれた学習を行います。

選 抜 に お い て 重 視 す る 要 件
〔普通科、システムメディア科、総合生活科共通〕 ○ スポーツ・文化活動やボランティア活動または生徒会活動等に意欲をもって取り組む姿勢を有する者 (普通科) ○ 将来の明確な進路希望がある者 (システムメディア科) ○ コンピュータに興味・関心があり、意欲的に取り組める者 ○ 情報・デザイン・ビジネス分野での資格取得を目指す者 (総合生活科) ○ 保育・福祉・食物分野に関心があり、学習する目的が明確な者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科 システムメディア科 総合生活科	面 接	個人面接（5分程度） 志望理由、中学校生活、高校生活における抱負、進路に対する目標等について応答する。
	作 文	30分・600字程度

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科 システムメディア科 総合生活科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 次の6つの項目について評価し、点数化する。（30点満点） ・ 本校を志望する動機 ・ 学習に対する意欲 ・ 中学校生活における諸活動 ・ 高校生活についての抱負 ・ 自己や社会問題への関心 ・ 面接態度 (3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価する。 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 作文の評価がB段階以上であることと、調査書得点と面接得点の合計の順位が募集人数のおよそ80%に当たることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 作文の評価がB段階以上かつ面接得点の順位が募集人数のおよそ120%に当たる者のうち、調査書の評定以外の記載事項及び「自己推薦書」の記載事項において、「選抜において重視する要件」に特に合致すると認められる者 (3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者

《津西高等学校》

学 校 の 特 色
本校は、創立より52年、清新の気にあふれ教育内容・教育環境ともに充実した学校です。地元では「西高」と愛称され、「高い志と広い視野を持ち、社会をリードする人材を育成する学校」「これからの社会を生き、未来を切り拓いていくのに必要な資質、能力を培う学校」「確かな学力と豊かな人間性を育み、進路希望を実現する文武両道の進学校」として教育課程を編成し、学習指導・進路指導の充実に努めています。 平成19年度から6年間「スーパー・サイエンス・ハイスクール」、平成25年度には「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」の指定を受け、大きな成果をあげました。平成26年度からは、それまでの内容を継承発展させる「津西サイエンス・パートナーシップ・プログラム」を学校独自に立ちあげ、これらを通して国際科学科を中心に国内外で活躍できる能力と資質をもつ人材育成を目指しています。 また、「津西グローバルチャレンジプロジェクト」として、昨年度は、これまでコロナの影響で中止していた「海外語学研修」を再開し、「オーストラリア語学研修」を実施しました。今後は、隔年で「海外語学研修」を実施する予定です。さらに、平成29年度から、これからの社会で求められる、他者との協働による課題発見・解決及び表現能力を養うため、「総合的な探究の時間」において、探究活動「課題研究」に取り組んでいます。 これらの取組等を通して、「社会で生きるのに必要な力（主体性、協働性、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力等）とそれを支える確かな学力、豊かな人間性を身につけた生徒」、「将来、リーダーとして国際社会や地域社会に貢献しようとする高い志と夢を持つとともに、その実現に向けて学習や特別活動、部活動に意欲的に取り組む生徒」を育むことを目指しています。

選抜において重視する要件
（国際科学科） ○ 将来リーダーとして国際社会に貢献しようとする高い志と夢をもち、それに対応できる学習成績と学習意欲をもっている者 ○ 難関国公立大学への進学を強く希望し、希望実現のため意欲的・積極的に取り組める者 ○ 前期選抜学力検査教科のみならず、どの教科に対しても意欲的に取り組んでいる者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
国際科学科	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
国際科学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 学力検査 100点（数学50点、英語50点）
	2 選抜方法 (1)と(2)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《津商業高等学校》

学 校 の 特 色
中勢地区で唯一の商業に関する専門高校で、情報システム科とビジネス科があります。 情報システム科は、ネットワーク・データベース・セキュリティマネジメントといった情報の専門分野の基礎を学習し、情報化社会に対応できる資格（国家試験等）と知識・技術を身につけ、ビジネスの諸活動においてコンピュータを活用する能力と態度を育みます。 ビジネス科は、簿記会計やワープロ、情報処理、マーケティング分野などビジネスに必要な知識・技術・マナーを幅広く学びます。一人ひとりの進路や興味・関心に対応するため、2年生から会計類型と経営情報類型に分かれて学習します。 卒業後の進路は、およそ6割が四年制大学・短期大学・専門学校等への進学、およそ4割が多様な職種へ就職し、就職者の大半が三重県内に就職しています。 部活動がたいへん盛んで、運動部・文化部ともいくつもの部が全国大会に毎年出場しています。多くの生徒が学習と両立させながら充実した学校生活を送っています。

選抜において重視する要件
〔ビジネス科、情報システム科共通〕 ○ 「商業」や「情報」の学習に興味・関心と意欲があり、資格取得にも積極的に取り組める者 ○ スポーツ活動や文化活動または生徒会活動等に意欲を持って取り組む姿勢を有する者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
ビ ジ ネ ス 科 情報システム科	面 接	個人面接（10分程度） 志望動機、中学時代の諸活動、高校生活への関心・意欲、将来の目標等について応答する。
	作 文	40分・400～500字

学 科 名	選 抜 方 法	
ビ ジ ネ ス 科 情報システム科	1 選抜資料の取扱い	
	(1) 調 査 書 点数化する。	
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	4 5 点満点
	スポーツ・文化活動、生徒会活動等における	
	取組姿勢、意欲、実績等	最高 1 5 点
	合 計	6 0 点
	(2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。	
	(3) 作 文 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。	
	2 選抜方法	
次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。		
(1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の60％以内であることと、面接の評価がC段階以上であることの両方の条件を満たす者		
(2) 第2段階 調査書得点の順位が募集人数の120％以内であることと、面接の評価がB段階以上かつ作文の評価がC段階以上であることのすべての条件を満たす者		
(3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者		

《津東高等学校》

学 校 の 特 色	
○	本校は、津駅から最も近くにある普通科・単位制高校で、多くの生徒が国公立大学をはじめとする四年制大学への進学を希望しています。本校では、受験を突破する力を付けるだけでなく、変化の大きいこれからの社会で必要とされる、「自分らしくたくましく『未来を切り拓く力』（対話力・追究力・創造力・発信力）」の育成を目指しています。これらの力を育成するため、地域の「本気の大人」の協力を得て、1・2年生で、探究活動「自分らしくプロジェクト」に取り組み、答えが一つでない問いに対して納得解を創り出す経験を積んでいます。また、単位制の特色を活かした多様な選択講座により、進路希望に応じた系列を選択することができるのと同時に、一人ひとりを大切にしたいきめ細やかなガイダンスを通して自分の将来についてじっくり考えることができます。
○	1年次より、Sクラス（80人）とFクラス（160人）に分かれます。Sクラスは、1年次より国公立大学をはじめとする四年制大学等への進学を強く希望する生徒で編成するクラスです。Fクラスは、1年次で共通の科目を学習しながら進路を考え、2年次は理系・文系の2つの系列、3年次には国立文系、A型文系、B型文系、理系の4つの系列から、自分の進路実現に最も適した系列を選びます。

選抜において重視する要件	
(普通科)	○ 自分らしく社会に貢献しようとする夢と志を持ち、その実現のために、国公立大学をはじめとする四年制大学等に進学したいという意志が明確な者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の各教科の評定の合計 45点満点) (2) 学力検査 200点(数学50点、英語50点をそれぞれ2倍する)
	2 選抜方法 (1)と(2)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《津工業高等学校》

学 校 の 特 色
「電気科」「電子科」「建設工学科」各学年1学級と「機械科」各学年3学級を置く、平成29年度(2017年度)に100周年を迎えた長い歴史と伝統を有する、中勢地区唯一の工業高校です。生徒は、日々、教科学習をはじめ、部活動や資格取得等の自主的・自発的な活動をとおり、基礎学力の向上、工業に係る専門知識・技術、また、規範意識やコミュニケーション力等の社会人基礎力の習得、相手を思いやり、命を大切にする人権感覚の醸成等に積極的・意欲的に取り組んでいます。そして、専門知識・技術や部活動の実績を生かし、約7割の生徒が県内を中心に就職しています。また、約3割の生徒が県内外の大学・短大・専門学校に進学しています。

選抜において重視する要件
〔機械科、電気科、電子科、建設工学科共通〕 ○ 「ものづくり」に興味・関心があり、工業に係る専門知識・技術の習得に強い意欲を持ち、自己の進路実現に向かって主体的に学ぶ者 ○ ルールやマナーを順守し、良好なコミュニケーションを心がけながら、基本的生活習慣の確立に向かって弛みなく行動する者 ○ 部活動や生徒会活動、資格取得等の自主的・自発的な活動の充実に向かって積極的にチャレンジする者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
機 械 科 電 気 科 電 子 科 建設工学科	面 接	集団面接（1グループ20分） 志望動機、工業教育に関する興味・関心、適性について応答する。
	総合問題	50分（数学、国語）

学 科 名	選 抜 方 法						
機 械 科 電 気 科 電 子 科 建設工学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table border="1"> <tr> <td>評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）</td> <td>70点満点</td> </tr> <tr> <td>中学3年間におけるスポーツ・文化活動の取り組み状況等</td> <td>最高15点</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>85点</td> </tr> </table> (2) 総合問題 30点 (3) 面 接 次の4つの項目についてそれぞれ評価し、A～Eの5段階で評価する。 ・ 本校を志望する動機、目的意識 ・ 学科の内容についての理解 ・ 高校生活への意欲 ・ 面接態度（応答の的確さ、明瞭さなど） 2 選抜方法 (1)と(2)の合計点数をもとに、面接の評価並びに調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	70点満点	中学3年間におけるスポーツ・文化活動の取り組み状況等	最高15点	合 計	85点
評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	70点満点						
中学3年間におけるスポーツ・文化活動の取り組み状況等	最高15点						
合 計	85点						

《久居高等学校》

学 校 の 特 色	
○	単位制高校であり、多数の選択科目を設置しています。
○	大学進学、看護・医療系を含む専門学校への進学、公務員、民間企業等への就職等、生徒一人ひとりの進路実現をサポートします。
○	生徒の進路希望に応じて、きめ細かく丁寧に指導を行うため、一年次より、スポーツコース、普通コース、チャレンジコースに分かれて学習します。 ・スポーツコースでは、体育系大学への進学や、実社会でスポーツに係る人材育成を目標としたカリキュラムにより学習を進めます。 ・普通コースでは、5教科の学びを中心に基礎学力の定着を図り、二年次から進路希望実現に向けて科目を選択します。 ・チャレンジコースでは、国公立大学や難関・中堅私立大学への進学ニーズに対応するカリキュラムでの学習を行います。
○	運動部、文化部とも、活発に活動しており、優秀な成績をあげています。

選抜において重視する要件	
○	高校生活に明確な目的意識をもち、自らの目標に向かい意欲的・積極的に取り組める者
○	体育・スポーツに興味・関心をもち、スポーツに関連する学習活動や実習などに意欲的・積極的に取り組める者
○	各教科の学びを大切に、自らの進路希望の実現に向けて、進路に応じた専門的な学習や実習等に意欲的・積極的に取り組める者
○	国公立大学や難関・中堅私立大学等への進学を目指し、各教科の学習に意欲的・積極的に取り組める者
○	学校行事や部活動、地域活動などに意欲的・積極的に取り組める者

学科・コース名	検 査		実 施 概 要
普 通 科	面 接		集団面接（1グループ20分程度） 将来の進路希望やその実現に向けての意識、あるいは高校生活全般に対する関心、意欲等について応答する。
	選択する。次のどちらか一つを事前に	I 学力検査	国語
		II 実技検査	基本的な運動： ラジオ体操第一、マット運動を全員が受検する。 得意種目： 次の陸上競技2種目の中から受検者が事前に選択した1種目を受検する。 男子：100m走、1500m走 女子：100m走、1000m走 （注）天候によっては、種目を変更することがある。 100m走→25m2往復走 1500m走、1000m走→シャトルラン

《久居高等学校》

学科・ コース名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 評定（第3学年の各教科の評定の合計） 45点満点 評定以外の記載事項 最高 5点 合 計 50点 (2) 面 接 次の5つの項目について、総合的にA、B、Cの3段階で評価する。 ・志望動機 ・積極性 ・物事への関心 ・社会性 ・目的意識 (3) 検 査 （ⅠまたはⅡの検査方法の中からあらかじめ1つ選択する。） Ⅰ 学力型 学力検査 検査内容について、総合的にA、B、Cの3段階で評価する。 Ⅱ 体育型 実技検査 検査内容について、総合的にA、B、Cの3段階で評価する。 2 選抜方法 Ⅰ 学力型 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の80%以内であり、面接及び学力検査の評価がともにA段階である者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者 Ⅱ 体育型 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の80%以内であり、面接及び実技検査の評価がともにA段階である者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者

《久居農林高等学校》

学 校 の 特 色
本校は、農業と家庭の専門教育を通して、自然と勤労を愛し、地域や社会に積極的に貢献することのできる生徒を育てる専門高校を目指しています。 本校には、以下のような特色があります。 ○ 少人数教育による充実した学習指導 1 クラス30人以下の少人数教育を実施しています。さらに、進路希望に応じて教科・科目選択の機会もあります。 ○ 特色あるコースで学べる専門教育 農業学科6コース、家庭学科3コースは、それぞれ特色ある学習内容でスペシャリストを目指します。 ○ 生徒の適性に応じた多様な進路指導 就職から進学まであらゆる進路実現ができる体制をとっています。また、国公立大学への進学についても力を入れています。 ○ 学習と部活動の両立 運動系部活動、文化系部活動とも活発に活動し、毎年全国大会、東海大会に進出するなど活躍しています。また、動物クラブ、林業クラブなど専門教育に関連する生産系の部活動も活躍しています。

選抜において重視する要件
〔生物生産科、生物資源科、環境情報科、環境土木科、生活デザイン科共通〕 ○ 強い志をもち、高等学校での学習に意欲的・継続的に取り組むとともに、その学習を生かした資格取得などに積極的に挑戦しようとする者 ○ 高等学校で学習する専門的な内容等を生かした進路実現を果たそうとする者 ○ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める者 (生物生産科) ○ 食品加工や食料生産等に関する学習に強い興味・関心、意欲があり、それらの専門性を生かした進路実現を目指す者 (生物資源科) ○ 動物や食料生産等に関する学習に強い興味・関心、意欲があり、それらの専門性を生かした進路実現を目指す者 (環境情報科) ○ 自然環境や林業、草花栽培や造園等に関する学習に強い興味・関心、意欲があり、それらの専門性を生かした進路実現を目指す者 (環境土木科) ○ 農業土木や農業機械、草花栽培や造園等に関する学習に強い興味・関心、意欲があり、それらの専門性を生かした進路実現を目指す者 (生活デザイン科) ○ 食生活・衣生活・リビング・保育等に関する学習に強い興味・関心、意欲があり、それらの専門性を生かした進路実現を目指す者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
生物生産科 生物資源科 環境情報科 環境土木科 生活デザイン科	面 接	個人面接（１０分程度） 「自己推薦書」の内容を中心に、志願者の目的意識・関心・意欲について応答する。
	作 文	４０分・４００字程度
学 科 名	選 抜 方 法	
生物生産科 生物資源科 環境情報科 環境土木科 生活デザイン科	１ 選抜資料の取扱い (１) 調 査 書 点数化する。 評定（第１～３学年の各教科の評定を換算） １３５点満点 スポーツ・文化活動等の取り組み状況 最高 ２０点 合 計 １５５点 (２) 面 接 A、B、C、D、Eの５段階で評価する。 (３) 作 文 A、B、C、D、Eの５段階で評価する。	
	２ 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (１) 第１段階 調査書得点の順位が募集人数の８０％以内である者のうち、面接と作文の評価のいずれか一方がA段階であり、他方がC段階以上である者、または両方がB段階である者 (２) 第２段階 調査書得点の順位が募集人数の９０％以内である者のうち、面接と作文の評価のいずれか一方がB段階以上、他方がC段階以上である者 (３) 第３段階 第１段階及び第２段階で合格となった者を除く全ての受検者	

《白山高等学校》

学 校 の 特 色
本校は、青山高原の東山麓、雲出川の中流域に位置しており、豊かな自然と落ち着いた学習環境に恵まれた、家庭的で温かい雰囲気のある学校です。 またコミュニティ・スクールの理念を生かした地域連携に取り組み、「地域を愛し地域を活性化できる生徒の育成」を目指しています。 小規模校のメリットを生かしたていねいな学習や、地域とのつながりを大切にした活動を中心に、きめ細かい指導とキャリア教育に力を入れています。 多くの科目で少人数制や習熟度別などの講座編成を行い、「学習のしやすさ」と「授業のわかりやすさ」を工夫しています。 地域における実習や体験学習を行う科目や、コミュニケーション能力を重視した科目など、総合的な「人間力」を高める科目群があります。

選抜において重視する要件
〔普通科、情報コミュニケーション科共通〕 ○ 学校生活や学習活動、地域に根ざした体験学習等を含め、本校での教育活動に積極的に取り組む意欲のある者 ○ スポーツ・文化活動において優れた実績や能力があり、入学後も継続して積極的に活動する意志のある者 ○ 生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める者 (普通科) ○ キャリア教育を通して、社会で活躍できる人間力を身につけたい者 ○ 福祉に興味・関心があり、関連する資格取得を目指す者 (情報コミュニケーション科) ○ 情報コミュニケーション科の学習に興味・関心があり、主体的・積極的に取り組める者 ○ 将来の自己実現に向けて、商業系の資格取得を目指す者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科 情報コミュニケーション科	自己表現	○ 自己表現（5分程度） 自分の特技等から学んだことや、自己の成長につながったこと等を自己アピールする。 ○ 個人面接（10分程度） 面接では自己表現の内容や、志望動機等について応答する。

学 科 名	選 抜 方 法						
普 通 科 情報コミュニケーション科	1 選抜資料の取扱い (1) 調査書 点数化する。 <table border="0"> <tr> <td>① 第1～第3学年の各教科の評定を換算する</td> <td>90点 満点</td> </tr> <tr> <td>② 生徒会活動、スポーツ・文化活動等の実績等を含む取り組み状況、資格取得</td> <td>最高20点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>110点</td> </tr> </table> (2) 自己表現（個人面接を含む） 次の4つの項目について、総合的にA、B、Cの3段階で評価する。 ・ 自己表現の内容、発表方法、表現力 ・ 本校への志望動機、入学後の各種学習活動等への意欲 ・ 学科の内容についての理解 ・ 面接態度 2 選抜方法 (1) 調査書の①及び②と(2)自己表現（個人面接を含む）の評価をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項（スポーツ・文化活動の具体的な実績等）を考慮して総合的に選抜する。	① 第1～第3学年の各教科の評定を換算する	90点 満点	② 生徒会活動、スポーツ・文化活動等の実績等を含む取り組み状況、資格取得	最高20点	合計	110点
① 第1～第3学年の各教科の評定を換算する	90点 満点						
② 生徒会活動、スポーツ・文化活動等の実績等を含む取り組み状況、資格取得	最高20点						
合計	110点						

《上野高等学校》

学 校 の 特 色
120余年の歴史と伝統があり、多くの卒業生が各方面で活躍しています。地域からは、生徒の進路希望をきめ細かくサポートしてくれる進学校として信頼を得ています。学業と部活動の両立をモットーに、9割を超える生徒が部活動に加入しており、東海大会や全国大会の場で活躍している部もあります。 学際探究科は、三重県初の普通科新学科として今年度新入生を迎え入れました。これまでの普通科の学びに探究的な学びを加えることにより、試行錯誤を繰り返しながら課題解決へのアプローチや学び方を身につけ、より高い学力の習得につなげることができる新時代に対応した新しい学科です。 文部科学省指定の「スーパーサイエンスハイスクール」は第Ⅱ期目を迎え、理数科・学際探究科ともに課題発見・解決力等を育む学習活動の更なる充実を図っています。

選抜において重視する要件
〔学際探究科、理数科共通〕 ○ 志望動機が明確で、高校生活にしっかりとした目的意識を有する者 (学際探究科) ○ 国公立大学や難関私立大学等への進学を希望し、すべての教科で意欲的に学習することができる者 ○ 学際探究科の学習および探究活動に積極的に取り組み、好奇心をもって様々な活動に挑戦することができる者 (理数科) ○ 難関国公立大学や医学科への進学を希望し、すべての教科に強い興味・関心をもって意欲的に取り組むことができる者 ○ 理数科の学習内容および理数科行事への興味・関心が高く、優れた思考力・判断力・表現力等を身に付け、主体的に学ぶことができる者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
学際探究科	面 接	個人面接（10分程度） 志望理由、将来の夢、中学校での探究活動、学際探究科で頑張りたいこと等について応答する。
	学力検査	数学、英語
理 数 科	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
学際探究科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の合計 45点満点) (2) 学力検査 100点(数学50点、英語50点) (3) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。
	2 選抜方法 (1)と(2)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項、面接の評価を考慮して総合的に選抜する。
理 数 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の合計 45点満点) (2) 学力検査 100点(数学50点、英語50点)
	2 選抜方法 (1)と(2)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《あけぼの学園高等学校》

学 校 の 特 色
○ 小規模の学校で、各年次を20～30人ずつのクラスに分けてホームルームを構成しています。 ○ 少人数教育によって、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大切にする教育を推進しており、生徒の興味・関心、適性に合った進路が実現できるように積極的に支援しています。 ○ 総合学科の学校で、多くの選択科目から一人ひとりの個性に応じた授業を選択することにより将来の夢の実現をバックアップします。 ○ 習熟度別学習や少人数教育を積極的に取り入れ、1人1台タブレット端末をはじめとする充実したICT環境を活用して、学ぶ喜びを感じられる授業を展開しています。

選抜において重視する要件
(総合学科) ○ 志望動機が明確で、高校生活にしっかりとした目的意識をもつ者 ○ 総合学科の学習内容に対して強い興味・関心、意欲のある者 ○ 規範意識を強くもち、学校生活に積極的に取り組める者 ○ すべての教科に対して真面目に学習活動に取り組める者 ○ 将来の夢の実現に向け、チャレンジする向上心がある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
総合学科	面 接	個人面接（10分程度） 志望動機、将来の目標、中学校での活動等について応答する。
	作 文	30分・600字程度

学 科 名	選 抜 方 法
総合学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 選抜方法の各段階において記載事項の全てを考慮する。 (2) 面 接 A、B、C、Dの4段階で評価する。 (3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価する。
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 面接、作文の評価が全てA段階である者 (2) 第2段階 面接、作文の評価が全てB段階以上である者 (3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者

《伊賀白鳳高等学校》

学 校 の 特 色	
○	工業、農業、商業、福祉の学科を有する三重県唯一の総合専門高校です。地域に根ざし、地元で活躍できる生徒の育成をめざします。
○	7つの学科 機械科、電子機械科（ロボットコース、電気工学コース）、建築デザイン科（建築・インテリアコース、デザインコース）、生物資源科、フードシステム科（フードサイエンスコース、パティシエコース）、経営科、ヒューマンサービス科（介護福祉コース、生活福祉コース）を設置し、職業に関する専門的な学習を行います。
○	3年間を通した系統的なキャリア教育を推進し、生徒の興味・関心や適性に応じた進路が実現できるよう積極的に支援します。
○	企業と連携した伊賀版デュアルシステムを導入することにより、実践的かつ高度な専門教育を推進します。
○	部活動を奨励し、文化・スポーツ活動を通して心身を鍛えることにより、心豊かな人間性と個性を伸ばすことに努めます。
○	2年次からは、進学希望者に対応するため、専門科目に替えて普通教科・科目も選択することができます。
○	各種検定や職業資格の取得ができるよう補習授業等にも積極的に取り組みます。

選抜において重視する要件	
〔機械科、電子機械科、建築デザイン科、生物資源科、フードシステム科、経営科、ヒューマンサービス科共通〕	
○	学習活動にまじめに取り組むことができる者
○	健康管理、自己管理ができ、自己表現力とコミュニケーション能力のある者
○	校内外における自発的な活動（たとえば、スポーツ・文化活動、生徒会活動、人権活動、ボランティア活動等）に熱心に取り組む、入学後も継続して意欲的に活動できる者
〔機械科〕	
○	ものづくりに興味・関心があり、その分野の専門的な知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者
〔電子機械科〕	
○	コンピュータ制御技術に興味・関心があり、新しい知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者
○	電気技術に興味・関心があり、その分野の専門的な知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者
〔建築デザイン科〕	
○	技術・家庭に興味・関心があり、木材を使ったものづくりや建築に関する知識の習得等に根気強く取り組むことができる者
○	美術に興味・関心があり、その分野の専門的な知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者
〔生物資源科〕	
○	植物バイオテクノロジーや食料生産に興味・関心があり、その分野の専門的な知識や技術の習得や新しい知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者
〔フードシステム科〕	
○	安全で安心な食品の製造に興味・関心があり、その分野の専門的な知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者
○	製菓に興味・関心があり、その分野の専門的な知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者
〔経営科〕	
○	販売や流通、経済や企業の経営等に興味・関心があり、その分野の専門的な知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者
〔ヒューマンサービス科〕	
○	福祉に関する分野で、特に介護に興味があり、高度な資格の取得等に積極的に取り組む意欲のある者
○	福祉や保育に興味・関心があり、その分野の専門的な知識や技術の習得等に積極的に取り組む意欲のある者

《伊賀白鳳高等学校》

学 科 名	検 査	実 施 概 要
機 械 科 電子機械科 建築デザイン科 生物資源科 フードシステム科	面 接	個人面接（１０分程度） 志願する学科への志望動機、高校生活や学習活動等への関心・意欲、進路に関する目的意識、目標等について応答する。
経 営 科 ヒューマン サービス科	作 文	４５分・２～３のテーマに対し、各１５０～２００字

学 科 名	選 抜 方 法
機 械 科 電子機械科 建築デザイン科 生物資源科 フードシステム科 経 営 科 ヒューマン サービス科	１ 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 A、B、C、Dの４段階で評価する。 (2) 面 接 A、B、C、Dの４段階で評価する。 (3) 作 文 A、B、C、Dの４段階で評価する。 ２ 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第１段階 調査書、面接、作文の評価が全てA段階である者 (2) 第２段階 調査書、面接、作文の評価が全てB段階以上である者 (3) 第３段階 第１段階及び第２段階で合格となった者を除く全ての受検者

《名張高等学校》

学 校 の 特 色	
○ 全体像	本校は、校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を活かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校を目指しています。Society5.0 の新しい社会に必要な資質能力の育成を目指して、地域との連携を更に進め、仲間とともに目的に向かって協働する態度を身につけます。
○ 系列	◆ 文理アドバンス系列 文系教科または理系教科を中心に広い視野で仲間とともに学習し、大学・短期大学・看護医療系専門学校へ進学できる力を身につけます。地域の人から学んだり、実際に地域で体験したり、看護医療専攻では医療機関と連携をするなどし、社会で活躍できる力を身につけます。 ◆ 総合ビジネス系列 ビジネスの基礎を学習することで、将来即戦力として地域や企業で活躍できる力を身につけます。情報処理検定などの資格を取得し、進路実現にいかします。地域観光資源について調査・分析・課題解決策を提案することで、地域の活性化に貢献できる力を身につけます。 ◆ 健康スポーツ系列 健康・スポーツの専門的な学習をすることで、健康を維持し、スポーツに積極的に関わる姿勢を身につけます。地域と連携し、健康・スポーツの大切さを発信し、健康増進のリーダーとして社会で活躍できる力を身につけます。 ◆ 表現デザイン系列 絵画・演奏研究・ファッション・映像などの専門的な学習を通して、創造力や自己表現力を身につけます。学習成果を地域に発信し、文化の担い手となれる力を身につけます。
○ キャリア教育	1 年次「産業社会と人間」、2・3 年次「総合的な探究の時間」を通じて、生徒の主体的な進路実現ができるようきめ細かな指導を行います。生徒の進路先は、進学が約 7 割、就職が約 3 割であり、総合学科の特色ある学びのシステムにより、幅広い進路実現を可能にしています。
○ 部活動	「吹奏楽」「美術」「放送」「新聞」「茶華道」「ESS」「ワープロ」「ヒューマンライツ」「漫画研究」などの文化部、運動部についても充実した施設設備を活用して「柔道」「新体操」「野球」「サッカー」「テニス」「ハンドボール」「バスケットボール」「バレーボール」「卓球」「剣道」など、人間性と競技力の向上を目指して日々活動に励んでいます。

選抜において重視する要件	
(総合的観点)	○ 学校生活 本校の教育活動全般に対して強い興味・関心をもち、入学後、積極的・意欲的に学校生活を送る意志のある者
(個別観点)	○ 学習について 国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、芸術、保健体育、商業、情報、家庭等の各教科に強い関心をもち、得意分野の学習活動に意欲的に取り組む者 ○ スポーツ・文化活動等について スポーツ・文化活動等に積極的に取り組んでおり、入学後もその活動を継続して行う意志のある者 ○ 地域活動・人権活動等について 地域活動や生徒会活動、学級活動、ボランティア活動または人権活動等に積極的に取り組める者 ○ 進路について 将来、地域社会の一員として地域の活性化や社会貢献をする意欲をもち、向上心をもって自分の夢や目標の実現に努力する者

《名張高等学校》

学 科 名	検 査	実 施 概 要
総合学科	面 接	個人面接（１０分程度） 志望動機、学校生活への意欲、自己アピール等について応答する。
	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
総合学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 評定（第１～３学年の各教科の評定を換算） スポーツ・文化活動等の実績等 最高 4 5 点満点 5 点 合 計 5 0 点 (2) 面 接 A、B、C、Dの４段階で評価する。 (3) 学力検査 1 0 0 点（数学5 0 点、英語5 0 点）
	2 選抜方法 (1) 第１段階 調査書得点等によりおよそ募集人数に当たる数の者を選ぶ。選ばれた者のうち、面接の評価がC段階以上かつ学力検査得点の順位が募集人数のおよそ9 0 %以内であることの両方の条件を満たす者 (2) 第２段階 第１段階で合格となった者を除く全ての受検者

《名張青峰高等学校》

学 校 の 特 色
名張青峰高等学校は、いずれも単位制の仕組みによる「普通科」と「普通科・文理探究コース」を設置し、生徒一人ひとりの自己実現と進路実現を図ります。 「普通科」は、多様な選択科目を開講し、幅広い生徒の興味・関心・進路に対応します。 「普通科・文理探究コース」は、探究的活動を重視した授業や放課後・休業中のセミナー、自習室開放等により、国公立大学等への進学を目指します。 名張青峰高等学校では、Chromebookをはじめとする充実したＩＣＴ環境を活用した授業、海外の姉妹校や留学生との交流等のグローバル教育、人権尊重をベースとした協働的・主体的学習態度の育成などにより、「未来を拓く力」「グローバル化社会で活躍する力」「人とつながる力」を育成します。

選抜において重視する要件
〔普通科、普通科・文理探究コース共通〕 ○ 志望動機が明確で、高校生活にしっかりとした目的意識をもっている者 (普通科) ○ 勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動または人権活動等に積極的に取り組んでおり、入学後それらの活動に継続して意欲的に取り組める者 ○ 上級学校等への明確な志望動機をもち、入学後各教科の学習に意欲的に取り組める者 (普通科・文理探究コース) ○ 国公立大学や難関私立大学等への明確な志望動機をもち、入学後各教科の学習に意欲的に取り組める者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	集団面接（１グループ２０分程度） 進路に関する目的意識、学習に関する関心・意欲、規範意識、中学校時代の諸活動、入学後の学校生活の目標等について応答する。
	学力検査	数学、英語
普通科・ 文理探究 コース	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第３学年の評定の合計４５点満点） (2) 面 接 Ａ、Ｂ、Ｃの３段階で評価する。 (3) 学力検査 １００点（数学５０点、英語５０点）
	2 選抜方法 (1)と(3)の点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項、面接の評価を考慮して総合的に選抜する。
普通科・ 文理探究 コース	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第１～３学年の評定の合計１３５点満点） (2) 学力検査 １００点（数学５０点、英語５０点）
	2 選抜方法 (1)と(2)の点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《松阪高等学校》

学 校 の 特 色
明治43年に創立した飯南女学校を前身として、松阪市民から「南高（ナンコウ）」または「松高（マツコウ）」と親しまれている歴史と伝統のある学校です。生徒のほとんどが大学等に進学し、その中でも四年制大学への進学が圧倒的に多く、充実した学習指導と的確な進路指導のもとで、生徒の自己実現に必要な力を養うことができます。授業は、「学問のおもしろさや楽しさ」を体感できるように工夫されており、自らの興味や関心を深め、目的を持った大学選びにつながるようになっています。 文部科学省よりSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、課題発見・課題解決能力の育成をととして主体的、対話的で深い学びを行います。この探究活動の中で、大学の先生の講話を聞いたり、大学や研究施設とも連携をします。そこから、「何のために学ぶのか」という問いに対する答えを自らが追求し、自分の将来について考える機会を多く持つようになっています。授業改善を図り、授業内容を充実するとともに、授業時間もしっかりと確保しています。また、土曜講座を開催し、課外学習体制も充実しています。 生徒一人ひとりの個性を大切にし、自ら考え、自ら行動できる人を育てることを教育目標とし、学習にも部活動にも一生懸命に取り組むことができる学校です。

選抜において重視する要件
（理数科） ○ 将来を担うリーダーとして社会貢献できる「高い志と夢」を有し、難関国公立大学や医学部への進学を希望し、全ての教科に強い興味・関心をもって意欲的に取り組むことができる者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
理 数 科	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
理 数 科	1 選抜資料の取扱い （1）調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） （2）学力検査 200点（数学50点、英語50点をそれぞれ2倍する） 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 （1）第1段階 調査書得点と学力検査得点の合計点数の順位が募集人数のおよそ90%以内である者 （2）第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者

《松阪工業高等学校》

学 校 の 特 色
明治35年に当時全国唯一の応用化学専攻の三重県立工業学校として開校した伝統ある学校です。 創立当時の木造校舎の外壁は、実験の影響で黒変することのないようにと朱色に塗装されていました。この外壁に由来する校訓「赤壁魂」（せきへきたましい）とは、本校生徒が学校生活を通して積極的に自己の人格を高め、勉学に励み、知識・技術を身につけて「社会に必要とされる人間になれ」という、創立当初からの松工精神を伝える言葉です。 創立以来、常に時代に即し、充実した工業教育が行われ、二万人を超える先輩が産業界をはじめ各界で活躍しています。 工業化学科は、創立以来の伝統を引き継ぎ、県内だけでなく全国へ優秀な人材を送り出しています。 機械、自動車の2学科も、それぞれ県内の工業高校の中で最も早く設置され、伝統と実績を誇っています。 電気工学科は、電気主任技術者の資格取得者数で、全国の高校で常に上位の実績があります。 繊維デザイン科は、繊維のみならず幅広くデザイン、美術、工芸の学習ができる学科であり、多くの美術系大学への進学実績があります。 また、各種の資格取得生徒数は、全国工業高校の中で常に上位に入る実績があります。

選抜において重視する要件
〔機械科、電気工学科、工業化学科、繊維デザイン科、自動車科共通〕 ○ 勉学をはじめ、部活動または生徒会活動等に興味と意欲をもっている者 （機械科） ○ ものづくりに興味・関心があり、資格取得にも積極的に取り組める者 （電気工学科） ○ 身の回りの電気や電化製品に興味・関心があり、将来技術者を目指している者 ○ 資格取得によって、自分の力量を高めていきたいという意欲のある者 （工業化学科） ○ 化学実験や物質の成り立ちに興味・関心があり、ものづくりや資格取得に積極的に取り組める者 （繊維デザイン科） ○ デザインや美術・工芸に関する興味・関心があり、専門的な知識・技能を身につけたい者 （自動車科） ○ 専門的な知識や技術の習得及び資格取得に積極的に取り組める者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
機 械 科 電 気 工 学 科 自 動 車 科	面 接	集団面接（1グループ20分程度） 専門学科に関する興味・関心、意欲について応答する。 勉学をはじめ部活動または生徒会活動等に関する興味と意欲について応答する。 学校が用意したホワイトボード（A3サイズ）を用いて意見を述べる質問も行う。
	作 文	60分・2題・各300字程度
工業化学科	面 接	集団面接（1グループ20分程度） 専門学科に関する興味・関心、意欲について応答する。 勉学をはじめ部活動または生徒会活動等に関する興味と意欲について応答する。
	作 文	60分・2題・各300字程度
繊維デザイン科	面 接	個人面接（10分程度） デザインや美術、工芸等の創造的な仕事、自己表現やものづくりに関する興味・関心、意欲について応答する。個人作品の持ち込み可。
	実技検査	鉛筆デッサン（休憩を含む120分） 用具：鉛筆、消しゴム（練り消しゴム可）、鉛筆削り用カッターナイフ（受検者が持参） 用紙：B3画用紙（高等学校で用意）

《松阪工業高等学校》

学 科 名	選 抜 方 法
機 械 科 電 気 工 学 科 工 業 化 学 科 自 動 車 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 評定（第3学年の各教科の評定の合計を2倍） 90点満点 評定以外の記載事項 最高 20点 合 計 110点 (2) 面 接 次の5つの項目について評価し、点数化する。（30点満点） ・ 志望の動機、目的意識 ・ 学科の内容への興味・関心 ・ 中学校での活動 ・ 高校生活への意欲 ・ 面接態度 (3) 作 文 次の4つの項目について評価し、点数化する。（20点満点） ・ 課題に即した内容 ・ 表現、展開の適切さ ・ 学科に対する興味・関心 ・ 表記の正確さ
	2 選抜方法 (1)～(3)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。
繊維デザイン科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。 (3) 実技検査 15点
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 面接の評価がB段階以上であることと、調査書得点と実技検査得点の合計の順位が募集人数の80%以内であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者

《松阪商業高等学校》

学 校 の 特 色
本校は大正9年の創立以来、地元松阪に根ざした商業高校として幾多の歴史を刻んできました。また、単位制専門高校としての特色を活かして、生徒一人ひとりが自らの興味や関心・適性に応じた多様な科目選択を行い、進路実現を図れるように取り組んでいます。 令和4年度からは、「商業」に関する2つの学科（総合ビジネス科、国際ビジネス科）に改編をおこない、引き続き生徒一人ひとりが多様な選択を行い、希望の進路実現を目指していきます。 ○ 総合ビジネス科は、商業科目が充実しており、情報（IT）に関する科目も豊富な学科です。1年次は商業や情報全般の基礎を身につけ、2年次からは自分の興味・関心や進路実現を考えて「簿記会計」「ビジネスマネジメント」「ビジネス情報」から一つの分野を選択し、専門性を伸ばすことができます。生徒は各種資格の取得に積極的に取り組み、それを進学や就職に活かします。 ○ 国際ビジネス科は商業や情報の基本的な科目に加え、英語にも力を入れている学科です。1～2年次で商業や情報全般の基礎を学ぶとともに、英語ではティームティーチングや少人数授業により英語活用能力（4技能5領域）を向上させ、社会で活かせる知識・技能を身につけることができます。英語科目が充実しており、生徒は商業と英語活用能力を伸ばしながら各種資格の取得に取り組み、それを進学や就職に活かします。 どちらの学科も、商業高校ならではの学習をつみあげ、仕事だけでなく日常生活にも役立つ知識や技術を育てることができます。また、学校行事や部活動といった諸活動と、資格や検定の取得、進路実現にむけた勉強を両立することで、社会で役立つ力の育成を見据えた学習をすすめています。

選抜において重視する要件
〔総合ビジネス科、国際ビジネス科共通〕 ○ 入学後も学習活動・部活動等に意欲的に取り組む者 ○ 進路実現に向けて、資格取得等に積極的に取り組む者 （総合ビジネス科） ○ 簿記やコンピュータ、経済等商業全般の学習、もしくは商業に加えてプログラミングやネットワーク等情報技術の学習に興味・関心がある者 （国際ビジネス科） ○ 簿記やコンピュータ、観光、地域活性化等商業に関する知識・技術の習得とともに、英語の学習や国際理解に興味・関心がある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
総合ビジネス科 国際ビジネス科	面 接	集団面接（1グループ20分程度） 志望動機、学科に関する興味・関心や理解、高校生活への意欲、目的意識等について応答する。
	作 文	60分・600～800字

学 科 名	選 抜 方 法	
総合ビジネス科 国際ビジネス科	1 選抜資料の取扱い	
	(1) 調 査 書 点数化する。	
	評定（第3学年の各教科の評定の合計）	4 5 点満点
	評定以外の記載事項	最高 1 0 点
	合 計	5 5 点
	(2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。	
	(3) 作 文 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。	

	2 選抜方法	
	次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	
(1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の80%以内であることと、面接と作文の評価がともにB段階以上であることの両方の条件を満たす者		
(2) 第2段階 調査書得点の順位が募集人数の100%以内であることと、面接と作文の評価がともにB段階以上であることの両方の条件を満たす者		
(3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者		

《飯南高等学校》

学 校 の 特 色
本校は、連携型中高一貫教育やキャリア教育のこれまでの様々な取組をととして、毎年着実に進化を続け、大きくレベルアップしてきました。生徒は、周りの人を思いやる優しい心と基礎・基本の学力をしっかりと身につけたうえで、各々の興味・関心、意欲をのばしていく探究的な学びを実践しています。このことは、本校教育の柱になっています。1年次は、「産業社会と人間」において、多くの体験学習を通じて自分自身を発見し、自己の生き方を模索しながら次年度に学ぶ学習内容を決め、系列を選択します。2年次は、選択した系列学習に取り組むとともに、「キャリアデザイン」等をととして進路についてじっくり考えます。3年次は、「いいなんゼミ」で3年間の集大成として各々が学習した内容を発表するとともに、進路実現につなげます。このように3年間の系統立ったキャリア教育をととして、自分が興味・関心のある学習に取り組みながら、「生きる力」を磨き、社会的に自立した人間を目指しています。 本校は、この学びによって社会に出た時に本当に役に立つ力をつけていく学校、一人でも多くの生徒が「飯南高校に来て良かった」と感じて卒業してもらう学校を目指しています。 このように本校では、生徒一人ひとりの成長を支援するとともに、一人ひとりが目標をもって学ぶことにより、活発な教育活動を展開しています。生徒も教職員も生き生きとし、地域からも必要とされる学校を目指しています。

選抜において重視する要件
(総合学科) ○ 総合学科の学習活動を主体的、積極的、継続的かつ誠実に行える者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
総合学科	面 接	個人面接（10分程度） 本校総合学科の学習に関する興味・関心、意欲等について応答する。
	作 文	50分・3題・200字程度

学 科 名	選 抜 方 法
総合学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第1～3学年の各教科の評定の合計 135点満点) (2) 面 接 次の3つの観点により評価する。(A、B、C、Dの4段階で評価する) ・ 本校を志望する動機、目的意識が明確か。 ・ 学科の内容についての理解ができているか。 ・ 面接態度(応答の的確さ、明瞭さなど)が良好であるか。 (3) 作 文 次の3つの観点により評価する。(A、B、C、Dの4段階で評価する) ・ 本校を志望する動機、目的意識が明確か。 ・ テーマに沿って適切に書かれているか。 ・ 表現・表記が適切であるか。
	2 選抜方法 (1)～(3)をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《相可高等学校》

学 校 の 特 色
普通科、生産経済科、環境創造科、食物調理科の4学科をもつ総合高校として、各学科の特色を生かしながら、「生徒の夢をかなえ、地域と共に歩む学校」を教育理念に、意欲と活力ある学校を目指しています。 普通科は、単位制を導入し、興味・関心、将来の進路希望に応じた多様な選択科目の中から学ぶことができます。また、課外指導、習熟度別授業などきめ細かい指導を行っています。従来のアドバンスクラスで培ったノウハウや指導を普通科2クラスに行い、国公立大学をはじめとした四年制大学や専門学校への進学、官公庁や一般企業への就職など、それぞれの進路に応じたカリキュラムにより、多様な進路希望の実現を図っています。 生産経済科では、動植物の「生産」に加え、それらを「福祉」や「環境保全」にも応用する「流通」や「経済」を学びます。また、人や環境に優しい産業人の育成を目指し、「園芸福祉」活動にも力を入れています。これらの学習を、地元企業との共同商品開発や大学との共同研究、地域の保育園や社会福祉施設等への訪問など、実践活動として行っています。総合実習と専攻実習では、「園芸」「松阪牛」「果樹」「作物」の4部門で専門的な知識・技術を学びます。 環境創造科は、生活の基盤を支える「まちづくり」と「国土保全」を基本にしながら、人々が自然と共存していくための循環型社会の形成を目標に、新たな環境を創造していくことができる技術者の養成を目指して、平成21年度に農業土木科から学科改編しました。「専門的な知識・技術を身につけ、進路保障につなげる」という教育目標を堅持しながら、国公立大学等への進学や、国家・地方公務員への就職を目指し、社会に貢献できる専門的人材の育成を行っています。また、資格取得を目標に学ぶことによって、『自ら学ぶ力』の育成を行っています。 食物調理科は、食のリーダーの育成を目指します。県内の高校で唯一、卒業と同時に調理師免許が取得できる「調理師コース」と、製菓・製パンを中心に学習し、希望者は製菓衛生師の資格を取得できる「製菓コース」があります。全国的にも注目されている研修施設「まごの店」「まごの店スイーツ」では、休業日を利用しながら調理・製菓から接客・販売に至る店の経営等について総合的・実践的に学んでいます。

選抜において重視する要件
(普通科) ○ 高い志を持ち、希望進路の実現に向けて意欲を持って持続的に学習に取り組む者 ○ 部活動や生徒会活動または地域との連携等に意欲的に取り組む意志のある者 (生産経済科) ○ 農業・環境・福祉に関して興味・関心、意欲があり、将来、就農を志す者または関連する分野への進学や就職を強く希望する者 ○ 各種検定や資格取得に意欲のある者 ○ 部活動や生徒会活動または地域との連携等に意欲的に取り組む意志のある者 (環境創造科) ○ 専門分野の学習に興味・関心、意欲があり、明確な進路希望をもち、その実現に向けて意欲的に学習に取り組む者 ○ 各種検定や資格取得に意欲のある者 ○ 部活動や生徒会活動または地域との連携等に意欲的に取り組む意志のある者 (食物調理科) ○ 食物に関する分野で、特に調理、製菓に興味・関心、意欲があり、高度な知識・技術を習得し、将来、食に関する分野への進路を強く希望する者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	個人面接（7分程度） 中学校生活、志望動機、進路希望や進路に対する意識、目的意識、学習や部活動等への意欲等について応答する。
	学力検査	国語
生産経済科	面 接	個人面接（7分程度） 生産経済科への志望動機、学習したい専門分野の内容、取得したい資格、将来の進路について応答する。また、農業・環境・福祉分野に関する興味・関心や基礎的な知識について応答する。
	作 文	45分・2題・各200字程度
環境創造科	面 接	個人面接（7分程度） 志望動機、将来像、中学校で培ったもの、資格取得等について応答する。
	学力検査	国語

《相可高等学校》

学 科 名	検 査	実 施 概 要
食物調理科	面 接	個人面接（7分程度） 食物調理科で学びたいことや、将来への夢について応答する。
	小 論 文	45分・400字程度 「食」に関連した内容について自分の考えを述べる。
	グループ 討議	グループに分かれて討議を行う。（1グループ40分程度） 食産業を担う職業人に求められるコミュニケーション力をみる。 ① 与えられた食に関する課題について、自分の意見を述べる。 ② 他の発表者の意見に対し、感想や意見を述べる。

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科 環境創造科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第1～3学年の各教科の評定の合計 135点満点) (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 学力検査 国語(50点満点)の得点をA、B、C、D、Eの5段階で評価する。 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の70%以内であることと、面接及び学力検査(国語)の評価が全てC段階以上であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 面接及び学力検査(国語)の評価が全てC段階以上である者のうち、調査書の記載事項において「選抜において重視する要件」に特に合致していると認められる者 (3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者
生産経済科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第1～3学年の各教科の評定の合計 135点満点) (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価する。 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の70%以内であることと、面接の評価がC段階以上及び作文の評価がB段階以上であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 面接の評価がC段階以上及び作文の評価がB段階以上である者のうち、調査書の記載事項において「選抜において重視する要件」に特に合致していると認められる者 (3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者
食物調理科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第1～3学年の各教科の評定の合計 135点満点) (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 小 論 文 A、B、Cの3段階で評価する。 (4) グループ討議 A、B、Cの3段階で評価する。 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の70%以内であることと、面接の評価がC段階以上、小論文及びグループ討議の評価がB段階以上であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 面接の評価がC段階以上、小論文及びグループ討議の評価がB段階以上である者のうち、調査書の記載事項において「選抜において重視する要件」に特に合致していると認められる者 (3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者

《昂学園高等学校》

学 校 の 特 色
○ 総合学科、全寮制などの特色を生かして次のような人材育成を目指しています。 ・ 卒業後に社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成 ・ 何事にも誠実にかつ意欲的に取り組むとともに、思いやりをもって人と接することができる人材の育成 ・ 地域との連携を深め、地域から信頼されるとともに地域から必要とされる人材の育成 ○ 本校は平成7年に設立された全国で唯一の全寮制総合学科高校です。（大台町、大紀町、多気町に在住の生徒は通学も可能です。） ○ 1年次は共通の科目を履修し、自分の適性や進路について考えます。2年次以降は「地域探究」「総合スポーツ」「美術工芸」「生活福祉」「環境技術」の5系列に分かれ、興味・関心のあることを学び、進路実現につなげます。 ○ 身近な地域を学習フィールドとし、グループ学習等を通して、自らの生き方を探究することができます。その他にも、小中学校への授業など、地域との交流が多くあります。 ○ 寮では規律ある集団生活のもとで生活を送ることができます。また、行事やサークル活動など生徒を中心とした自主的な活動が行われています。学校まで徒歩1～2分であるため、放課後は部活動や学習、趣味などに没頭できる時間が多く確保できます。 このような特色ある独自の教育システムと取組を通じて、生徒の自主性・自律性・協調性などを育みながら、個性と能力を伸ばす教育を行っています。

選抜において重視する要件 (総合学科) ○ 本校の学習に強く興味・関心をもち、主体的に学習に取り組める者 ○ スポーツ活動・文化活動・生徒会活動等に積極的に取り組める者 ○ 寮・学校において協調性をもち、規律正しい集団生活をしていける者
--

学 科 名	検 査	実 施 概 要
総合学科	面 接	個人面接（１５分程度） 志望理由、中学校の振り返り、高校生活への抱負、進路希望等についての応答する。
	作 文	４５分・６００字程度

学 科 名	選 抜 方 法
総合学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 評定（第1～3学年の各教科の評定を換算 4 5 点満点 評定以外の記載事項 最高10点 (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 作 文 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
	2 選抜方法 (1)～(3)をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《明野高等学校》

学 校 の 特 色
本校は、創立以来145年という長い歴史を有し、農業関係学科と家庭関係学科を中心に発展してきました。地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指し、また、社会の変化に対応できるグローバル人材の育成を目指しています。 特に、農業関係学科である生産科学科、食品科学科は、農業や関連産業に必要な知識・技術を身に付け、諸問題を合理的に解決する科学的な思考力を高め、様々な進路に対応できる学科となっています。生活教養科や福祉科も、それぞれの特色に合わせて充実した内容となっています。 本校では、広大な敷地と緑豊かな学習環境の中で、資格取得を目指して生徒たちが意欲的に学習や課題研究に取り組んでいます。 また、放課後の部活動に取り組む生徒や、農業クラブ・家庭クラブなどの活動を通して地域連携に励む生徒など、様々な分野に精力的に取り組み、明るく活気のある生徒がたくさんいます。

選抜において重視する要件
〔生産科学科、食品科学科、生活教養科、福祉科共通〕 ○ 学習内容に対して興味・関心を持ち、学習に意欲的・持続的に取り組める者 ○ 部活動や生徒会活動等に積極的に取り組める者 (生産科学科) ○ 動植物の飼育・栽培及び農業に関連した職業に興味・関心・意欲があり、資格取得に積極的に取り組むとともに、将来、その関連分野への進路を強く希望する者 (食品科学科) ○ 食品に関して安全・栄養・製造・流通・開発に興味・関心・意欲があり、資格取得に積極的に取り組むとともに、将来、その関連分野への進路を強く希望する者 (生活教養科) ○ 衣生活・食生活に関する学習に興味・関心・意欲があり、資格取得に積極的に取り組むとともに、将来、その関連分野への進路を強く希望する者 (福祉科) ○ 子ども・介護・障がい等の福祉分野に興味・関心・意欲があり、資格取得に積極的に取り組むとともに、将来、その関連分野への進路を強く希望する者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
生産科学科 食品科学科 生活教養科 福祉科	面 接	個人面接（10分程度） 志望動機、学科の内容、意欲・熱意について応答する。
	作 文	45分・550～650字

学 科 名	選 抜 方 法
生産科学科 食品科学科 生活教養科 福祉科	1 選抜資料の取扱い (1) 調査書 点数化する。（第1～3学年の各教科の評定の合計 135点満点） (2) 面接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 作文 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の80%以内であることと、面接と作文の評価がともにB段階以上であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 面接と作文の評価がともにB段階以上の者のうち、「選抜において重視する要件」に合致すると認められる者 (3) 第3段階 第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者

《宇治山田高等学校》

学 校 の 特 色
宇治山田高等学校は、旧制宇治山田中学校と宇治山田高等女学校を前身とする創立１２６年の伝統ある高校です。卒業生は３万人を超え、三重県内だけでなく、日本各地や世界中で活躍しています。この輝かしい歴史と伝統を大切にしながら、中学生や保護者及び地域の期待に応えるため、学校改革を大胆に実行し、新しい「山高」の歴史を創造していきます。本校が学校づくりを進めるにあたって、目標としているのは以下の３点です。 1 国公立大学をはじめとする進学希望を実現する学校であること 2 勉学と部活動の両面で充実感が得られる学校であること 3 自律した社会人として必要な知識や教養を習得し、人間力を高める学校であること

選抜において重視する要件
(普通科) ○ 中学校における各教科の学習成績が良好であり、国語、社会、数学、理科及び英語の５教科において特に高い能力を有する者 ○ 本校への明確な志望動機をもち、入学後は進路目標の達成やスポーツ・文化活動等に積極的に取り組む者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	学力検査	数学、英語

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 (第３学年の国語・社会・数学・理科・英語の５教科の評定の合計 ２５点満点) (2) 学力検査 １００点（数学５０点、英語５０点） 2 選抜方法 (1)と(2)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《宇治山田商業高等学校》

学 校 の 特 色
「部活動が盛ん」で「就職に強い」という山商の伝統は従来から変わっていません。卒業生は就職先からの高い評価をもらっています。 「進学にも強い」これが山商のもう一つの特色です。現在は70%を超える生徒が進学し、そのうち多くの生徒が国公立大学・難関私立大学を含む四年制大学に進んでいます。大学に進むほとんどの生徒は、山商で取得する簿記や情報、英語の検定資格を生かして学校推薦型選抜や総合型選抜で進学しています。 山商の生徒は、普段の授業を大切にしながら勉強と部活動を両立させながら、希望する進路を実現しています。そして、みんなが明るく挨拶を交わしあい、楽しく充実した高校生活を送ることができる学校です。

選抜において重視する要件
〔商業科、情報処理科、国際科共通〕 ○ 学習成績に優れ、入学後も高い学習意欲を維持できる者 ○ 探究活動に意欲的に取り組むことができる者 ○ 学科の特性を生かして大学進学・就職等の進路希望を実現しようとする者 ○ スポーツ・文化活動やボランティア活動または生徒会活動等に意欲をもって取り組む姿勢を有する者 (商業科) ○ 商業の学習に興味と関心を有する者 ○ 簿記をはじめとする各種検定の取得に取り組む意欲を有する者 (情報処理科) ○ コンピュータの学習に興味と関心を有する者 ○ 情報、簿記等の各種検定の取得に取り組む意欲を有する者 (国際科) ○ 英語学習への意欲にあふれ、強い興味を有する者 ○ 英語、簿記等の各種検定の取得に取り組む意欲を有する者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
商 業 科 情報処理科	面 接	集団面接（1グループ20分程度） 志望動機、期待する高校生活、中学校時代の活動状況等について応答する。
	学力検査	国語
国 際 科	面 接	集団面接（1グループ20分程度） 志望動機、期待する高校生活、中学校時代の活動状況等について応答する。
	学力検査	英語

学 科 名	選 抜 方 法	
商 業 科 情報処理科 国 際 科	1 選抜資料の取扱い	
	(1) 調 査 書 点数化する。	
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	70点満点
	スポーツ・文化活動の実績等、資格等	最高20点
	合 計	90点
	(2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。	
	(3) 学力検査 50点	
	2 選抜方法	
	次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	
(1) 第1段階	面接の評価がC段階以上である者のうち、調査書得点の順位が募集人数のおよそ100%以内であることと、学力検査得点の順位が募集人数のおよそ80%以内であることの両方の条件を満たす者	
(2) 第2段階	面接の評価がC段階以上である者のうち、調査書得点の順位が募集人数のおよそ100%以内であることと、学力検査得点の順位が募集人数のおよそ90%以内であることの両方の条件を満たす者	
(3) 第3段階	第1段階及び第2段階で合格となった者を除く全ての受検者	

《伊勢工業高等学校》

学 校 の 特 色
南勢地区唯一の施設・設備の整った工業専門高校として、「人づくり」と「ものづくり」をキーワードとし、基本的な生活習慣を身につけた社会常識のある明るく素直で積極的な生徒の育成と、産業界から求められる確かな技術・技能を修得するため、意欲的に励む生徒の育成を目標としています。 実験・実習においては10人で1班の少人数指導を実施しています。また、2年次からは進学コースと専門コースに分かれて学習するコース制を導入し、さらに各種資格取得のための個別指導を行い、個人の特性を伸ばす工夫をしています。部活動も盛んで、毎年全国大会に出場するなど、各種大会に参加して好成績を収めています。

選抜において重視する要件
〔機械科、電気科、建築科共通〕 ○ 学習活動に意欲的である者 ○ スポーツ等において優れた実績や能力があり、入学後も意欲的に取り組むことができる者 ○ 生徒会活動や学級活動またはボランティア活動などに積極的に取り組むことができる者 ○ 志望動機が明確で、目的意識をもった者 ○ 基本的な生活習慣が身についている者 ○ 将来の夢に向けて、チャレンジする向上心がある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
機 械 科 電 気 科 建 築 科	面 接	個人面接（5～7分程度） 志願学科に対する興味・関心、意欲、目的意識等について応答する。
	作 文	50分・1項目のテーマに対し、550～600字

学 科 名	選 抜 方 法
機 械 科 電 気 科 建 築 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第1～3学年の各教科の評定の合計 135点満点） (2) 面 接 次の項目について、A、B、Cの3段階で評価する。 志望動機、適性と興味・関心、学習意欲、リーダー的素質、態度等 (3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価する。
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書得点の順位が募集人数の60%以内であることと、面接と作文の評価がともにB段階以上であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 調査書得点の順位が募集人数の100%以内であることと、面接と作文の評価がともにB段階以上であることのいずれかの条件を満たす者のうち、調査書の記載事項においてスポーツ・文化活動等の実績が顕著であると認められる者 (3) 第3段階 第1段階及び第2段階において合格となった者を除く全ての受検者

《南伊勢高等学校》

学 校 の 特 色
南伊勢高等学校は、「自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校」をめざしており、「育みたい生徒像」として、 ○ 自立に向け、基本的生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○ 自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○ 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒 の3点を掲げています。 このような生徒を育成するため、小規模校であるという特性を活かして、一人ひとりの能力や個性に応じたきめ細やかな教育を行うこと大切にしています。また、恵まれた自然環境の中ならではの学習活動や、地域の方々や関係機関の支援をいただきながら、地域について学び、地域と連携し、支え合う取組を大切にしています。 こうした学びを通じて、生徒たちは、大学・短大への進学や公務員試験合格、あるいは各種企業への就職をめざし、日々努力しています。

選抜において重視する要件
(普通科) ○ 目的意識を明確にもち、自己実現に向けて意欲的に取り組む者 ○ 体験学習など、地域に根ざした教育活動に積極的に取り組む意欲のある者 ○ スポーツ・文化活動やボランティア活動または生徒会活動等に積極的に取り組む意欲のある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	個人面接（10分程度） 中学校での活動、「選抜において重視する要件」に係る目的意識や意欲等について応答する。
	作 文	45分・500～600字

学 科 名	選 抜 方 法	
普 通 科	1 選抜資料の取扱い	
	(1) 調 査 書 点数化する。	
	評定（第1～3学年の各教科の評定の合計）	1 3 5 点満点
	評定以外の記載事項	最高 1 5 点
	合 計	1 5 0 点
	(2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。	
	(3) 作 文 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。	
	2 選抜方法	
	(1)の点数と面接及び作文の評価をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項等を考慮して総合的に選抜する。	

《鳥羽高等学校》

学 校 の 特 色
「総合学科」には、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視します。また、生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや達成感を体験させる学習が用意されています。 本校では、2年次から下記の3つの系列に分かれ、一人ひとりの将来の自己実現を図ります。 ◇「観光ビジネス系列」は、観光に関わるビジネスの基礎を学び、学んだことを地域の中で実践します。また、卒業後に即戦力として活躍できるビジネスマナーの知識や技術を身につけます。 ◇「総合福祉系列」は、相手の立場に立って考え行動できる「福祉の心」を身につけるとともに、介護職員初任者研修の資格取得を目指します。 ◇「人文教養系列」は、地域の活性化や社会に貢献する人材を育成するため、地域をフィールドとした交流や体験学習を通じて、文系教科の学びを深めます。また、大学等への進学や公務員試験等の合格を目指します。 系列とは、進路に結びつけた学習メニューであり、それぞれの系列には、目標と適性に合わせた選択科目があります。

選抜において重視する要件
(総合学科) ○ 総合学科の学習内容に興味・関心があり、意欲を持って学習に取り組める者 ○ 部活動またはボランティア活動等について、積極的に活動する意欲のある者 ○ 規範意識や基本的生活習慣が身につけており、学校生活に積極的に取り組める者 ○ 将来、地域社会で活躍し、地域に貢献しようとする意欲のある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
総合学科	面 接	個人面接（10分程度） 自己PRを含めた志望動機、中学校生活の振り返り、高校生活への抱負、将来の希望等について応答する。
	作 文	50分・2題・各250字以内

学 科 名	選 抜 方 法
総合学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 以下の点に留意して、A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 ・ 面接時の態度 ・ 自己PR、志望動機、本校への関心・意欲、将来への目標等 (3) 作 文 以下の点に留意して、A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 ・ テーマとの整合性 ・ 述べられている内容・主張 ・ 文章の表現 ・ 表現の的確さ・明瞭さ 2 選抜方法 (1)の点数と面接及び作文の評価をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《志摩高等学校》

学 校 の 特 色
本校は生徒のほとんどが志摩市内の中学校出身であり、将来の志摩市を担う人材の育成のため、総合的な探究の時間「志摩学」を中心に、地域に根ざした教育活動を展開しています。また、振り返り学習の取組やＩＣＴを活用したわかりやすい授業づくりの取組等により、生徒は確かな学力を身につけながら、充実した高校生活を送っています。 生徒の進路希望が多様であることから、四年制大学等への進学をめざす類型や、社会で必要とされる基礎学力やスキルの修得をめざす教養類型を設置し、各類型の特色を活かしたきめ細かい指導により、生徒の希望実現につなげています。 また、学校行事等においては、学校、保護者、地域が一体となり、生徒一人ひとりを大切にする教育を行っています。

選抜において重視する要件
(普通科) ○ 目的を持って学習する意欲のある者 ○ 興味関心を持った課題について探究しようとする者 ○ 基本的な生活習慣と思いやりの心が身についた者

学科・コース名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	個人面接（１０分程度） 志望動機、中学時代の活動及び高校生活への関心・意欲について応答する。
	作 文	４０分・４００字程度

学科・コース名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第１～３学年の各教科の評定の合計 １３５点満点) (2) 面 接 A、B、C、D、Eの５段階で評価する。 (3) 作 文 A、B、C、D、Eの５段階で評価する。
	2 選抜方法 (1) 調査書の点数と(2)面接の評価及び(3)作文の評価をもとに調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《水産高等学校》

学 校 の 特 色	
創立123年の歴史を誇る水産高校は、伊勢志摩国立公園の一部である英虞湾に面し、大小60の島々と美しいリアス海岸の絶景に囲まれた環境にあります。	
海洋・機関科 ○ 海洋コース 船舶の操縦技術を習得し、航海士を目指します。さらに、漁業やマリンスポーツを通じて、海洋活動の幅広い知識と実践力を養います。 ○ 機関コース・水産工学コース 船の機関士としての専門知識に加え、工学・水産・商業など多分野にわたる学習を通じて、産業界で求められる技術を身につけます。	
水産資源科 ○ アクアフードコース 水産物の加工・製造技術を学び、「食」に関する幅広い知識を習得します。持続可能な水産業を支える人材を育成します。 ○ アクアデザインコース 海洋生物の生産や飼育に関する知識を学び、養殖・加工技術を習得します。さらに、アクアリウムの設計を通じて海洋環境への理解も深めます。	
卒業後は、ほとんどの生徒が、在学中に習得した知識・技術や取得した資格を活かし、希望する進路を実現しています。さらなる専門性を求め、水産・海洋系の大学や専門学校へ進学する生徒もいます。また、水産高校には専攻科も設置されています。専攻科では、航海実習や工場実習を通じて上級海技士資格の取得を目指すことが可能です。	

選抜において重視する要件	
〔海洋・機関科、水産資源科共通〕 ○ 水産学科の内容に対して理解があり、本校への明確な志願理由をもつ者 ○ 他人を思いやる心と社会性をもち、校内外の自発的な活動に継続して取り組む意欲のある者 ○ 将来水産関連大学等への進学を志す者 ○ 学習に関連する様々な資格や検定を積極的に取得する意欲のある者	
(海洋・機関科) ○ 船舶の運航や漁業に興味・関心があり、学校生活を意欲的に過ごせる者 ○ マリンスポーツなど広く海洋に関することに興味・関心があり、学校生活を意欲的に過ごせる者 ○ エンジンの運転操作や機械の構造に興味・関心があり、学校生活を意欲的に過ごせる者	
(水産資源科) ○ 水産物の調理や加工、食品製造、食品衛生、商品の流通等に興味・関心があり、学校生活を意欲的に過ごせる者 ○ 海洋生物、海洋環境、魚類養殖・アクアリウム、真珠養殖等に興味・関心があり、学校生活を意欲的に過ごせる者 ○ 将来、水産増殖関連等の分野で活躍するために日常の学習に取り組める者	

学 科 名	検 査	実 施 概 要
海洋・機関科 水産資源科	面 接	個人面接（5～10分） 志望動機等について応答する。
	作 文	40分・400字程度

学 科 名	選 抜 方 法
海洋・機関科 水産資源科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第1～3学年の各教科の評定の合計 135点満点） (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 作 文 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
	2 選抜方法 (1)調査書の点数、(2)面接の評価、(3)作文の評価をもとに、「調査書」および「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《尾鷲高等学校》

学 校 の 特 色	
本校は、生徒がさまざまなことに興味をもち、自ら学ぼうとする「主体性」、自分自身が興味をもったことを突き詰める「探究力」、他者とのつながりを大切に、他者から学び、互いを認め合う「寛容さ」、「主体性」「探究力」「寛容さ」を支える「健やかな心身」をはぐくみ、「未来を切り拓く、しなやかな人間力を備えた鷲高人の育成」に取り組む学校です。地域に唯一の高等学校として、進学にも就職にも対応できる、地域から信頼され愛され、選ばれる学校を目指しています。	
(普通科) 主に大学(四年制大学、短大等)の文系学部への進学を目指す学科です。 習熟度に応じて学力を伸ばす授業を実施することで、希望進路の実現をはかります。	
(普通科・プログレッシブコース) 国公立大学や難関私立大学の各学部(文系・理系)及びその他の大学の理系学部への合格を目指すコースです。 目標達成や実力アップのために、 ① 授業の進度を早めることで早期から受験に備えることができます。 ② 全国模試による実力診断で自分の学習ペースが把握できます。 ③ 週2回の7限授業や補習などで生徒の学習をフォロー、バックアップします。	
(情報ビジネス科) 「ビジネス社会に即応できるスペシャリスト」を目指した商業に関する専門学科です。 豊富な実習を交え、簿記やコンピュータ等のビジネスに関する専門科目を学習することで、「働くための力」が身につきます。ビジネス関係・商業系の資格・検定に1年次から挑戦でき、取得した資格等を自らの進路希望実現に向けて活かすことができます。	
(システム工学科) 「ものづくりのスペシャリスト」を目指した工業に関する専門学科です。 実習形式の授業も豊富で、「働くための力」が身につきます。工業系の資格・検定に1年次から挑戦できます。学科の専門性を活かして、それぞれの希望進路実現に向けた学びができます。	

選抜において重視する要件	
(普通科) ○ 大学等への進学を希望し、普通科の教科に興味・関心をもって意欲的に取り組める者	
(普通科・プログレッシブコース) ○ 国公立大学・難関私立大学への進学を希望し、普通科の教科に興味・関心をもって意欲的に取り組める者	
(情報ビジネス科) ○ コンピュータ、ワープロ、簿記等のビジネスに関する学習に興味・関心があり、検定資格取得に意欲的に取り組める者 ○ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組む意欲を有する者	
(システム工学科) ○ 工業学科の学習に興味・関心があり、工業関係の資格取得に意欲的に取り組める者 ○ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組む意欲を有する者	

学科・コース名	検 査	実 施 概 要
普 通 科 普通科・ プログレッシブ コース	面 接	集団面接(1グループ15分程度) 志望動機、入学後や将来の目標等について応答する。
情報ビジネス科 システム工学科	学力検査	数学、英語

《尾鷲高等学校》

学科・ コース名	選 抜 方 法
普 通 科 普通科・ プログレッシブ コース	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の各教科の評定の合計 45点満点) (2) 面 接 次の4つの項目を中心に評価し、A、B、Cで評価する。 ・ 本校、本学科を志望する動機、目的意識 ・ 学科の内容についての理解 ・ 高校生活への意欲 ・ 面接態度(応答の的確さ、明瞭さなど) (3) 学力検査 100点(数学50点、英語50点) 2 選抜方法 (1)～(3)をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。
情報ビジネス科 システム工学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の各教科の評定の合計を2倍 90点満点) (2) 面 接 次の4つの項目を中心に評価し、A、B、Cで評価する。 ・ 本校、本学科を志望する動機、目的意識 ・ 学科の内容についての理解 ・ 高校生活への意欲 ・ 面接態度(応答の的確さ、明瞭さなど) (3) 学力検査 100点(数学50点、英語50点) 2 選抜方法 (1)～(3)をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《熊野青藍高等学校》

学 校 の 特 色
持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って幸福を実現する人材を地域とともに育てます。 (普通科) ○ 入学時から2つのコースに分かれ、国語・数学・英語等の共通科目を中心として、確かな学力などの「夢をかなえる力」を育成します。 ○ 「特進コース」では、早期から発展的な学習に取り組み、主体的に学ぶ力を育成しながら国公立大学や難関私立大学を目指します。 ○ 「普通コース」では、幅広い学びで自己のキャリアを形成し、大学・短大・専門学校・公務員・就職等、幅広い進路希望の実現を目指します。 (総合学科) ○ 複数の選択科目の中から、自らの興味・関心や進路希望に応じて選択して学び、進学から就職まで幅広い進路希望の実現を目指します。 ○ 本本校舎には、国語・数学・英語等の共通教科やスポーツ・芸術系科目等から幅広く選択する「リベラルアーツ系列」と、パソコン・会計系の資格取得等につながる実社会で役立つ科目を選択する「情報ビジネス系列」があります。 ○ 紀南校舎には、地域創造・文系科目や共通選択科目等から幅広く選択する「地域デザイン系列」と、ビジネス・福祉系の科目等、地域産業に関わる科目を選択する「産業マイスター系列」があります。

選抜において重視する要件
(総合学科) ○ 志望動機が明確で、高校生活にしっかりとした目標・目的意識をもった者 ○ 学習活動や資格取得に積極的に取り組む者 ○ スポーツ活動や文化活動、生徒会活動、ボランティア活動または地域に密着した活動等に意欲的に取り組む者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
総合学科	面 接	個人面接（10分程度） 本校の「選抜において重視する要件」に関することを中心に応答する。
	学力検査	国語

学 科 名	選 抜 方 法
総合学科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 評定（第3学年の各教科の評定の合計） 4 5 点満点 評定以外の記載事項 最高 1 0 点 合 計 5 5 点 (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 学力検査 5 0 点（国語）
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 面接の評価がC段階以上である者のうち、調査書得点の順位が募集人数の1 0 0 %以内であることと、学力検査得点の順位が募集人数の8 0 %以内であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者

定時制課程

《四日市工業高等学校》

学 校 の 特 色
機械交通工学科（定員４０人）、住システム工学科（定員４０人）の２学科で、それぞれ学科別に募集します。１年次は普通教科と工業に関する基礎に重点を置いて学習します。２年次から、機械交通工学科では「機械コース」・「自動車コース」、住システム工学科では「電気コース」・「建築コース」の中から自分に適したコースを選択し、各コースに分かれて専門的な学習をします。どの学科・コースにおいても工業に関する各種の資格取得が可能です。

選抜において重視する要件
〔機械交通工学科、住システム工学科共通〕 ○ 定時制工業高等学校で学習することに強い意欲を有し、目的意識が明確かつ学校生活を適正に行える者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
機械交通 工学科	面 接	個人面接（１５～２０分程度） 工業に関する興味・関心、意欲等について応答する。
住システム 工学科	実技検査	１０分程度 中学校技術・家庭（技術分野）に係る知識と技能を問う作業

学 科 名	選 抜 方 法
機械交通 工学科 住システム 工学科	１ 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第１～３学年の各教科の評定の合計 １３５点満点） (2) 面 接 Ａ、Ｂ、Ｃの３段階で評価する。 (3) 実技検査 Ａ、Ｂ、Ｃの３段階で評価する。 ２ 選抜方法 (1)～(3)のうち、特に(2)の結果を重視し、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《北星高等学校》

学 校 の 特 色
学校として弾力的なカリキュラムを設定し、生徒一人ひとりの持ち味を生かした「あなたならではの学び」をつくりだせるように支援します。 また、社会に出て自立できる力を身につけられるように支援します。 ○ 単位制・三修制 学年制ではないので、必修科目を含めて74単位以上の履修・修得で卒業できます。他部履修や通信制科目の併修により、3年間での卒業が可能です。 ○ 昼間部（午前部、午後部）、夜間部の三部制 午前部、午後部、夜間部のいずれかに所属して授業を受けます。 ○ 総合選択制 定時制には、普通科と情報ビジネス科がありますが、両学科の科目を履修することができます。情報ビジネス科の指定された科目を履修、修得できた場合は、情報ビジネス科の卒業となります。 ○ 特徴のある科目 基礎学習のできるステップ科目や、ライフマナー、星座とギリシャ神話などの学校設定科目により、学びたい気持ちを大切に育てます。

選抜において重視する要件
〔普通科（昼間部）、情報ビジネス科（昼間部）、普通科（夜間部）共通〕 ○ 夢の実現をめざし、本校の特色をよく理解し、本校で学び成長する意欲がある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科 （昼間部） 情報ビジネス科 （昼間部） 普 通 科 （夜間部）	自己表現	自己表現（2分）＋個人面接（5分程度） 「自己表現」は、事前課題に基づき、各自が準備した内容を発表する。ただし、準備物等の持ち込みは不可とする。

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科 （昼間部） 情報ビジネス科 （昼間部） 普 通 科 （夜間部）	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化せず、選抜において資料とする。 (2) 自己表現 次の①、②の点数を合計する。 ① 自己表現の部分は、次の5つの項目について評価し、点数化する。(60点満点) ・ 課題との整合性 ・ 表現力（発表時間を含む。） ・ 具体性 ・ 意欲 ・ 独創性 ② 個人面接の部分は、次の4つの項目について評価し、点数化する。(90点満点) ・ 本校（定時制課程）についての理解 ・ 志望の動機、目的意識 ・ 高校生活に対する意欲・向上心 ・ 面接態度 2 選抜方法 (2)の自己表現による点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載内容を考慮して総合的に選抜する。

《飯野高等学校》

学 校 の 特 色	
充実した多文化共生教育やキャリア教育等をととして、多様な学習ニーズを有する生徒たちが、自信と誇りをもって社会で生きる力を養成します。また、生徒たちが将来、社会の構成員として生活し、これからの新しい社会を創造していく力を育みます。	
○ 複合型定時制システム	夜間定時制課程ですが、生徒の生活状況に合わせた履修ができるようにⅠ部（15:50～19:25）、Ⅱ部（17:35～21:10）の学習時間帯を設置しています。
○ 全日制・定時制相互履修	全日制・定時制双方に共通する学習ニーズに対応するため、定時制生徒は全日制5・6限設置の学校設定科目を、全日制生徒は定時制1・2限設置の学校設定科目を履修することができます。
○ 単位制	生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等に応じた自由な科目選択が可能です。
○ 二学期制	9月卒業が可能なように学期毎の単位認定を行います。
○ 三年修業制	北星高校の通信制課程の科目を履修することなど多様な学びの形態を取り入れることにより、3年間で卒業も可能にします。
○ 少人数の学級編成	各学年を少人数に分割して学級編成を行います。

選抜において重視する要件
（普通科） ○ 本校の特色をよく理解し、目的意識が明確で学習意欲があり、かつ学校生活を適正に行うことのできる者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	面 接	個人面接（10分程度） 志望動機、意欲・関心等について応答する。
	作 文	45分・800字以内

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化せず、選抜において資料とする。 (2) 面 接 次の4つの項目について評価し、点数化する。（65点満点） ・ 本校（定時制課程）についての理解 ・ 志望動機、目的意識 ・ 学習に対する関心・意欲 ・ 面接態度 (3) 作 文 次の2つの項目について評価し、点数化する。（35点満点） ・ 述べられている内容 ・ 表現（字数、漢字等の表記）の的確さ、明瞭さ
	2 選抜方法 (2)と(3)の合計点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《みえ夢学園高等学校》

学 校 の 特 色	
自分を見つめ、夢の実現に向けてチャレンジできる生徒が育つ学校	
1	普通科と専門学科の内容を併せもつ総合学科です。
2	自分の学びたい科目を選択し、自分独自の時間割を作成して学習できる単位制の学校です。
3	個性を生かした少人数教育を重視しています。
4	生徒は、午前の部・午後の部・夜間部のどれかの部に所属します。
5	授業は、午前の部・午後の部・夜間部とも各4時間です。
6	他の部の授業をあわせて履修することにより、3年間で卒業することもできます。
7	午前の部・午後の部・夜間部に、それぞれ特色ある3つの系列があります。

選抜において重視する要件
(総合学科) ○ 総合学科の教育内容に対して強い興味・関心をもち、しっかりとした目標・目的意識をもって積極的に学ぼうとする意志のある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
総合学科 (午前の部) (午後の部) (夜間部)	面 接	個人面接(15分程度) 志望動機、将来の目標等について応答する。
	作 文	45分・600字程度
	総合問題	45分(国語・社会・数学・理科・英語の各分野から総合的に出題する。)

学 科 名	選 抜 方 法
総合学科 (午前の部) (午後の部) (夜間部)	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第1～3学年の各教科の評定を換算 20点満点) (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 作 文 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (4) 総合問題 30点
	2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 面接と作文の評価がともにB段階以上である者のうち、調査書得点の順位が募集人数の100%以内であることと、総合問題得点の順位が募集人数の100%以内であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 面接と作文の評価がともにB段階以上である者のうち、調査書得点の順位が募集人数の100%以内であることと、総合問題得点の順位が募集人数の100%以内であることのいずれかの条件を満たす者 (3) 第3段階 面接と作文の評価がともにC段階以上である者のうち、調査書得点の順位が募集人数の30%以内であることと、総合問題得点の順位が募集人数の30%以内であることの両方の条件を満たす者 (4) 第4段階 第1段階、第2段階及び第3段階で合格となった者を除く全ての受検者

《伊勢まなび高等学校》

学 校 の 特 色	
○ 三部制	午前の部・午後の部・夜間部のいずれかの部に所属し、1日4限の授業を受けることを基本とします。
○ 三修制	自分の所属する部の授業以外に他の部の授業を受けることにより、3年間で卒業の資格を得ることが可能です。
○ 単位制	各科目の履修条件に従って選択受講し、必修科目と選択科目を併せて74単位以上修得すれば卒業することができます。
○ 多様な選択科目	伊勢まなび高校独自の学校設定科目などを含め、多くの選択科目を設けています。午前の部・午後の部は普通科ですが、ものづくり工学科の授業（午後の部・夜間部で開講）を選択することもできます。
○ 学校外の学修の単位認定	高等学校卒業程度認定試験合格や実務代替、技能審査に関する学修などを、卒業に必要な単位数に加えることができます。

選抜において重視する要件
〔普通科（午前の部・午後の部）、ものづくり工学科（夜間部）共通〕 ○ 目的意識が明確で、学習意欲があり、自主性を有し、かつ本校での学校生活を適正に行える者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科 （午前の部） （午後の部）	面 接	個人面接（15分程度） 志望の動機、目的意識、意欲・関心等について応答する。
ものづくり 工学科 （夜間部）	作 文	45分・400字以内

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科 (午前の部) (午後の部) ものづくり 工学科 (夜間部)	1 選抜資料の取扱い
	(1) 調 査 書 点数化する。
	評定 (第1～3学年の各教科の評定を換算) 30点満点
	特別活動の実績 最高 10点
	合 計 40点
	(2) 面 接 次の3つの項目について評価し、点数化する。(45点満点)
	・ 興味・関心・理解 (志望動機など)
	・ 意欲 (積極性など)
	・ 態度 (言葉遣いなど)
	(3) 作 文 次の3つの項目について評価し、点数化する。(30点満点)
・ 述べられている内容	
・ 表現 (漢字等の表記) の的確さ、明瞭さ	
・ 文章の構成	
2 選抜方法	
(1)～(3)の合計点数をもとに、調査書、「自己推薦書」の記載を考慮して総合的に選抜する。	

通信制課程

《北星高等学校》

学 校 の 特 色
学校として弾力的なカリキュラムを設定し、生徒一人ひとりの持ち味を生かした「あなたならではの学び」をつくりだせるように支援します。 また、社会に出て自立できる力を身につけられるように支援します。 ○ 面接指導（スクーリング） 日曜・木曜コースが設定されています。事情により自分のコースに出席できないときは、別のコースへ出席することもできます。また、火曜日は誰でも出席することが可能です。 ○ 単位制・三修制 選択科目は自由に選んで学習することができます。学年はありません。必履修科目も含めて74単位以上修得すれば、3年間で卒業も可能です。 ○ 特徴ある科目 「韓国語」など、多様な学校設定科目を選択科目として選べます。

選抜において重視する要件
（普通科） ○ 夢の実現をめざし、通信制の特色をよく理解し、本校で学び成長する意欲がある者

学 科 名	検 査	実 施 概 要
普 通 科	自己表現	自己表現（2分）＋個人面接（5分程度） 「自己表現」は、事前課題に基づき、各自が準備した内容を発表する。ただし、準備物等の持ち込みは不可とする。

学 科 名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化せず、選抜において資料とする。 (2) 自己表現 次の①、②の点数を合計する。 ① 自己表現の部分は、次の5つの項目について評価し、点数化する。（60点満点） ・ 課題との整合性 ・ 表現力（発表時間を含む） ・ 具体性 ・ 意欲 ・ 独創性 ② 個人面接の部分は、次の4つの項目について評価し、点数化する。（90点満点） ・ 本校（通信制課程）についての理解 ・ 志望の動機、目的意識 ・ 高校生活に対する意欲・向上心 ・ 面接態度 2 選抜方法 (2)の自己表現による点数をもとに、調査書及び「自己推薦書」の記載内容を考慮して総合的に選抜する。

〈別表 3〉

令和 8 年度三重県立高等学校入学者選抜における後期選抜の選抜方法の(1)において、調査書の「各教科の学習の記録」等により選ぶ人数を募集定員の 110 %又は 120%に設定する高等学校、学科・コースの一覧

※ 「令和 8 年度三重県立高等学校入学者選抜実施方針」における、後期選抜の選抜方法の(1)では、「調査書の第 3 学年における『各教科の学習の記録』及び『特別活動の記録』等により、およそ募集定員に当たる数の者を選ぶ」としているが、次の高等学校、学科・コースについては、学力検査結果を重視して選抜する趣旨から、選抜方法の(2)において学力検査等により選ばれた者が、選抜方法の(3)において多く合格者となるように、調査書の「各教科の学習の記録」等により選ぶ人数を募集定員の 110%又は 120%に設定する。

後期選抜の選抜方法の(1)において調査書の「各教科の学習の記録」等により選ぶ人数	高等学校名 (全日制課程)	学科・コース名
募集定員の 110 %	桑名	普通科
	四日市南	普通科
	川越	探究科
	神戸	普通科
	津西	普通科
	松阪	普通科
募集定員の 120 %	桑名	理数科
	四日市	普通科・国際科学コース
	四日市南	普通科・数理科学コース
	四日市西	普通科・比較文化・歴史コース
		普通科・数理情報コース
	川越	国際探究科
	神戸	理数科
	津西	国際科学科
	上野	理数科
	名張青峰	普通科・文理探究コース
	松阪	理数科
	伊勢	普通科・国際科学コース

〈別表４〉

令和８年度三重県立高等学校入学者選抜における各高等学校別後期選抜の選抜資料
及び選抜方法の最終段階における「特に重視する選抜資料等」一覧

全日制課程

※ 表中の「最終段階」とは、後期選抜の選抜方法の（５）の段階を示す。

※ 表中の○印は、選抜資料に該当するもので、◎印が「特に重視する選抜資料」を示す。

高等学校名	学科・コース名	選抜方法の最終段階における「特に重視する選抜資料等」					選抜方法の最終段階における 「特に重視する選抜資料等」の補足内容
		学力 検査の 結果	調査書 の 内容	面接の 状況	作文の 結果	実技 検査の 結果	
桑名	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
	理数科	◎	○				
桑名西	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果及び調査書の内容の「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」を考慮して決定する。
桑名北	普通科	○	○	◎			最終段階では、面接における目的意識、意欲、適性等についての評価を重視しつつ、学力検査の結果、調査書の内容を考慮して選抜する。
桑名工業	機械科	○	◎	○			最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果を踏まえ、調査書の内容と面接の状況を考慮して決定する。
	材料技術科						
	電気科	○	◎	○			
	電子科						
いなべ総合学園	総合学科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
四日市	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
	普通科・国際科学コース	◎	○				
四日市南	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
	普通科・数理科学コース	◎	○				
四日市西	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容の「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」を考慮して決定する。
	普通科・比較文化・歴史コース	◎	○				
	普通科・数理情報コース						
朝明	普通科	○	○	◎			最終段階では、面接における目的意識、意欲、適性等の評価結果を重視しつつ、学力検査の結果、調査書の内容を考慮して決定する。
	ふくし科	○	○	◎			
四日市四郷	普通科	○	◎	○			最終段階では、調査書の内容の、特に「各教科の学習の記録」「特別活動の記録及び行動の記録」「その他参考となる諸事項」を重視し、面接の状況を考慮して選抜する。
四日市工業	機械科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して選抜する。調査書の内容は、「各教科の学習の記録」「特別活動の記録及び行動の記録」を重視する。
	電子機械科	◎	○				
	電気科	◎	○				
	電子工学科	◎	○				
	建築科	◎	○				
	物質工学科	◎	○				
	自動車科	◎	○				

※ 表中の「最終段階」とは、後期選抜の選抜方法の（５）の段階を示す。

※ 表中の○印は、選抜資料に該当するもので、◎印が「特に重視する選抜資料」を示す。

高等学校名	学科・コース名	選抜方法の最終段階における「特に重視する選抜資料等」					選抜方法の最終段階における 「特に重視する選抜資料等」の補足内容
		学力 検査の 結果	調査書 の 内容	面接の 状況	作文の 結果	実技 検査の 結果	
四日市中央工業	機械科	○	○	◎			最終段階では、面接における目的意識、意欲、適性等の評価結果を重視して選抜する。
	電気科	○	○	◎			
	化学工学科	○	○	◎			
	都市工学科	○	○	◎			
	設備システム科	○	○	◎			
四日市商業	商業科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容の「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」を考慮して決定する。
	情報マネジメント科	◎	○				
四日市農芸	農業科学科	くくり 募集	○	◎			最終段階では、面接の内容を重視し、調査書の内容の特に「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」を考慮して選抜する。
	食品科学科						
	環境造園科						
	生活文化科						
菰野	普通科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者のうち、面接における目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、学力検査の結果、調査書の内容を考慮して優先的に選抜する。
川越	探究科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
	国際探究科	◎	○				
神戸	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
	理数科	◎	○				
飯野	英語コミュニケーション科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
白子	普通科	○	◎	○			最終段階で決定する合格者は、学力検査、調査書の内容の「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」、面接による目的意識、意欲、適性等の評価結果を考慮して選抜する。
	生活創造科	○	◎	○			
石薬師	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容の、特に「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」を考慮して選抜する。
稲生	普通科	○	◎	○			最終段階で決定する合格者は、調査書の内容を重視し、学力検査の結果と面接の状況を考慮して決定する。
亀山	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
	システムメディア科	◎	○				
	総合生活科	◎	○				

※ 表中の「最終段階」とは、後期選抜の選抜方法の（５）の段階を示す。

※ 表中の○印は、選抜資料に該当するもので、◎印が「特に重視する選抜資料」を示す。

高等学校名	学科・コース名	選抜方法の最終段階における「特に重視する選抜資料等」					選抜方法の最終段階における 「特に重視する選抜資料等」の補足内容
		学力 検査の 結果	調査書 の 内容	面接の 状況	作文の 結果	実技 検査の 結果	
津	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
津西	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
	国際科学科	◎	○				
津商業	ビジネス科	◎	○				最終段階では、学力検査の結果の上位の者から、調査書の内容の、特に「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」を考慮して選抜する。
	情報システム科	◎	○				
津東	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
津工業	機械科	◎	○	○			最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容の、特に「各教科の学習の記録」「特別活動の記録及び行動の記録」「その他参考となる諸事項」と面接の状況を考慮して決定する。
	電気科	◎	○	○			
	電子科	◎	○	○			
	建設工学科	◎	○	○			
久居	普通科	○	◎				最終段階では、調査書の内容の、特に「各教科の学習の記録」「特別活動の記録及び行動の記録」「その他参考となる諸事項」を重視して選抜する。
久居農林	生物生産科	くくり 募集	○	○	◎		最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
	生物資源科						
	環境情報科	くくり 募集	○	○	◎		
	環境土木科						
	生活デザイン科	○	○	◎			
白山	普通科	○	○	◎			最終段階では、面接における目的意識、意欲、適性等についての評価を重視し、調査書の内容を考慮して選抜する。
	情報コミュニケーション科	○	○	◎			
上野	学際探究科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から調査書の内容を考慮して決定する。
	理数科	◎	○				
あけぼの学園	総合学科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
伊賀白鳳	機械科	くくり 募集	○	○	◎		最終段階では、面接における目的意識、意欲、適性等についての評価を重視して選抜する。
	電子機械科						
	建築デザイン科						
	生物資源科	くくり 募集	○	○	◎		
	フードシステム科						
	経営科	○	○	◎			
	ヒューマンサービス科	○	○	◎			

※ 表中の「最終段階」とは、後期選抜の選抜方法の（５）の段階を示す。

※ 表中の○印は、選抜資料に該当するもので、◎印が「特に重視する選抜資料」を示す。

高等学校名	学科・コース名	選抜方法の最終段階における「特に重視する選抜資料等」					選抜方法の最終段階における 「特に重視する選抜資料等」の補足内容
		学力 検査の 結果	調査書 の 内容	面接の 状況	作文の 結果	実技 検査の 結果	
名張	総合学科	○	○	◎			最終段階では、面接における目的意識、意欲、適性等についての評価を重視し、調査書の内容を考慮して選抜する。
名張青峰	普通科	○	◎				最終段階で決定する合格者は、調査書の内容を重視し、学力検査の結果を考慮して、総合的に判断して決定する。
	普通科・文理探究コース	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から、調査書の内容を考慮して、総合的に判断して決定する。
松阪	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から、調査書の内容を考慮して、総合的に判断して決定する。
	理数科	◎	○				
松阪工業	機械科	◎	○	○			最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から、調査書の内容と面接の状況を考慮して決定する。
	電気工学科	◎	○	○			
	工業化学科	◎	○	○			
	自動車科	◎	○	○			
松阪商業	総合ビジネス科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から、調査書の内容を考慮して、総合的に判断して決定する。
	国際ビジネス科	◎	○				
飯南	総合学科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
相可	普通科	◎	○	○			最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から、調査書の内容と面接の状況を考慮し、総合的に判断して決定する。
	生産経済科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
	環境創造科	○	○	◎			
明野	生産科学科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
	食品科学科	○	○	◎			
	生活教養科	○	○	◎			
	福祉科	○	○	◎			
宇治山田	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から、調査書の内容を考慮して、総合的に判断して決定する。
伊勢	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果の上位の者から、調査書の内容を考慮して決定する。
	普通科・国際科学コース	◎	○				

※ 表中の「最終段階」とは、後期選抜の選抜方法の（５）の段階を示す。

※ 表中の○印は、選抜資料に該当するもので、◎印が「特に重視する選抜資料」を示す。

高等学校名		学科・コース名	選抜方法の最終段階における「特に重視する選抜資料等」					選抜方法の最終段階における 「特に重視する選抜資料等」の補足内容
			学力 検査の 結果	調査書 の 内容	面接の 状況	作文の 結果	実技 検査の 結果	
宇治山田商業		商業科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果を重視し、調査書の内容の「各教科の学習の記録」「特別活動の記録及び行動の記録」「その他参考となる諸事項」を考慮して決定する。
		情報処理科	◎	○				
		国際科	◎	○				
伊勢工業		機械科	○	◎	○			最終段階で決定する合格者は、調査書の内容の「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」を重視し、学力検査の結果と面接の状況を考慮して決定する。
		電気科	○	◎	○			
		建築科	○	◎	○			
南伊勢	度会校舎	普通科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者は、面接の状況を重視し、学力検査の結果と調査書の内容を考慮して判断する。
鳥羽		総合学科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者は、面接の状況を重視し、学力検査の結果と調査書の内容を考慮して判断する。
志摩		普通科	○	○	◎			最終段階で決定する合格者は、面接の状況を重視し、学力検査の結果と調査書の内容の「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」を考慮して決定する。
水産		海洋・機関科	○	○	◎			最終段階では、面接における目的意識、意欲、適性等についての評価を重視し、学力検査の結果と調査書の内容を考慮して決定する。
		水産資源科	○	○	◎			
尾鷲		普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果を重視し、調査書の内容を考慮して決定する。
		普通科・プログレッシブコース	◎	○				
		情報ビジネス科	◎	○				
		システム工学科	◎	○				
熊野青藍	木本校舎	普通科	◎	○				最終段階で決定する合格者は、学力検査の結果を重視し、調査書の内容のうち、特に「各教科の学習の記録」「その他参考となる諸事項」「行動の記録」「特別活動の記録」を考慮して決定する。
		総合学科	◎	○				
	紀南校舎	総合学科	◎	○				

定時制課程

※ 表中の「最終段階」とは、後期選抜の選抜方法の（５）の段階を示す。

※ 表中の○印は、選抜資料に該当するもので、◎印が「特に重視する選抜資料」を示す。

高等学校名	学科名	選抜方法の最終段階における「特に重視する選抜資料等」					選抜方法の最終段階における 「特に重視する選抜資料等」の補足内容
		学力 検査の 結果	調査書 の 内容	面接の 状況	作文の 結果	実技 検査の 結果	
桑名	普通科	○	○	◎	○		最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等について、すぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
四日市工業	機械交通工学科	○	○	◎		○	最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
	住システム工学科	○	○	◎		○	
北星	普通科（昼間部）	}	○	◎	○		最終段階においては、特に面接の状況を重視して選抜する。
	情報ビジネス科（昼間部）						
	普通科（夜間部）						
飯野	普通科	○	○	◎	○		最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
みえ夢学園	総合学科（午前の部）	○	○	◎	○		最終段階で決定する合格者のうち、面接の状況がすぐれている者については、優先して決定する。
	総合学科（午後の部）	○	○	◎	○		
	総合学科（夜間部）	○	○	◎	○		
上野	普通科	○	○	◎	○		最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
名張	普通科	○	○	◎	○		最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
松阪工業	普通科	○	○	◎	○		最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
伊勢まなび	普通科（午前の部）	○	○	◎	○		最終段階で決定する合格者のうち、面接により、目的意識、意欲、適性等についてすぐれた評価を得た者については、優先して決定する。
	普通科（午後の部）	○	○	◎	○		
	ものづくり工学科（夜間部）	○	○	◎	○		
尾鷲	普通科	○	○	◎	○		最終段階においては、面接の状況を重視して選抜する。
熊野青藍	木本校舎 普通科	○	○	◎	○		最終段階においては、特に面接の状況を重視して選抜する。

＜別表５＞

令和８年度三重県立高等学校入学選抜で
スポーツ特別枠選抜を実施する高等学校の「募集競技」「募集学科」一覧

高等学校名	募集競技名		募集学科・コース名（募集人数）
いなべ総合学園	レスリング競技	男子	総合学科（５人以内）
	レスリング競技	女子	総合学科（２人以内）
	バスケットボール競技	女子	総合学科（５人以内）
朝 明	自転車競技	男子	普通科（３人以内）、ふくし科（１人以内）
	レスリング競技	男子	普通科（３人以内）、ふくし科（１人以内）
	ラグビー競技	男子	普通科（４人以内）、ふくし科（１人以内）
四日市四郷	アーチェリー競技	男子	普通科（５人以内）
	アーチェリー競技	女子	普通科（５人以内）
四日市工業	陸上競技	男子	機械科（１人以内）、電子機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、 電子工学科（１人以内）、自動車科（１人以内）
	テニス競技	男子	機械科（１人以内）、電子機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、 物質工学科（１人以内）、自動車科（１人以内）
	バスケットボール競技	男子	機械科（１人以内）、電子機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、 電子工学科（１人以内）、物質工学科（１人以内）
	ハンドボール競技	男子	機械科（１人以内）、電子機械科（１人以内）、電子工学科（１人以内）、 物質工学科（１人以内）、自動車科（１人以内）
	ウェイトリフティング競技	男子	電子機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、電子工学科（１人以内）、 物質工学科（１人以内）、自動車科（１人以内）
	ラグビー競技	男子	機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、電子工学科（１人以内）、 物質工学科（１人以内）、自動車科（１人以内）
四日市中央工業	水泳競技（水球）	男子	機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、化学工学科（１人以内）、 都市工学科（１人以内）、設備システム科（１人以内）
	柔道競技	男子	機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、化学工学科（１人以内）、 都市工学科（１人以内）、設備システム科（１人以内）
	サッカー競技	男子	機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、化学工学科（１人以内）、 都市工学科（１人以内）、設備システム科（１人以内）
	ウェイトリフティング競技	男子	機械科（１人以内）、電気科（１人以内）、化学工学科（１人以内）、 都市工学科（１人以内）、設備システム科（１人以内）
四日市商業	陸上競技	女子	商業科（４人以内）
	テニス競技	女子	商業科（４人以内）
	バスケットボール競技	女子	商業科（４人以内）
	ハンドボール競技	女子	商業科（４人以内）
	空手道競技	女子	商業科（４人以内）
	柔道競技	女子	商業科（４人以内）
白 子	卓球競技	男子	普通科（４人以内）
	卓球競技	女子	普通科（２人以内）、生活創造科（２人以内）
稲 生	水泳競技（水球）	男子	普通科（３人以内）、体育科（１人以内）
	なぎなた競技	女子	普通科（１人以内）、体育科（１人以内）
	陸上競技	男子	普通科（４人以内）、体育科（１人以内）
	陸上競技	女子	普通科（４人以内）、体育科（１人以内）
亀 山	ウェイトリフティング競技	男子	普通科（１人以内）、システムメディア科（１人以内）、総合生活科（１人以内）
	ウェイトリフティング競技	女子	普通科（１人以内）、システムメディア科（１人以内）、総合生活科（１人以内）
津商業	ソフトボール競技	女子	ビジネス科（５人以内）
	バレーボール競技	女子	ビジネス科（５人以内）
津工業	セーリング競技	男子	機械科（２人以内）、電気科（１人以内）、電子科（１人以内）、建設工学科（１人以内）
	セーリング競技	女子	機械科（２人以内）、電気科（１人以内）、電子科（１人以内）、建設工学科（１人以内）
	バスケットボール競技	男子	機械科（２人以内）、電気科（１人以内）、電子科（１人以内）、建設工学科（１人以内）
名 張	新体操競技	女子	総合学科（５人以内）
	柔道競技	男子	総合学科（５人以内）
	柔道競技	女子	総合学科（５人以内）
松阪工業	バレーボール競技	男子	機械科（１人以内）、電気工学科（１人以内）、工業化学科（１人以内）、 自動車科（１人以内）
宇治山田商業	相撲競技	男子	商業科（２人以内）、情報処理科（１人以内）
尾 鷲	水泳競技（競泳）	男子	普通科（２人以内）、情報ビジネス科（２人以内）、システム工学科（１人以内）
	水泳競技（競泳）	女子	普通科（３人以内）、情報ビジネス科（２人以内）

〈別表6〉

令和8年度三重県立高等学校入学選抜でスポーツ特別枠選抜を実施する
高等学校の「募集競技」「応募資格」「実技検査」「選抜方法」一覧

《いなべ総合学園高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
レスリング競技（男子）	（総合学科 5人以内）
レスリング競技（女子）	（総合学科 2人以内）
バスケットボール競技（女子）	（総合学科 5人以内）

応 募 資 格
〔共通項目〕 (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、学業に励み、部活動と学習活動を両立させる強い意志がある者 (2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者 〔競技別項目〕 （レスリング競技（男子）、（女子）） 全国大会に出場している選手である者か、これに準ずる優れた能力を有する者 （バスケットボール競技（女子）） 県大会で団体ベスト4以上の中心選手である者か、これに準ずる優れた能力を有する者

検 査	実 施 概 要		
実技検査	共通項目	2 5 m往復走、反復横跳び、立ち幅跳び、長座体前屈	
	競技別項目	レスリング競技（男子） レスリング競技（女子）	レスリングの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
		バスケットボール競技（女子）	バスケットボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 ① 評定（第3学年の各教科の評定の合計） 45点満点 ② 学級活動・生徒会活動、取得資格、 スポーツ・文化・社会活動の実績 最高10点 (2) 面 接 A、B、C、Dの4段階で評価し、点数化する。（10点満点） (3) 実技検査 90点 2 選抜方法 (1)①の評定得点と(1)②、(2)、(3)の合計点数の2つをもとに、面接の評価、調査書、「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《朝明高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
自転車競技（男子）	（普通科 3人以内、ふくし科1人以内）
レスリング競技（男子）	（普通科 3人以内、ふくし科1人以内）
ラグビー競技（男子）	（普通科 4人以内、ふくし科1人以内）

応 募 資 格
〔各競技共通〕 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 経験の有無にかかわらず、本校の部に所属して活動を3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 (2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者

検 査	実 施 概 要
実技検査	共通項目
	次の6種目の中から3種目を選択する。 (1) 握力 (2) 長座体前屈 (3) 反復横跳び (4) 上体起こし (5) シャトルラン (6) 立ち幅跳び
	競技別項目
	自転車競技（男子） エアロバイクや学校所有の競技用自転車を用いた実技検査など レスリング競技（男子） レスリングの基本動作を含むマット運動など ラグビー競技（男子） ラグビーの基本動作を含むパス、ランニングなど

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 A、B、C、Dの4段階で評価する。 (3) 学力検査（国語） A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (4) 実技検査 A、B、C、Dの4段階で評価する。
2 選抜方法 (1) 第1段階 調査書得点の順位が普通科における前期選抜の募集人数の100%以内であることと、面接、学力検査がともにB段階以上であること、実技検査の評価がA段階以上であることを満たす者を選抜する。 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く、全ての受検者の中から総合的に選抜を行う。

《四日市四郷高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
アーチェリー競技（男子）	（普通科 5人以内）
アーチェリー競技（女子）	（普通科 5人以内）

応 募 資 格
（アーチェリー競技（男子・女子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 経験の有無にかかわらず、本校の部活動に所属して活動を3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 (2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	アーチェリー競技（男子） アーチェリー競技（女子）	実射など、アーチェリーの基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法							
1	選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: right;">評価（第1～3学年の各教科の評価を換算）</td> <td style="text-align: right;">90点満点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">学級活動・生徒会活動、スポーツ・文化活動の実績、取得資格</td> <td style="text-align: right;">最高 30点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: right;">120点</td> </tr> </table> (2) 面 接 次の3つの項目について評価し、点数化する。（30点満点） ・ 学習活動や進路に対する目的意識 ・ 部活動や特別活動に対する興味・関心、意欲 ・ 面接態度 (3) 学力検査 国語（50点満点） (4) 実技検査 A、B、Cの3段階で評価する。	評価（第1～3学年の各教科の評価を換算）	90点満点	学級活動・生徒会活動、スポーツ・文化活動の実績、取得資格	最高 30点	合 計	120点
評価（第1～3学年の各教科の評価を換算）	90点満点						
学級活動・生徒会活動、スポーツ・文化活動の実績、取得資格	最高 30点						
合 計	120点						
2	選抜方法 (1)～(3)の合計点数、実技検査の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。						

《四日市工業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）		
陸上競技（男子）		
（機械科、電子機械科、電気科、電子工学科、自動車科	各科 1 人以内）	
テニス競技（男子）		
（機械科、電子機械科、電気科、物質工学科、自動車科	各科 1 人以内）	
バスケットボール競技（男子）		
（機械科、電子機械科、電気科、電子工学科、物質工学科	各科 1 人以内）	
ハンドボール競技（男子）		
（機械科、電子機械科、電子工学科、物質工学科、自動車科	各科 1 人以内）	
ウエイトリフティング競技（男子）		
（電子機械科、電気科、電子工学科、物質工学科、自動車科	各科 1 人以内）	
ラグビー競技（男子）		
（機械科、電気科、電子工学科、物質工学科、自動車科	各科 1 人以内）	

応 募 資 格	
下記の〔競技別項目〕(1)又は(2)の資格を満たし、かつ〔共通項目〕(3)及び(4)の資格を満たす者	
〔競技別項目〕	
（陸上競技（男子））	
（1） 中学校の3年間における県大会で個人ベスト8以上の選手である者か、これに準ずる記録・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者	
（2） 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者	
（テニス競技（男子））	
（1） 中学校の3年間における県大会で個人ベスト8以上の選手である者か、これに準ずる実績・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者	
（2） 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者	
（バスケットボール競技（男子）、ハンドボール競技（男子））	
（1） 中学校の3年間における県大会で団体ベスト8以上の中心選手である者か、これに準ずる実績・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者	
（2） 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者	
（ウエイトリフティング競技（男子））	
（1） 中学校の3年間における県大会で個人ベスト8以上の選手である者か、これに準ずる実績・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者	
（2） 部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者	
（ラグビー競技（男子））	
（1） 中学校の3年間における県大会で団体ベスト4以上の中心選手である者か、これに準ずる実績・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者	
（2） 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者	
〔共通項目〕	
（3） 応募する工業の専門科目に興味・関心を持ち、部活動と学習活動を両立させる強い意志がある者	
（4） 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者	

検 査	実 施 概 要	
実技検査	陸上競技（男子）	陸上競技のうち、トラック競技、跳躍競技の種目を中心に実技検査を行う。
	テニス競技（男子）	テニスの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	バスケットボール競技（男子）	バスケットボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	ハンドボール競技（男子）	ハンドボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	ウエイトリフティング競技（男子）	ウエイトリフティングの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	ラグビー競技（男子）	ラグビーの基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選拔方法

(1) 調査書 点数化する。

90 点満点

最高 20 点

1 1 0 点

(3) 作文 A、B、Cの3段階で評価する。

(4) 実技検査 A、B、Cの3段階で評価する。

次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項並びに実技検査を考慮して総合的に選抜する。

(1) 第1段階 調査書の得点の順位が各学科における前期選抜の募集人数の60%以内であることと、面接と作文の評価がともにB段階以上であること、かつ実技検査の評価がA段階であることを満たす者

(2) 第2段階 面接の評価がB段階以上である者のうち、実技検査の評価がA段階である者

《四日市中央工業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）
水泳競技（水球）（男子） （機械科 1 人以内、電気科 1 人以内、化学工学科 1 人以内、都市工学科 1 人以内、設備システム科 1 人以内） 柔道競技（男子） （機械科 1 人以内、電気科 1 人以内、化学工学科 1 人以内、都市工学科 1 人以内、設備システム科 1 人以内） サッカー競技（男子） （機械科 1 人以内、電気科 1 人以内、化学工学科 1 人以内、都市工学科 1 人以内、設備システム科 1 人以内） ウェイトリフティング競技（男子） （機械科 1 人以内、電気科 1 人以内、化学工学科 1 人以内、都市工学科 1 人以内、設備システム科 1 人以内）

応 募 資 格
（水泳競技（水球）（男子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、本校において学業に励み、当該学科の専門性を身に付け、文武両道を目指し実行できる者 (2) 全国ジュニアオリンピック水泳競技大会出場選手または、全国ジュニアオリンピック水泳競技大会予選会に出場した者 （柔道競技（男子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、本校において学業に励み、当該学科の専門性を身に付け、文武両道を目指し実行できる者 (2) 柔道連盟や協会及び社団法人の主催する大会において地区の予選大会（市大会等）を勝ち上がり県大会（各都道府県大会）に出場した者 （サッカー競技（男子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、本校において学業に励み、当該学科の専門性を身に付け、文武両道を目指し実行できる者 (2) チームの中心選手として活躍し、かつリーダーシップが取れる者 （ウェイトリフティング競技（男子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、本校において学業に励み、当該学科の専門性を身に付け、文武両道を目指し実行できる者 (2) 全国大会、ブロック大会出場または、県大会に出場した者

検 査	実 施 概 要
実技検査	水泳競技（水球）（男子） (1) シャトルスイム (2) ボールコントロールからシュートまで （ゴールキーパーは10kg支重時間） ※急激な気温の変化や天候の変化により検査会場が使用不可の場合は、(3)、(4)を行う。 (3) シャトルラン (4) ボールコントロールからスローイングまで
	柔道競技（男子） (1) 投げ技（打ち込み・投げ込み） (2) 乱取り（立ち技）
	サッカー競技（男子） (1) ステップワーク (2) パス&コントロール (3) シュート (4) ヘディング (5) ゲーム形式（参加人数により調整） 以上5項目における実技検査から、スキル・戦術・フィジカル能力について評価する。 （ゴールキーパーはキャッチング、セービング、パンチング、ボールコントロール、キックの能力について評価する。）
	ウェイトリフティング競技（男子） スナッチ、クリーン&ジャーク、スクワットなどの基本的技能・動作の実技検査を行う。

《四日市中央工業高等学校》

選 抜 方 法			
1	選抜資料の取扱い		
(1)	調 査 書	点数化する。	
		評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	45点満点
		評定以外の記載事項	最高 20点
		合 計	65点
(2)	面 接	A、B、Cの3段階で評価する。（25点満点）	
(3)	作 文	A、B、Cの3段階で評価する。（10点満点）	
(4)	実技検査	A、B、Cの3段階で評価する。	
2	選抜方法		
	(1)～(3)の合計点数、実技検査の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。		

《四日市商業高等学校》

募 集 競 技 (募集学科 募集人数)	
陸上競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
テニス競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
バスケットボール競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
ハンドボール競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
空手道競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
柔道競技 (女子)	(商業科 4 人以内)

応 募 資 格
〔各競技共通〕 本校の部活動に所属して活動を3年間継続するとともに、学業と両立させる強い意志がある者 (陸上競技 (女子)) 個人で県大会8位以内の選手か、団体 (リレー・駅伝) で県大会3位以内の中心選手、又は同等の優れた能力を持つ者 (テニス競技 (女子)) 県大会で団体ベスト4以上の中心選手、個人ベスト8以上の選手であるか又は同等の優れた能力を持つ者 (バスケットボール競技 (女子)、ハンドボール競技 (女子)) 県大会で団体ベスト4以上の中心選手であるか、又は同等の優れた能力を持つ者 (空手道競技 (女子)) 県大会でベスト8以上の選手であるか、又は同等の優れた能力を持つ者 (柔道競技 (女子)) 県大会でベスト8以上の選手であるか、又は同等の優れた能力を持つ者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	陸上競技 (女子)	(1) 1000mジョグ ペースは指定しない。 (2) 120m走×2 タイムは測定しない。 (3) 立ち幅跳び×2 距離計測する。
	テニス競技 (女子)	ストローク、ボレー、サーブの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	バスケットボール競技 (女子)	ゴール下連続シュート、フリースロー、ドリブルターンの基本技術の実技検査を行う。
	ハンドボール競技 (女子)	シャトルラン、立ち幅跳びによる基本的な運動能力とシュート、フェイントによる基本技術の実技検査を行う。
	空手道競技 (女子)	空手道の基本的な動作 (突き・蹴り・受け)、形、組手の基本的な動作の実技検査を行う。
	柔道競技 (女子)	柔道の基本的な動作 (受け身、投げ技の打ち込み、投げ込み) の実技検査を行う。

選 抜 方 法		
1 選 抜 資 料 の 取 扱 い		
(1) 調 査 書	点数化する。	
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点
	評定以外の記載事項	最高 20点
	合 計	110点
(2) 面 接	A、B、Cの3段階で評価する。	
(3) 作 文	A、B、Cの3段階で評価する。	
(4) 実技検査	A、B、Cの3段階で評価する。	
2 選 抜 方 法		
次の各段階に該当する受検者について順に、調査書得点、面接・作文の評価及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。		
(1) 第1段階	面接及び作文の評価がともにB段階以上であることと、実技検査の評価がA段階であること の両方の条件を満たす者	
(2) 第2段階	第1段階で合格となった者を除く受検者のうち、実技検査の評価がA段階の者	

《白子高等学校》

募 集 競 技 (募集学科 募集人数)		
卓球競技 (男子)	(普通科 4 人以内)	
卓球競技 (女子)	(普通科 2 人以内、 生活創造科 2 人以内)	

応 募 資 格
〔各競技共通〕 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、本校の部活動に所属して3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志のある者

検 査	実 施 概 要
実技検査	卓球競技 (男子) 卓球競技 (女子) 次の技能・動作の実技検査を行う。 (1) フォアハンド・バックハンド (2) フットワーク (3) サービス・レシーブ

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 学力検査 国語 (50 点) の得点を A、B、C、D、E の5段階で評価する。 (2) 面接 20 点満点で評価し、その得点を A、B、C、D、E の5段階で評価する。 (3) 調査書 3 年間の各教科の評定の合計 (135 点満点) を得点化し、評価する。 (4) 実技検査 A、B、C の3段階で評価する。
2 選抜方法 (1)、(2)、(4) の結果と調査書得点をもとに、「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載内容を考慮し総合的に選抜する。

《稲生高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
水泳競技（水球）（男子）	（普通科 3人以内、体育科 1人以内）
なぎなた競技（女子）	（普通科 1人以内、体育科 1人以内）
陸上競技（男子）	（普通科 4人以内、体育科 1人以内）
陸上競技（女子）	（普通科 4人以内、体育科 1人以内）

応 募 資 格
〔各競技共通〕
(1) 該当競技の本校部活動に3年間継続して所属するとともに、学業に励み、部活動と学習活動を両立させる強い意志がある者
(2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者
（水泳競技（水球）（男子））
該当競技経験者または泳力を有し、水球競技の技術に関連するハンドボール部等の経験がある者
（なぎなた競技（女子））
該当競技経験者または剣道の経験がある者
（陸上競技（男子）（女子））
中学3年間で県大会・駅伝大会等でベスト8以上（各区分8位以内）の者か、チームの中心選手で、これに準ずる記録・運動能力を有し、その競技に優れた能力を有する者

検 査	実 施 概 要
実技検査	水泳競技（水球）（男子）
	(1) シャドースイム：クロールの技術 (2) パス：ハンドボールを使つてのパス (3) シュート：ハンドボールを使つてのシュート
	なぎなた競技（女子）
	次の(1)、(2)のどちらかの実技を選択して行う。 (1) なぎなたの基本実技：八方振り、基本打突（打ち返し） (2) 剣道の基本実技：素振り、基本打突（打ち返し）
	陸上競技（男子） 陸上競技（女子）
	1 共通検査 1200m ジョギング（ペース自由）、120m 走（計測なし）を全ての志願者に課す。 2 選択種目検査 ① 短距離走種目・跳躍種目・投てき種目選択者 ・立ち5段跳び×2回（計測あり） ・メディシンボール投げ（2kg）前後×各2回（計測あり） ② 中距離走種目・長距離走種目選択者 ・300m 走（計測なし） ・3000m ペース走（ペースは各自で設定）

学科・コース名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点 調査書に記載されている事項 最高10点） (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 学力検査 国語（50点満点）の得点をA、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (4) 実技検査 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
	2 選抜方法 (1)～(4)の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。
体 育 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点 調査書に記載されている事項 最高10点） (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 実技検査 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
	2 選抜方法 (1)～(3)の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《亀山高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）		
ウエイトリフティング競技（男子） （普通科 1人以内、システムメディア科 1人以内、総合生活科 1人以内）		
ウエイトリフティング競技（女子） （普通科 1人以内、システムメディア科 1人以内、総合生活科 1人以内）		

応 募 資 格
（ウエイトリフティング競技（男子）（女子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 経験の有無にかかわらず、本校のウエイトリフティング部に所属して活動を3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 (2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	ウエイトリフティング競技（男子） ウエイトリフティング競技（女子）	(1) 立ち幅跳び (2) 30秒上体起こし

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 次の6つの項目について評価し、点数化する。（30点満点） ・ 本校を志望する動機 ・ 学習に対する意欲 ・ 中学校生活における諸活動 ・ 高校生活についての抱負 ・ 自己や社会問題への関心 ・ 面接態度 (3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価する。 (4) 実技検査 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
2 選抜方法 (1)、(2)の合計点数をもとに、(3)、(4)、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《津商業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）		
ソフトボール競技（女子）	（ビジネス科	5人以内）
バレーボール競技（女子）	（ビジネス科	5人以内）

応 募 資 格
〔各競技共通〕 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、当該学科の専門性を身につけ部活動と学業を両立させる強い意志があり、学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者 （ソフトボール競技（女子）） 全国都道府県対抗全日本中学生大会の出場者 （バレーボール競技（女子）） JOCジュニアオリンピック全国都道府県対抗中学バレーボール大会の出場者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	ソフトボール競技（女子）	・ 反復横とび（2回計測） ・ （野手）ポジション別、捕球・スローイングの基本的な技能・動作の実技検査を行う。 ・ （投手）ピッチングの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	バレーボール競技（女子）	・ 反復横とび（2回計測） ・ オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブの基本的な技術・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法	
1 選抜資料の取扱い	
(1) 調 査 書	点数化する。
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）
	スポーツ・文化活動、生徒会活動等における
	取組姿勢、意欲、実績等
	最高15点
	合 計
	60点
(2) 面 接	A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
(3) 作 文	A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
(4) 実技検査	A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
2 選抜方法	
(1)～(4)の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。	

《津工業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）
セーリング競技（男子）（機械科2人以内、電気科1人以内、電子科1人以内、建設工学科1人以内）
セーリング競技（女子）（機械科2人以内、電気科1人以内、電子科1人以内、建設工学科1人以内）
バスケットボール競技（男子）（機械科2人以内、電気科1人以内、電子科1人以内、建設工学科1人以内）

応 募 資 格
〔各競技共通〕 本校における学業と両立させる強い意志があり、学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者 （セーリング競技（男子）、（女子）） 経験の有無にかかわらず、本校の部活動に所属して活動を3年間継続できる者 （バスケットボール競技（男子）） 県大会で団体ベスト4以上の中心選手であるか、または、同等の優れた能力を持つ者

検 査	実 施 概 要				
面 接	個人面接（15分程度） 競技に対する理解・意欲・関心、適性等について評価する。				
実技検査	<table border="1"> <tr> <td>セーリング競技（男子） セーリング競技（女子）</td><td>(1) 反復横跳び (2) 上体起こし</td></tr> <tr> <td>バスケットボール競技（男子）</td><td>バスケットボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。</td></tr> </table>	セーリング競技（男子） セーリング競技（女子）	(1) 反復横跳び (2) 上体起こし	バスケットボール競技（男子）	バスケットボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
セーリング競技（男子） セーリング競技（女子）	(1) 反復横跳び (2) 上体起こし				
バスケットボール競技（男子）	バスケットボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。				

選 抜 方 法			
1 選抜資料の取扱い			
(1) 調 査 書	点数化する。		
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）		70点満点
	中学3年間におけるスポーツ・文化活動の取り組み状況等	最高	15点
	合 計		85点
(2) 総合問題	30点		
(3) 個人面接	A、B、C、D、Eの5段階で評価する。		
(4) 実技検査	A、B、C、D、Eの5段階で評価する。		
2 選抜方法			
(1)と(2)の合計点数をもとに、個人面接の評価・実技検査の評価並びに調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。			

《名張高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）		
新体操競技（女子）	（総合学科	5 人以内）
柔道競技（男子）	（総合学科	5 人以内）
柔道競技（女子）	（総合学科	5 人以内）

応 募 資 格
（新体操競技（女子）） 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属して積極的に活動し、本校の部活動に所属して活動を 3 年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 （柔道競技（男子）） 全国大会若しくは東海大会又は近畿大会出場の選手であるか、あるいは同等の優れた能力を持ち、本校の部活動に所属して活動を 3 年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 （柔道競技（女子）） 全国大会若しくは東海大会又は近畿大会出場の選手であるか、あるいは同等の優れた能力を持ち、本校の部活動に所属して活動を 3 年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	新体操競技（女子）	反復横跳び、柔軟体操、ボールの演技創作など、新体操の基本的な技能・動作と演技力の実技検査を行う。
	柔道競技（男子） 柔道競技（女子）	受身、立技、寝技など、柔道の基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第 1 ～ 3 学年の各教科の評定を換算 4 5 点満点） (2) 面 接 A、B、C、D の 4 段階で評価する。 (3) 学力検査 1 0 0 点（数学 5 0 点、英語 5 0 点） (4) 実技検査 A、B、C の 3 段階で評価する。
2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第 1 段階 面接の評価が C 段階以上である者のうち、調査書得点と学力検査得点の順位がともにスポーツ特別枠選抜の各募集競技の募集人数の 1 0 0 % 以内であることと、実技検査の評価が A 段階であることの両方の条件を満たす者 (2) 第 2 段階 第 1 段階で合格となった者を除く全ての受検者

《松阪工業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
バレーボール競技（男子） （機械科 1 人以内、電気工学科 1 人以内、工業化学科 1 人以内、自動車科 1 人以内）	

応 募 資 格	
（バレーボール競技（男子）） 本校の部活動に所属して活動を3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志があり、学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者。	

検 査	実 施 概 要	
実技検査	バレーボール競技（男子）	パス、レシーブ、スパイクなど、バレーボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法							
1	選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table border="0"> <tr> <td>評定（第3学年の各教科の評定の合計を2倍）</td> <td>90点満点</td> </tr> <tr> <td>評定以外の調査書の記載事項</td> <td>最高 20点</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>110点</td> </tr> </table> (2) 面 接 次の5つの項目について評価し、点数化する。（30点満点） ・志望の動機、目的意識 ・学科の内容への興味・関心 ・中学校での活動 ・高校生活への意欲 ・面接態度 (3) 作 文 次の4つの項目について評価し、点数化する。（20点満点） ・課題に即した内容 ・表現、展開の適切さ ・学科に対する興味・関心 ・表記の明確さ (4) 実技検査 実技検査の各内容を点数化する。（50点満点）	評定（第3学年の各教科の評定の合計を2倍）	90点満点	評定以外の調査書の記載事項	最高 20点	合 計	110点
評定（第3学年の各教科の評定の合計を2倍）	90点満点						
評定以外の調査書の記載事項	最高 20点						
合 計	110点						
2	選抜方法 (1)～(4)の合計点数をもとに、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。						

《宇治山田商業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
相撲競技（男子）	（商業科 2 人以内、情報処理科 1 人以内）

応 募 資 格
（相撲競技（男子）） 経験の有無にかかわらず、本校の部活動に所属して活動を 3 年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者

検 査	実 施 概 要
実技検査	相撲競技（男子） しこ、すり足、押し動作など、相撲に必要な基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第 1 ～ 3 学年の各教科の評定を換算 70 点満点） (2) 面 接 A、B、C、D、E の 5 段階で評価する。 (3) 学力検査 50 点（国語） (4) 実技検査 A、B、C、D、E の 5 段階で評価する。
2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第 1 段階 面接の評価が C 段階以上である者のうち、調査書得点の順位と学力検査得点の順位がともにスポーツ特別枠選抜の各募集競技の募集人数のおよそ 100%以内であることと、実技検査の評価が A 段階であることの両方の条件を満たす者 (2) 第 2 段階 第 1 段階で合格となった者を除く全ての受検者

《尾鷲高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
水泳競技（競泳）（男子）	（普通科 2人以内、 情報ビジネス科 2人以内、 システム工学科 1人以内）
水泳競技（競泳）（女子）	（普通科 3人以内、 情報ビジネス科 2人以内）

応 募 資 格
（水泳競技（競泳）（男子）（女子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、積極的に活動した者 (2) 本校の部活動に所属して3年間継続をするとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者

検 査	実 施 概 要
実技検査	水泳競技（競泳）（男子） 水泳競技（競泳）（女子） (1) 200m個人メドレー (2) 50m自由形 ※タイム測定を実施する。 ただし、天候や施設・設備の状況により検査会場が使用できない場合は以下の(3)・(4)・(5)を行う。 (3) 反復横跳び (4) 垂直跳び (5) シャトルラン ※ 運動能力テストの実施要項に従って実施する。

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 普通科（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） 情報ビジネス科（第3学年の各教科の評定の合計を2倍 90点満点） システム工学科（第3学年の各教科の評定の合計を2倍 90点満点） (2) 面 接 次の4つの項目について評価し、A、B、Cで評価する。 ・ 本校、本学科を志望する動機、目的意識 ・ 学科の内容についての理解 ・ 高校生活への意欲 ・ 面接態度（応答の的確さ、明瞭さなど） (3) 学力検査 100点（数学50点、英語50点） (4) 実技検査 実技検査の各内容を点数化する。（30点満点）
2 選抜方法 (1)～(4)をもとに、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項（過去の競技実績等）を考慮して総合的に選抜する。

<別表 7>

令和8年度三重県立高等学校入学者選抜における海外帰国生徒・外国人生徒等に係る
特別枠入学者選抜の「実施校」「募集学科・コース」「募集人数」「検査内容」一覧

高等学校名		募集学科・コース名	前期選抜		後期選抜					
			募集人数	検査内容	募集人数	検査内容				
						作文	面接	学力検査（※）		
							国語	数学	英語	
桑名北		普通科	原則として 3人以内	＜別表1＞ 及び ＜別表2＞ を参照	原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
いなべ総合学園		総合学科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
四日市四郷		普通科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
川越		探究科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
		国際探究科								
飯野		英語コミュニケーション科	原則として 7人以内		原則として 7人以内	○	個人	●	●	○
稲生		普通科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
津西		普通科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
		国際科学科								
津東		普通科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
久居		普通科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
あけぼの学園		総合学科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
名張		総合学科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
名張青峰		普通科 普通科・文理探究コース	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
松阪商業		国際ビジネス科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	●	●	○
飯南		総合学科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
昂学園		総合学科	原則として 6人以内							
宇治山田商業		国際科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人			○
鳥羽		総合学科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
尾鷲		普通科 普通科・プログレッシブコース 情報ビジネス科 システム工学科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
熊野青藍	木本校舎	総合学科	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人	○	○	○
	紀南校舎	総合学科								
北星		普通科（昼間部） 情報ビジネス科（昼間部）	原則として 3人以内		原則として 3人以内	○	個人			
みえ夢学園		総合学科（午前の部） 総合学科（午後の部）	原則として 5人以内		原則として 5人以内	○	個人	○	○	○

※ 後期選抜検査内容の学力検査
○ … 県が作成する後期選抜学力検査問題
● … 当該実施校が作成する学力検査問題

三重県立高等学校入学者選抜 各様式一覧

様式 1	入学願書 (前期選抜、中高一貫教育に係る選抜、特別選抜、スポーツ特別枠選抜)
	入学願書 (後期選抜、追加募集、秋期入学者選抜、専攻科入学者選抜)
	入学願書(再募集)
様式 2	収入証紙納付書
様式 3	受検票
様式 4	調査書(令和7年度中学校等卒業見込者及び令和3年度以降中学校等卒業者)
	調査書(令和2年度中学校等卒業者)
様式 5	令和8年3月卒業見込者の調査書の各教科の学習の記録の評定分布表
様式 6	志願校変更願(志願する高等学校の志願変更用)
様式 7	志願校及び志願学科等変更者一覧表(志願変更先の高等学校に提出)
様式 8	志願学科等変更願(同一高等学校における課程及び学科・コースの志願変更用)
様式 9	海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜の志願変更願
様式10	追検査受検願書
様式11	入学辞退届
様式12	通学区域外高等学校入学志願許可申請書
様式13-1	三重県立高等学校入学志願許可申請書
様式13-2	三重県立高等学校入学志願許可申請書
様式14	三重県立高等学校入学志願届出書
様式15	保証人届
様式16	海外帰国生徒・外国人生徒等特別枠適用申請書
様式17	自己推薦書
様式18	志願理由書
様式19	スポーツ特別枠自己推薦書
様式20	結果通知書
様式21	合格内定通知書
様式22	志願者一覧表
様式23	入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書(特別支援学校共通様式)
様式24	再募集受検申請書
参考様式	受検辞退届

様式 1 (前期選抜、連携型中高一貫教育に係る選抜、特別選抜、スポーツ特別選抜)

入学願書

整理番号

選抜名	
-----	--

三重県立 高等学校長 宛

貴校に入学を志願します。

課程名		
学科・コース名	第1志望	
	第2志望	

志願者	フリガナ	
	志願者名	
	生年月日	年 月 日
	現住所	㊦
出身 中学校等	立 (分校)	
	年 月 卒業 ・ 卒業見込	
保護者	保護者名	
	現住所	
備考		
	既に中学校等を卒業している者のみ連絡先電話番号 〔 〕	
入学 確約	（前期選抜・連携型中高一貫教育に係る選抜・特別選抜・スポーツ特別枠選抜） 貴校の合格者として内定した場合は、相違なく入学することを確認します。 （スポーツ特別枠選抜） スポーツ特別枠選抜において内定した場合は、志願した競技の部活動に相違なく入部することを確認します。	

様式1（後期選抜、追加募集、秋期入学者選抜、専攻科入学者選抜）

入学願書

整理番号

選抜名	
-----	--

三重県立 高等学校長 宛

貴校に入学を志願します。

課程名		
学科・コース名	第1志望	
	第2志望	

志 願 者	フリガナ	
	志願者名	
	生年月日	年 月 日
	現住所	〒
出身 中学校等	立 (分校)	
	年 月 卒業 ・ 卒業見込	
保 護 者	保護者名	
	現住所	
備 考		
	既に中学校等を卒業している者のみ連絡先電話番号 〔 〕	

様式 1 (再募集)

入学願書

整理番号

選抜名	
-----	--

三重県立 高等学校長 宛

貴校に入学を志願します。

課程名		
学科・コース名	第1志望	
	第2志望	

志願者	フリガナ	
	志願者名	
	生年月日	年 月 日
	現住所	〒 ー
出身 中学校等	立 (分校)	
	年 月 卒業 ・ 卒業見込	
保護者	保護者名	
	現住所	
備考		
	既に中学校等を卒業している者のみ連絡先電話番号 〔 〕	
応募資格確認	令和８年度三重県立高等学校入学者選抜実施要項 第４・ 1 ・(1)アに定める、応募資格があることを誓約します。なお、事実と相違するときには入学志願、合格、入学許可を取り消されても異存ありません。	

収 入 証 紙 納 付 書

整 理 番 号	
---------	--

※の欄は、高等学校で記入する。

納 付 年 月 日	※	令 和	年	月	日
手 数 料 等 の 名 称	県 立 高 等 学 校 入 学 選 抜 手 数 料				
手 数 料 の 金 額	¥				
三重県収入証紙貼付欄（納付者は消印をしてはならない。）					
（手数料の金額） ・ 全 日 制 2,200 円 ・ 定 時 制 950 円 ・ 通 信 制 は 不 要 三重県収入証紙は、高額証紙を使用し、なるべく枚数を少なくする。					
納 付 者	住	所			
	志 願 者 名				

選 抜 名		
高 等 学 校 名		
課 程 名		
学 科 ・ コ ー ス 名	第 1 志 望	
	第 2 志 望	

受 検 票

選 抜 名	受 検 番 号
	番

志 願 者 名	
出身中学校等	
高等学校名	
課 程	
学科・コース名	

写真貼付欄

(縦4cm×横3cm)

上半身正面、
無帽で6か月
以内に撮影し
たもの

貼付シール外枠

学力検査を実施する高等学校の県共通の日程

【前期選抜】				【後期選抜、再募集】			
検査教科		検査時間		検査教科等		検査等時間	
国語又は数学		10:00～10:45	45分	受 付	8:30～ 8:50		
英語		11:00～11:45	45分	点呼・諸注意	9:00～ 9:20		
				国 語	9:30～10:15	45分	
				数 学	10:30～11:15	45分	
				社 会	11:30～12:15	45分	
				昼食・休憩	12:15～13:15		
				英 語	13:15～14:00	45分	
				理 科	14:15～15:00	45分	

高等学校から「受検案内」の配付がある場合は、実施される検査や日程を「受検案内」で確認すること。

----- 折り曲げ線 -----

〔受検上の注意〕

- 1 この受検票は検査当日に持参し、「折り曲げ線」で折り曲げて、受検時に写真が上になるように机上に置いておくこと。また、受検票の表面及び裏面に書き込み等をしないこと。
- 2 筆記用具、コンパス、直定規(分度器付きでないもの。三角定規不可)、弁当、上履き等を持参すること。
なお、志願した高等学校から別途指示があった場合は、その指示に従うこと。
※ 面接、「自己表現」、作文、小論文、実技検査等を実施する高等学校への志願者には、別途指示がある。
- 3 腕時計を持参してもよい。ただし、電卓、辞書、端末等機能がないものを使用し、アラーム機能を解除しておくこと。
- 4 携帯電話、スマートフォン等を検査室(検査が実施される教室等)へ持ち込まないこと。
- 5 検査会場(受検する高等学校)では担当者の指示に従うこと。

〔個人情報の提供〕

- ・ 次の期間中に、受検者本人が、受検した高等学校に受検票等を提示すれば、その場で学力検査得点、調査書の第3学年の評定等を知ることができる。(土・日及び祝日・休日、3月10日(火)、3月23日(月)を除く。)
前期選抜(追検査を含む)、特別選抜……………令和8年2月13日(金)～4月30日(木)
後期選抜……………令和8年3月17日(火)～4月30日(木)
後期選抜追検査、全日制及び定時制の再募集…令和8年3月25日(水)～4月30日(木)
追加募集、通信制の再募集……………令和8年3月31日(火)～4月30日(木)
- ・ 受付時刻や、受検者本人以外(保護者等)による申請方法については、「令和8年度三重県立高等学校入学志願者の個人情報取扱要項」に定める。
- ・ 期間外に申請する場合は、後日の開示となり、実費を徴収する。
- ・ 詳細については、受検した高等学校に問い合わせる。

様式4（令和7年度中学校等卒業見込者及び令和3年度以降中学校等卒業者）

調 査 書			受検番号		※			
フリガナ		生年月日	年	月	日	年	月	性別
生徒名		学校名				卒業・卒業見込		

1 各教科の学習の記録（評定及び第3学年観点別学習状況）

		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術 ・ 家庭	外国語
第1学年	評定									
第2学年	評定									
第3学年	評定									
	観点①									
	観点②									
	観点③									
備 考										

2 総合的な学習の時間の記録（第3学年のみ）

学習活動	観 点	評 価

3 特別活動の記録及び行動の記録（第3学年のみ、十分満足できる項目に○印）

特別活動 の 記録	学級 活動	生徒会 活動	学校 行事	行 動 の 記 録	基本的な 生活習慣	健康・体 力の向上	自主 自律	責任感	創意 工夫	思いやり 協力	生命尊重 ・ 自然愛護	勤労 ・ 奉仕	公正 ・ 公平	公共心 ・ 公德心

4 出欠・健康の記録

	欠席日数	欠席理由の主なもの	健康の状況
第1学年			
第2学年			
第3学年			

5 その他参考となる諸事項（生徒の長所、特技、生徒会活動、スポーツ活動、文化活動、職場体験活動、社会活動、ボランティア活動歴等）

--

（以下、令和7年度中学校等卒業見込者については省略）

調査書の記載事項については、相違ありません。

令和 年 月 日

学校名

長 印

調 査 書

受検番号	※
------	---

フリガナ		生年月日	年 月 日	年 月	性別
生徒名		学校名		卒業	

1 各教科の学習の記録（評定及び第3学年観点別学習状況）

		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術 家庭	外国語
第1学年	評定									
第2学年	評定									
第3学年	評定									
	観点①									
	観点②									
	観点③									
	観点④									
	観点⑤									
備 考										

2 総合的な学習の時間の記録（第3学年のみ）

学習活動	観 点	評 価

3 特別活動の記録及び行動の記録（第3学年のみ、十分満足できる項目に○印）

特別 活動 の 記録	学級 活動	生徒会 活動	学校 行事	行 動 の 記 録	基本的な 生活習慣	健康・体 力の向上	自主 自律	責任感	創意 工夫	思いやり 協力	生命尊重 自然愛護	勤労 奉仕	公正 公平	公共心 公德心

4 出欠・健康の記録

	欠席日数	欠席理由の主なもの	健康の状況
第1学年			
第2学年			
第3学年			

5 その他参考となる諸事項（生徒の長所、特技、生徒会活動、スポーツ活動、文化活動、職場体験活動、社会活動、ボランティア活動歴等）

--

調査書の記載事項については、相違ありません。

令和 年 月 日

学校名

長 印

様式 6（志願する高等学校の志願変更用）

志 願 校 変 更 願

志願者名	
保護者名	
出身中学校等	

以下のとおり、志願する高等学校を変更したいのでお願いします。

< 志願変更前 >

高等学校名	三重県立	高等学校
課 程 名		課程
学科・コース名	第 1 志望	科 コース
	第 2 志望	科 コース
変更前の入学願書の整理番号		



< 志願変更先 >

高等学校名	三重県立	高等学校
課 程 名		課程
学科・コース名	第 1 志望	科 コース
	第 2 志望	科 コース

入学選抜手数料は志願変更前の高等学校で納入済みです。
 （志願する課程の変更により入学選抜手数料の差額を納付する必要がある場合は、入学願書の受付期間に電子納付するか、差額分の三重県収入証紙を貼付した収入証紙納付書（様式 2）を志願変更先高等学校に志願変更に係る書類等受付期間内に提出するかのいずれかにより納付します。）

様式 7（志願する高等学校及び志願学科等を変更する場合、変更先の高等学校に提出）

志願校及び志願学科等変更者一覧表（令和 7 年度中学校等卒業見込者）

三重県立高等学校

課程

以下の者は貴校に志願変更しますのでお願いします。

第 1 志望の学科・コース名	志願者名	志願変更先の 入学願書の 整理番号	手数料の差額の 追加納付確認		
			追加 納付 なし	電子 納付 済	収入 証紙
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐

以下の者は志願学科等を変更しますのでお願いします。

第 1 志望の学科 ・コース名	第 2 志望の学科 ・コース名	志願者名	志願変更先の 入学願書の 整理番号	手数料の差額の 追加納付確認		
				追加 納付 なし	電子 納付 済	収入 証紙
				☐	☐	☐
				☐	☐	☐
				☐	☐	☐
				☐	☐	☐
				☐	☐	☐
				☐	☐	☐

※ 手数料の納入を確認し、手数料の納付確認欄の□に✓を記入してください。なお、通信制課程志願者については、手数料の納付確認欄への記入は不要です。

以上の志願者について、入学願書内容及び手数料の納付について確認をしました。また、志願校変更をする者の調査書の記載事項に相違ありません。

令和 年 月 日

学校名

長

印

志 願 学 科 等 変 更 願

志願者名	
保護者名	
出身中学校等	

以下のとおり、志願する課程及び学科・コースを変更したいのでお願いします。

<志願変更前>

高等学校名	三重県立	高等学校
課 程 名		課 程
学科・コース名	第 1 志望	科 コース
	第 2 志望	科 コース
入学願書の整理番号		



<志願変更先> ※ 変更する内容のみ記入

課 程 名		課 程
学科・コース名	第 1 志望	科 コース
	第 2 志望	科 コース

（志願する課程の変更により入学選抜手数料の差額を納付する必要がある場合は、入学願書の受付期間に電子納付するか、差額分の三重県収入証紙を貼付した収入証紙納付書（様式 2）を志願変更に係る書類等受付期間内に提出するかのいずれかにより納付します。）

海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜の 志 願 変 更 願

志願者名	
保護者名	
出身中学校等	

（次のア、イのいずれかの（ ）に○を記入する。）

（ ） ア 特別枠選抜から特別枠以外の選抜

（ ） イ 特別枠以外の選抜から特別枠選抜

に志願変更したいので、許可をお願いします。

高等学校名	三重県立	高等学校
課程名		課程
学科・コース名	第 1 志望	科 コース
	第 2 志望	科 コース
入学願書の整理 番号		

特別枠以外の選抜から特別枠選抜に変更する場合は、受付期間内に「海外帰国生徒・外国人生徒等特別枠適用申請書（様式 16）」を提出します。

※ 理由が病気の場合には医師の診断書、その他の理由で証明書が発行されない場合には出身中学校等の校長の証明書を添付する。

令和 年 月 日

高等学校長 宛て

受検番号

志願者名

保護者名

私は、貴校の 課程 科 へ合格しましたが、
コース
都合により、入学を辞退したいので届けます。

(※ 既に中学校等を卒業した志願者については、以下は記入及び押印をしない。)

上記のことを了知していますので、よろしくお願いします。

令和 年 月 日

学校名

長印

通学区域外高等学校入学志願許可申請書

(2 部提出)

三重県教育委員会宛て

私は、下記の理由により、三重県立

高等学校

課程

科

コース

への入学志願の許可を申請します。

令和年 月 日

出身中学校名

ふりがな

志願者名

保護者名

(志願者との関係)

記

志願者現住所	
保護者現住所	
保護者が代わる場合には 新保護者名及び現住所	
志願者と新保護者との関係	

理由 (できるだけ詳細に記入すること。)

(注) 入学志願の理由を証明する書類並びに保護者及び本人の住民票を添付すること。

出身中学校長副申書

(上記の事情に対する副申)

上記のとおり相違ないことを証明します。

令和年 月 日

中学校長

印

教育委員会証明書

上記のとおり相違ないことを証明します。

令和年 月 日

教育委員会教育長

印

通学区域外高等学校入学志願許可書

標題について審査の結果、事情相違ないものと認め、下記のとおり、通学区域外高等学校入学志願を許可します。

記

1 志願者名

2 志願高等学校名

三重県立

高等学校

課程

科

コース

令和年 月 日

三重県教育委員会教育長 福永 和伸

印

三重県立高等学校入学志願許可申請書

(2部提出)

三重県教育委員会宛て

私は、下記の理由により、三重県立

高等学校 全日制課程

科

コース

への入学志願の許可を申請します。

令和 年 月 日

出身中学校名

ふりがな

志願者名

保護者名

(志願者との関係)

記

志願者現住所	
保護者現住所	
保護者が代わる場合には 新保護者名及び現住所	
志願者と新保護者との関係	
理由(できるだけ詳細に記入すること。)	
(注)入学志願の理由を証明する書類並びに保護者及び本人の住民票を添付すること。	

出身中学校長副申書

(上記の事情に対する副申)

上記のとおり相違ないことを証明します。

令和 年 月 日

中学校長

印

三重県立高等学校入学志願許可書

標題について審査の結果、事情相違ないものと認め、下記のとおり、三重県立高等学校入学志願を許可します。

記

1 志願者名

2 志願高等学校名

三重県立

高等学校 全日制課程

科

コース

令和 年 月 日

三重県教育委員会教育長 福永 和伸

印

三重県立高等学校入学志願許可申請書

三重県立 高等学校長 宛て

私は、下記の理由により、三重県立 高等学校 課程 科
コース
への入学志願の許可を申請します。

令和 年 月 日

出身中学校名
ふりがな
志願者名

保護者名
(志願者との関係)

記

志 願 者 現 住 所	
保 護 者 現 住 所	
保護者が代わる場合には 新保護者名及び現住所	
志願者と新保護者との関係	
理 由 (できるだけ詳細に記入すること。)	
(注) 入学志願の理由を証明する書類並びに保護者及び本人の住民票を添付すること。	

出身中学校長副申書 (上記の事情に対する副申)

上記のとおり相違ないことを証明します。

令和 年 月 日

中学校長 

三重県立高等学校入学志願届出書

三重県立 高等学校長 宛て

私は、下記の理由により、三重県立 高等学校 課程 科

コース

への入学を志願したいので、必要書類を添えて届けます。

令和 年 月 日

出身中学校名

ふりがな 志願者名 保護者名

記

志 願 者 現 住 所	
保 護 者 現 住 所	

志願する理由（次のア～ウのいずれかに○を付け、ウの場合は（ ）に理由を記入する。）

ア 三重県内に居住しており、三重県外の中学校等を卒業するため。

イ 保護者の転住を伴わず県外から入学志願できる高等学校に、「通学区域に関する規則」別表特例 3 により入学志願するため。

※ 「保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項」別表に対象部活動が示されている高等学校に入学志願する場合は、入学後に入部する部活動名を【 】に記入する。 【 】

ウ その他（ ）

出身中学校長副申書 （上記の事情に対する副申）

上記のとおり相違ないことを証明します。

令和 年 月 日

中学校長 印

保証人届

三重県教育委員会 宛て

(志願者名) の保証人を以下のとおり定めましたから届け出ます。

令和 年 月 日

保護者住所
保 護 者 名

保証人住所	
保 証 人 名	
志願者との続柄・ 間柄等	

私は、三重県立学校の管理運営に関する規則第21条第2項に定める保証人として、
(志願者名) が三重県立 高等学校に在学中は、
以下の役割を果たすことを承諾します。

令和 年 月 日

保証人住所
保 証 人 名

- ア 生徒の健康、食生活及び日常の生活に関する見守りを行うこと
- イ 生徒と日常的に関わり、生徒の状況を保護者や学校と共有すること
- ウ 生徒の病気やけがの際には、迅速に対応すること
- エ 学校の必要に応じて、学校の教育活動に参加すること

志 願 先 高 等 学 校 長 副 申 書

標記のことについて、保証人との面接等を通じ、上記保証人が保証人としての役割を理解し、その役割を果たす意思がある旨を確認したことを副申します。

令和 年 月 日

三重県立

高等学校長



海外帰国生徒・外国人生徒等特別枠適用申請書

三重県立 高等学校長 宛て

志願者名	
保護者名	

下記の事項に基づき、海外帰国生徒・外国人生徒等の特別枠入学者選抜に係る特別措置の適用を申請します。

記

1	帰国・入国年月日		年		月		日
2	帰国・入国後の編入学校名						
	編入学年		学年				

3	帰国・入国前、帰国・入国後の教育歴										
	学 校 名	所在地 (国名・都市名)	期 間								
				年		月	～		年		月
				年		月	～		年		月
				年		月	～		年		月
				年		月	～		年		月
				年		月	～		年		月

上記のとおり相違なく、かつ、海外帰国生徒・外国人生徒等の特別枠入学者選抜の応募資格を有することを証明します。

(※ 既に中学校等を卒業した志願者については、以下は記入及び押印をしない。)

令和 年 月 日

学校名

長 印

自己推薦書

高等学校名	三重県立	高等学校
課 程 名 (○で囲む)	全日制 ・ 定時制 ・ 通信制	課 程
学科名		科
コース名		コース (ない場合は空欄)
志 願 者 名		

私は、下記の理由により、貴校を志願します。

記

自己推薦理由
(1) 志願理由
(2) 自己アピール

(記入上の注意)

- 1 自己推薦理由の欄は、黒のボールペン又は鉛筆（HB以上の濃さ）等で記入する。
- 2 「（１）志願理由」は志願する動機や理由について記入し、「（２）自己アピール」は自分の長所や特技、中学校生活等で努力したこと、高等学校入学後に特に力を入れたいことなどについて記入する。（箇条書きでもよい。）
- 3 コピーしたものを提出してもよい。

志 願 理 由 書

高等学校名	三重県立	高等学校
課 程 名 (○で囲む)	全 日 制 定 時 制	課 程
学科名		科
コース名 (～部)		部 (ない場合は空欄)
志 願 者 名		

私は、下記の理由により、貴校を志願します。

記

[illegible]

(記入上の注意)

- 1 志願理由の欄は、黒のボールペン又は鉛筆（HB以上の濃さ）等で記入する。
- 2 志願理由は、志願する動機や理由等について明確に記入する。（箇条書きでもよい。）
- 3 コピーしたものを提出してもよい。

スポーツ特別枠自己推薦書

高等学校名	三重県立				高等学校
学科・コース名					科
志 願 者 名					
競技名				競技	男子または女子 のどちらかに○
水泳競技は どちらかに○	水球		競泳		男子 女子

私は、貴校が示すスポーツ特別枠選抜の応募資格を有することから、下記の理由により、貴校を志願します。

記

自己推薦理由

(1) 志願理由

(2) 自己アピール

(記入上の注意)

- 自己推薦理由の欄は、黒のボールペン又は鉛筆（HB以上の濃さ）等で記入する。
- 「(1) 志願理由」は上記の学科及び競技を志願する動機や理由について記入し、
「(2) 自己アピール」は自分の長所や特技、中学校生活等で努力したこと、高等学校入学後に特に力を入れたいことなどについて記入する。（箇条書きでもよい。）
- コピーしたものを提出してもよい。裏面に応募資格を記載している場合は、コピー後に
中学校長印を押印する。 〔裏面につづく〕

応募資格（別表 6 の応募資格に具体的な競技実績等の条件がある場合に記入する。）

--

上記の応募資格の記載は、事実と相違ないことを認めます。

（※ 既に中学校等を卒業した志願者については、以下は記入及び押印をしない。）

令和 年 月 日

学校名

長 印

〔 前期選抜 ・ 連携型中高一貫教育に係る選抜 ・ スポーツ特別枠選抜 〕

結 果 通 知 書

令和 8 年 2 月 1 3 日

学校名

長 様

三重県立

高等学校長 印

令和 8 年度三重県立高等学校（ 前期選抜 ・ 連携型中高一貫教育に係る選抜 ・
スポーツ特別枠選抜 ）において、選考の結果、貴校からの志願者について、下記
のとおり通知します。

記

学科・コース名	受検番号	志 願 者 名	合 否

（注） 合否の欄には合格、不合格の別を記入する。

〔 前期選抜 ・ 連携型中高一貫教育に係る選抜 ・ スポーツ特別枠選抜 ・ 特別選抜 〕

合 格 内 定 通 知 書

令和 8 年 2 月 1 3 日

学 校 名

受検番号 番

名 前 様

三重県立

高等学校長



あなたは、令和 8 年度三重県立高等学校

（ 前期選抜 ・ 連携型中高一貫教育に係る選抜 ・ スポーツ特別枠選抜 ・ 特別選抜 ）

において、選考の結果、

本校 課程の 科
コース に合格が内定したので通知します。

ついては、次のことに十分留意してください。

- 1 合格内定通知書の交付を受けた者については、志願先高等学校及び三重県の専用ウェブページで、合格者として発表します。
- 2 合格内定通知書の交付を受けた者は、三重県立高等学校を改めて志願することはありません。

様式 2 2 志願者一覧表（令和 7 年度中学校等卒業見込者）

※ 受検番号は、高等学校が
出願書類等の受理処理をし
た後に発行される。

三重県立			高等学校			課程	
選 抜	学 科 ・ コー ス	志 願 者 名	入 学 願 書 の 整 理 番 号	手 数 料 の 納 付 確 認		※ 受 検 番 号	備 考
				電 子 納 付 済	収 入 証 紙		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		
				☐	☐		

※ 手数料の納付を確認し、手数料の納入確認欄の□に✓を記入してください。なお、通信制課程
志願者については、手数料の納付確認欄への記入は不要です。

以上の志願者について、入学願書の内容及び手数料の納付について確認をしました。
また、調査書の記載事項に相違ありません。

令和 年 月 日

学校名

長 印

入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書

学校名

職 名

名 前

上記の者は、校長本人であること又は校長より令和 8 年度三重県立高等学校入学者選抜又は三重県立特別支援学校入学者選考に係る事務手続を委任された職員であることを証明する。

令和 年 月 日

学校名

長



再募集受検申請書

令和 年 月 日

学校長 宛て

受験番号

志願者名

保護者名

下記の県立高等学校の再募集に出願することを申請します。

記

○志願する県立高校、学科・コース

三重県立 学校

課程

科

コース

上記のことを了承しています。

(※ 既に中学校等を卒業した志願者については、以下は記入及び押印をしない。)

令和 年 月 日

学校名



受 検 辞 退 届

令和 年 月 日

三重県立 高等学校長 宛て

受検番号

志願者名

保護者名

私は、貴校の 課程 科 へ志願しましたが、
コース

都合により、受検を辞退したいのでお届けします。

上記のことを了知していますので、よろしくお願いします。

(※ 既に中学校等を卒業した志願者については、以下は記入及び押印をしない。)

令和 年 月 日

学校名 長 印

令和8年度三重県立特別支援学校入学者募集要項

令和 8 年度 三重県立 特別支援学校 入学者 募集要項

1 募集する学校及び学科

・盲学校	_____	高等部	普通科 保健理療科 理療科 保健理療科
		高等部専攻科	
・聾学校	_____	幼稚部	
		高等部	普通科（Ⅰ類・Ⅱ類） 産業工芸科 ライフデザイン情報科
		高等部専攻科	産業工芸科 ライフデザイン情報科
・くわな特別支援学校	_____	高等部	普通科
・特別支援学校西日野にじ学園	_____	高等部	普通科
・稲葉特別支援学校	_____	高等部	普通科
・松阪あゆみ特別支援学校	_____	高等部	普通科
・特別支援学校玉城わかば学園	_____	高等部	普通科
・特別支援学校北勢きらら学園	_____	高等部	普通科
・城山特別支援学校	_____	高等部	普通科
・度会特別支援学校	_____	高等部	普通科
・杉の子特別支援学校	_____	高等部	普通科
・杉の子特別支援学校石薬師分校	_____	高等部	普通科
・特別支援学校伊賀つばさ学園	_____	高等部	普通科
・特別支援学校東紀州くろしお学園	_____	高等部	普通科
・特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校	_____	高等部	普通科
・かがやき特別支援学校緑ヶ丘校	_____	高等部	普通科
・かがやき特別支援学校草の実校	_____	高等部	普通科

2 応募資格のある者

学校教育法施行令第 22 条の 3 に定める障がい者のうち、特別支援学校の当該部科における教育を必要とする者で、下記のうち幼稚部にあっては①に、高等部にあっては②に、高等部専攻科にあっては③に該当する者とする。また、原則として保護者の住所が県内にある者とする。

ただし、各特別支援学校の教育部門及び各特別支援学校へ志願できる区域は、表 1 のとおりとする。

- ① 令和 8 年 4 月 1 日現在で満 3 歳以上満 5 歳以下の者
- ② ア 学校教育法第 1 条に規定する特別支援学校の中学部もしくは中学校もしくは義務教育学校を卒業した者又は令和 8 年 3 月卒業見込みの者又はこれと同等以上の学力を有する者
イ 学校教育法第 1 条に規定する中等教育学校の前期課程を修了した者又は令和 8 年 3 月修了見込みの者又はこれと同等以上の学力を有する者
- ③ 学校教育法第 1 条に規定する特別支援学校の高等部もしくは高等学校の卒業者もしくは令和 8 年 3 月卒業見込みの者又はこれと同等以上の学力を有する者

＜表 1＞ 各特別支援学校の設置教育部門及び志願できる区域

学 校 名	教育部門	志願できる区域
盲学校	視覚障がい	原則として保護者の住所が県内にある者
聾学校	聴覚障がい	原則として保護者の住所が県内にある者
くわな特別支援学校	知的障がい	原則として保護者の住所が桑名市、桑名郡、いなべ市、員弁郡にある者
特別支援学校西日野にじ学園	知的障がい	原則として保護者の住所が四日市市、三重郡にある者
稲葉特別支援学校	知的障がい	原則として保護者の住所が津市にある者
松阪あゆみ特別支援学校	知的障がい	原則として保護者の住所が松阪市、多気郡にある者
特別支援学校玉城わかば学園	知的障がい	原則として保護者の住所が伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡にある者
特別支援学校北勢きらら学園	肢体不自由	原則として保護者の住所が四日市市、三重郡以北にある者
城山特別支援学校	肢体不自由	原則として保護者の住所が津市にある者
度会特別支援学校	肢体不自由	原則として保護者の住所が松阪市以南、志摩市、度会郡以北にある者
杉の子特別支援学校	肢体不自由	原則として保護者の住所が鈴鹿市、亀山市にある者及び独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院に入院し治療を必要とする者
杉の子特別支援学校石薬師分校	知的障がい	原則として保護者の住所が鈴鹿市、亀山市にある者
特別支援学校伊賀つばさ学園	知的障がい 肢体不自由	原則として保護者の住所が伊賀市、名張市にある者
特別支援学校東紀州くろしお学園	知的障がい 肢体不自由	原則として保護者の住所が熊野市、南牟婁郡にある者
特別支援学校東紀州くろしお学園 おわせ分校	知的障がい 肢体不自由	原則として保護者の住所が尾鷲市、北牟婁郡にある者
かがやき特別支援学校緑ヶ丘校	病弱	原則として独立行政法人国立病院機構三重病院に入院し治療を必要とする者
かがやき特別支援学校草の実校	肢体不自由	原則として三重県立子ども心身発達医療センター（整形外科または小児整形外科）もしくは、独立行政法人国立病院機構三重病院に入院し治療を必要とする者

※障害児入所施設等に入所をしている者は、令和 8 年 4 月に居住を予定している区域にある特別支援学校を志願するものとする。

3 選考

(1) 志願者の応募手続

入学者選考の応募手続きを、次の a、b いずれかの方法でおこなう。

- a 三重県立特別支援学校入学者選考 Web 出願システム（以下「Web 出願システム」という。）により入学願書に必要な情報を入力する。

Web 出願システムによる入学者選考入学願書入力受付期間
令和 8 年 1 月 8 日（木）9 時から令和 8 年 1 月 16 日（金）17 時まで

- b 志願する特別支援学校所定の入学願書に必要事項を記入し、在学している中学校等へ提出する。

(2) 出願書類及び提出先

原則として出身学校長が、志願する特別支援学校所定の入学出願書類を志願先特別支援学校長へ提出することとする。なお、Web 出願システムにて受付した者の入学願書については、この限りでない。また、提出の際には入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式２３）の提示を必要とする。

(3) 出願書類の受付（土曜日及び日曜日は除く。）

受 付 期 間	令和８年１月２３日（金）から令和８年１月２７日（火）まで
受 付 時 間	９時から１６時まで

(4) 選考期日

令和８年２月４日（水）

(5) 選考内容

各特別支援学校の選考内容は以下のとおりとする。

学 校 名	選 考 内 容
盲学校	＜普通科＞ 学力検査（国語・社会・数学・理科・英語）及び面接 ただし、Ａ課程・Ｂ課程の志願者については、実態に合わせた諸検査及び面接 ＜保健医療科＞ 総合問題、小論文、面接及び運動機能検査 ＜高等部専攻科＞ 総合問題、小論文、面接及び運動機能検査 ※ 筆記が困難な者については、配慮申請に基づいて対応
聾学校	＜幼稚部＞ 発達検査及び行動観察 ＜高等部＞ 学力検査（国語・社会・数学・理科・英語）及び面接 ただし、普通科Ⅱ類については、実態に合わせた学力検査及び面接 ＜高等部専攻科＞ 学力検査（国語・数学）、小論文、適性検査及び面接
くわな特別支援学校	実態に合わせた諸検査（作業能力検査等）及び面接
特別支援学校西日野にじ学園	実態に合わせた諸検査（作業能力検査等）及び面接
稲葉特別支援学校	実態に合わせた諸検査（作業能力検査等）及び面接
松阪あゆみ特別支援学校	実態に合わせた諸検査（作業能力検査等）及び面接
特別支援学校玉城わかば学園	実態に合わせた諸検査（作業能力検査等）及び面接
特別支援学校北勢きらら学園	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接
城山特別支援学校	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接
度会特別支援学校	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接
杉の子特別支援学校	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接
杉の子特別支援学校石薬師分校	実態に合わせた諸検査（作業能力検査等）及び面接
特別支援学校伊賀つばさ学園	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接

学 校 名	選 考 内 容
特別支援学校東紀州くろしお学園	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接
特別支援学校東紀州くろしお学園 おわせ分校	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接
かがやき特別支援学校緑ヶ丘校	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接
かがやき特別支援学校草の実校	実態に合わせた諸検査（学力検査、作業能力検査等）及び面接

(6) 選考場所

志願先特別支援学校で行う。

(7) その他

出願にあたっては、令和8年1月22日（木）までに、志願先特別支援学校において教育相談を必ず受けることとする。

(8) 追選考

① 追選考を受けられる者

志願先特別支援学校において教育相談を受けた者のうち、選考の当日に病気等のやむを得ない理由により、選考の一部またはすべてを受けられなかった者で、追選考を希望する者とする。

② 受検の手続き

令和8年2月4日（水）12時までに出身中学校等の校長を通して志願先特別支援学校長に追選考受検の旨を申し出る。手続きについては、各特別支援学校に問い合わせることとする。

③ 選考期日

令和8年2月10日（火）

④ 選考場所

志願先特別支援学校

4 合格者の決定及び発表

合格者は、各学校の入学者判定会議の審議に基づき、校長が決定する。

令和8年2月13日（金）9時30分から16時までに各特別支援学校において出身中学校長に結果通知書を手交するとともに、郵送により本人宛て通知を行う。なお、通知書を受領する際は入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式23）の提示を必要とする。

合格の通知を受けた者は、他の三重県立特別支援学校または三重県立高等学校を改めて志願することとはできないものとする。

5 再募集

(1) 再募集を受けられる者

志願先特別支援学校において、令和8年1月22日（木）までに教育相談を受けた者のうち、再募集による選考を希望する者とする。なお、再募集による選考に出願した者で、高等学校後期選抜受検者のうち、合格の決定を受けた者は、出身中学校等の校長を通して志願先特別支援学校長に、速やかに再募集による選考の辞退を申し出るとともに、受検辞退届を提出することとする。

また、特別支援学校の再募集による選考を受検する者は、高等学校の再募集（全日制、昼間定時制）及び再募集以降に行う選抜を受検することはできないものとする。

(2) 志願者の応募手続

再募集の応募手続を、次の a、b いずれかの方法でおこなう。

- a 三重県立特別支援学校入学者選考 Web 出願システム（以下「Web 出願システム」という。）により入学願書に必要な情報を入力する。

Web 出願システムによる再募集入学願書入力受付期間
令和 8 年 2 月 1 3 日（金）9 時から令和 8 年 2 月 1 8 日（水）1 7 時まで

- b 志願する特別支援学校所定の入学願書に必要事項を記入し、在学している中学校等へ提出する。

(3) 出願書類及び提出先

原則として出身学校長が、志願する特別支援学校所定の入学出願書類を志願先特別支援学校長へ提出することとする。なお、Web 出願システムにて受付した者の入学願書については、この限りでない。また、提出の際には、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式 2 3）の提示を必要とする。

(4) 出願書類の受付

受 付 期 間	令和 8 年 2 月 2 4 日（火）から令和 8 年 2 月 2 6 日（木）まで
受 付 時 間	9 時から 1 6 時まで

(5) 選考期日

令和 8 年 3 月 1 8 日（水）

(6) 選考内容

選考時の内容と同様

(7) 選考場所

志願先特別支援学校

(8) 合格者の決定及び発表

合格者は、各学校の入学者判定会議の審議に基づき、校長が決定する。

令和 8 年 3 月 1 9 日（木）9 時 3 0 分から 1 6 時までに各特別支援学校において出身中学校長に結果通知書を手交するとともに、郵送により本人宛て通知を行う。なお、通知書を受領する際は入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式 2 3）の提示を必要とする。

(9) 追選考

再募集による選考の志願者のうち、選考の当日に病気等のやむを得ない理由により、選考を受けられなかった者、及び高等学校後期選抜の追検査を受検し合格とならなかった者を対象に実施する。受検者の状況に応じて、適宜学校において対応する。

6 その他

- (1) 入学検定料、入学料及び授業料はいずれも無料とする。
- (2) 家庭の生活状況に応じて、「特別支援学校への就学奨励に関する法律」の適用を受け、就学に必要な経費が支給される。
- (3) 出願に必要な所定の用紙の請求及び問い合わせは、出願を希望する学校に行うこととする。
- (4) 選考内容の詳細については、各学校に問い合わせることとする。

〈各校連絡先〉

・ 三重県立盲学校	〒514-0819 津市高茶屋四丁目 39-1 (電話 059-234-2188 FAX 059-234-2189)
・ 三重県立聾学校	〒514-0815 津市大字藤方 2304-2 (電話 059-226-4774 FAX 059-224-8252)
・ 三重県立くわな特別支援学校	〒511-0811 桑名市大字東方字尾弓田 1073 (電話 0594-87-6061 FAX 0594-25-1165)
・ 三重県立特別支援学校西日野にじ学園	〒510-0943 四日市市西日野町 4070-35 (電話 059-322-2558 FAX 059-322-2559)
・ 三重県立稲葉特別支援学校	〒514-1252 津市稲葉町字上野 4101 (電話 059-252-1221 FAX 059-252-1225)
・ 三重県立松阪あゆみ特別支援学校	〒515-0044 松阪市久保町 1846-195 (電話 0598-30-8170 FAX 0598-30-5066)
・ 三重県立特別支援学校玉城わかば学園	〒519-0427 度会郡玉城町宮古 726-17 (電話 0596-58-2716 FAX 0596-58-2918)
・ 三重県立特別支援学校北勢きらら学園	〒512-1203 四日市市下海老町字高松 161 (電話 059-327-0541 FAX 059-327-0543)
・ 三重県立城山特別支援学校	〒514-0818 津市城山一丁目 5-29 (電話 059-234-3431 FAX 059-234-3432)
・ 三重県立度会特別支援学校	〒516-2102 度会郡度会町大野木 1825 (電話 0596-62-0001 FAX 0596-62-0002)
・ 三重県立杉の子特別支援学校	〒513-0004 鈴鹿市加佐登三丁目 2-2 (電話 059-379-1611 FAX 059-379-1632)
・ 三重県立杉の子特別支援学校石薬師分校	〒513-0012 鈴鹿市石薬師町字寺東 452 (電話 059-373-2727 FAX 059-373-2728)
・ 三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園	〒518-0616 名張市美旗町南西原 229-2 (電話 0595-67-1050 FAX 0595-65-9995)

- ・ 三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園
〒519-4327 熊野市金山町 2496
(電話 0597-89-2623 FAX 0597-89-2920)
- ・ 三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園
おわせ分校
〒519-3637 尾鷲市光ヶ丘 28-61
(電話 0597-23-1531 FAX 0597-23-1544)
- ・ 三重県立かがやき特別支援学校緑ヶ丘校
〒514-0125 津市大里窪田町 357
(電話 059-232-1139 FAX 059-232-0104)
- ・ 三重県立かがやき特別支援学校草の実校
〒514-0125 津市大里窪田町 340-5
(電話 059-253-2036 FAX 059-253-2061)

三重県立特別支援学校(高等部設置校) 配置図



令和8年度三重県立高等学校入学者選抜・三重県立特別支援学校入学者選考実施日程（詳細）

		高 等 学 校			特 別 支 援 学 校【特】
月	日	曜	全 日 制 課 程【全】	定 時 制 課 程【定】	通 信 制 課 程【通】
12	1	月	【全・定・通】Web出願システムによる前期選抜等入学願書入力受付期間 (令和7年12月1日～令和8年1月15日)		
	2	火			
	3	水			
	4	木			
	5	金			
	6	土			
	7	日			
	8	月			
	9	火			
	10	水			
	11	木			
	12	金			
	13	土			
	14	日			
	15	月			
	16	火			
	17	水			
	18	木			
	19	金			
	20	土			
	21	日			
	22	月			
	23	火			
	24	水			
	25	木			
	26	金			
	27	土			
	28	日			
	29	月			
	30	火			
	31	水			
1	1	木			
	2	金			
	3	土			
	4	日			
	5	月			
	6	火			
	7	水			
	8	木			
	9	金			
	10	土			
	11	日			
	12	月			
	13	火			
	14	水			
	15	木			
	16	金			
	17	土			
	18	日			
	19	月			
	20	火			
	21	水			
	22	木			
	23	金			
	24	土			
	25	日			
	26	月			
	27	火			
	28	水			
	29	木			
	30	金			
	31	土			
2	1	日			
	2	月			
	3	火	【全・定】前期選抜等の検査(2月3日、4日) ※ 日程等の詳細については各高等学校が指定する。		【通】前期選抜の検査(2月3日)
	4	水			【特】選考(2月4日)
	5	木	【全・定・通】Web出願システムによる後期選抜入学願書入力受付期間 (2月5日～20日)		
	6	金			
	7	土			
	8	日			
	9	月			
	10	火	【全・定・通】前期選抜等の追検査(2月10日)		【特】追選考(2月10日)
	11	水	(建 国 記 念 の 日)		
	12	木			
	13	金	【全・定・通】前期選抜等の合格内定通知(2月13日)		
	14	土			
	15	日			
	16	月	Web出願システムによる後期選抜調査書等受付期間		
	17	火	【全】(2月16日～26日)	【定・通】(2月16日～25日)	
	18	水			
	19	木			
	20	金			
	21	土			
	22	日			
	23	月	(天 皇 誕 生 日)		
	24	火	【全】後期選抜出願書類 受付期間 (2月24日～26日)	【定・通】後期選抜出願書類受付期間 (2月24日～25日)	【特】再募集 出願書類の受付期間 (2月24日～26日)
	25	水			
	26	木			
	27	金	【全】Web出願システム による志願変更の入学 願書入力、調査書及び 志願校及び志願学科等 変更願等受付期間 (2月27日～3月5日)	【定・通】Web出願システムによる志願変更の入学 願書入力、調査書及び志願校及び志願学科等変更願 等受付期間(2月27日～3月4日)	
	28	土			

出願を希望する学校への教育相談期間
1月22日まで

				高 等 学 校			特 別 支 援 学 校【特】
月	日	曜		全 日 制 課 程【全】	定 時 制 課 程【定】	通 信 制 課 程【通】	
3	1	日					
	2	月					
	3	火	↑	【全】後期選抜の 志願変更書類 受付期間 (3月3日～5日)	↑	【定・通】後期選抜の志願変更書類受付期間 (3月3日～4日)	
	4	水	↓		↓		
	5	木	↓				
	6	金					
	7	土					
	8	日					
	9	月					
	10	火		【全・定・通】後 期 選 抜 の 検 査 (3月10日)			
	11	水					
	12	木					
	13	金					
	14	土					
	15	日					
	16	月					
				【全・定・通】合 格 者 の 発 表 (前期選抜等を含む)			
	17	火	↑	【全・定】We b 出願システムによる再募集の 入学願書入力及び調査書等受付期間 (3月17日～19日)	↑	【通】We b 出願システム による入学願書入力 及び調査書等の受付 期間 (3月17日～26日)	
	18	水	↑	【全・定】追検査受検・再募集の出願書類受付期間 (3月18日～19日)	↑	【通】追検査受検の書類 受付期間 (3月18日～19日)	【特】再募集の選考 (3月18日)
	19	木	↓		↓		【特】再募集の合格者発表 (3月19日)
	20	金		(春 分 の 日)			
	21	土					
	22	日					
	23	月		【全・定】追検査・再募集の検査(3月23日)		【通】追検査(3月23日)	
	24	火					
				【全・定】追検査・再募集の合格者発表 (3月25日)		【通】追検査の合格者発表 (3月25日)	
	25	水	↑	【(夜間)定】 We b 出願システム による追加募集の 入学願書入力及び 調査書等受付期間 追加募集の出願書類 受付期間 (3月25日～26日)	↑	【通】再募集の出願書類 受付期間 (3月25日～26日)	
	26	木	↓		↓		
	27	金		【(夜間)定】 追加募集の検査(3月27日)		【通】再募集の検査 (3月27日)	
	28	土					
	29	日					
	30	月					
	31	火		【(夜間)定】 追加募集の合格者発表 (3月31日)		【通】再募集の合格者発表 (3月31日)	

※ 土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に定める休日は、窓口での出願書類等の受付を行わない。

※ 出願書類等の窓口受付時間は、校種、課程等で異なるので、実施要項及び募集要項で確認する。

令和８年度入学者用

三重県立高等学校入学者選抜実施要項
三重県立特別支援学校入学者募集要項

令和７年１０月

三重県教育委員会

〒514-8570 三重県津市広明町１３番地

<三重県立高等学校入学者選抜に関する問い合わせ先>

高校教育課 キャリア教育班

TEL ０５９-２２４-２９１３

URL <https://www.pref.mie.lg.jp/common/04/ci400002348.htm>

<三重県立特別支援学校入学者募集に関する問い合わせ先>

特別支援教育課

TEL ０５９-２２４-２９６１

URL <https://www.pref.mie.lg.jp/SHIENKYO/HP/index.htm>
